

2024 ACADEMIC GUIDE

# 理工学府要覧

2024 年度入学者用

群馬大学大学院理工学府

GUNMA UNIVERSITY

Graduate School of Science and Technology

# 目 次

1. 群馬大学大学院学則	1
2. 群馬大学大学院成績評価基準	20
3. 成績評価の確認について	20
4. 理工学府学位論文評価基準	21
5. 群馬大学学位規則	22
6. 群馬大学大学院理工学府規程	31
7. 理工学府課程表・講義要目（博士前期課程）＜別表第1＞	38
8. 理工学府課程表・講義要目（博士後期課程）＜別表第2＞	102
9. 理工学府課程表・講義要目（大学院共通科目）	142
10. 重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム（重粒子線医理工連携コース）	144
11. 日系企業人材育成のための知能・制御教育プログラム	145
12. 英語だけで学位取得が可能なプログラム（修士・博士 土木環境コース）	146
13. 教員名簿	148

建物配置図及び教室配置図

# 1. 群馬大学大学院学則

	平成 16. 4. 1	制	定	
改正	平成 17. 4. 1	平成 17. 5. 19	平成 17. 6. 10	
	平成 18. 4. 1	平成 18. 4. 20	平成 19. 4. 1	
	平成 19. 12. 26	平成 20. 4. 1	平成 22. 4. 1	
	平成 22. 6. 1	平成 23. 1. 26	平成 23. 4. 1	
	平成 23. 7. 1	平成 24. 4. 1	平成 25. 4. 1	
	平成 26. 4. 1	平成 29. 4. 1	平成 30. 4. 1	
	平成 31. 4. 1	令和 2. 4. 1	令和 2. 12. 25	
	令和 3. 4. 1	令和 4. 4. 1	令和 5. 4. 1	
	令和 6. 4. 1			

## 第1章 総 則

(趣 旨)

第1条 この学則は、群馬大学学則（平成16年4月1日制定）第5条第2項の規定により、群馬大学大学院（以下「本大学院」という。）について、必要な事項を定める。

(目 的)

第2条 本大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。

2 各研究科又は専攻ごとの人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、別に定める。

(自己評価等)

第3条 本大学院は、その教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、本大学院における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 本大学院は、前項の点検及び評価の結果について、本学の職員以外の者による検証を行うものとする。

3 第1項の点検及び評価並びに前項の検証の実施に関し必要な事項は、別に定める。

## 第2章 組 織

(研究科及び学府)

第4条 本大学院に、次の研究科及び学府を置く。

教育学研究科

社会情報学研究科

医学系研究科

保健学研究科

理工学府

- 2 各研究科及び学府（以下「各研究科等」という。）に、別表第1のとおり、講座、領域及び部門を置く。
- 3 各研究科等に科長及び学府長を置く。
- 4 教育学研究科及び社会情報学研究科の科長は、当該研究科の基礎となる学部の長をもって充てる。
- 5 理工学府の学府長は、理工学部長を兼ねる。

（課 程）

第5条 社会情報学研究科及び医学系研究科に修士課程を、医学系研究科、保健学研究科及び理工学府に博士課程を、教育学研究科に専門職学位課程を置く。

- 2 保健学研究科及び理工学府の博士課程は、前期2年の課程（以下「博士前期課程」という。）及び後期3年の課程（以下「博士後期課程」という。）に区分し、博士前期課程は、これを修士課程として取り扱う。
- 3 修士課程及び博士前期課程においては、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うものとする。
- 4 博士課程においては、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うものとする。
- 5 専門職学位課程においては、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うものとする。

（専攻及び収容定員等）

第6条 本大学院各研究科及び学府の専攻及び収容定員等は、次のとおりとする。

研究科及び学府	課 程	専 攻	入学定員 人	収容定員 人
教育学研究科	専門職学位課程	教育実践高度化	20	40
社会情報学研究科	修士課程	社会情報学	14	28
医学系研究科	修士課程	生命医科学	15	30
	博士課程	医 科 学	57	228
保健学研究科	博士前期課程	保 健 学	50	100
	博士後期課程	保 健 学	10	30
理工学府	博士前期課程	理 工 学	300	600
	博士後期課程	理 工 学	39	117

（修 業 年 限）

第7条 修士課程の標準修業年限は、2年とする。

- 2 医学系研究科博士課程の標準修業年限は、4年とする。
- 3 保健学研究科博士課程及び理工学府博士課程の標準修業年限は、5年とし、博士前期課程の標準修業年限は2年、博士後期課程の標準修業年限は3年とする。

- 4 専門職学位課程の標準修業年限は、2年とする。

### 第3章 学年，学期及び休業日

(学 年)

第8条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学 期)

第9条 学期を分けて、次の2学期とする。

前 学 期 4月1日から9月30日まで

後 学 期 10月1日から翌年3月31日まで

- 2 前項の規定にかかわらず、学長が必要と認めるときは、前学期及び後学期の期間を変更することができる。

(休 業 日)

第10条 休業日は、次の各号のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 土曜日

(3) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

(4) 春季休業

(5) 夏季休業

(6) 冬季休業

(7) 学年末休業

- 2 前項第4号から第7号までの休業日の期間は、各研究科長及び学府長の申出に基づき学長が定める。

- 3 学長が必要と認めるときは、休業日を変更し、又は臨時に休業することがある。

### 第4章 教育課程等

(教 育 課 程)

第10条の2 本大学院は、学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第165条の2第1項第1号及び第2号の規定により定める方針に基づき、必要な授業科目を開設するとともに、学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）の計画を策定し、体系的に教育課程を編成する。ただし、教育学研究科教育実践高度化専攻にあつては、研究指導を除くものとする。

- 2 教育課程の編成に当たっては、本大学院は、専攻分野に関する高度の専門知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮する。

- 3 本大学院における授業科目は、次の各号のとおりとする。

(1) 各研究科等において開設する授業科目

(2) 全研究科等を対象とした大学院共通の授業科目（以下「大学院共通科目」という。）

(教 育 方 法)

第11条 本大学院の教育は、授業科目の授業及び研究指導によって行う。ただし、教育学研究科教育実践高度化専攻にあつては、研究指導を除くものとする。

- 2 教育学研究科教育実践高度化専攻においては、その目的を達成し得る実践的な教育を行うよう専攻

分野に応じ事例研究、現地調査又は双方向若しくは多方向に行われる討論若しくは質疑応答その他の適切な方法により授業を行うなど適切に配慮しなければならない。

(授業科目)

第12条 各研究科等における授業科目、単位数は、各研究科等が別に定める。

- 2 大学院共通科目は、群馬大学大学院共通科目に関する内規の定めるところによる。
- 3 各研究科等が、一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法を併用により行う場合の単位数を計算するに当たっては、その組み合わせに応じ、1年間の授業時間を考慮して当該研究科等が定める時間の授業をもって1単位とする。

(成績評価基準等の明示等)

第12条の2 各研究科等は、授業及び研究指導の方法及び内容並びに1年間の授業及び研究指導の計画をあらかじめ明示するものとする。ただし、教育学研究科教育実践高度化専攻にあっては、研究指導を除くものとする。

- 2 各研究科等は、学修の成果及び学位論文に係る評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。ただし、教育学研究科教育実践高度化専攻にあっては、学位論文に係る評価を除くものとする。

(履修方法)

第13条 各研究科等における履修方法は、別に定める。

- 2 履修科目の選択に当たっては、あらかじめ研究指導担当の教員（以下「指導教員」という。）の指導を受けなければならない。指導教員は教授をもって充てるが、各研究科等において教育研究上必要と認めるときは、准教授をもって代えることができる。

第13条の2 各研究科等において、教育上有益と認めるときは、学生に、群馬大学学則（平成16年4月1日制定。以下「本学学則」という。）第35条に規定する開設授業科目を履修させることができる。

- 2 前項の規定により学生が修得した単位は、課程修了の要件となる単位としない。

(他の大学院等の授業科目の履修)

第14条 各研究科等において、教育上有益と認めるときは、学生に他の大学院（外国の大学院を含む。以下同じ。）の授業科目を履修させることができる。

- 2 各研究科等において、教育上有益と認めるときは、学生が休学期間中に他の大学院において履修した授業科目について修得した単位を、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- 3 前2項の規定により学生が修得した単位は、合わせて15単位を限度として、課程修了の要件となる単位として取り扱うことができる。
- 4 教育学研究科教育実践高度化専攻にあっては、学生が他の大学院等において履修した授業科目について修得した単位を、前項の規定にかかわらず、当該専攻が修了要件と定める45単位以上の2分の1を超えない範囲で当該専攻における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

第15条 各研究科等（教育学研究科教育実践高度化専攻は除く。）において、教育研究上有益と認めるときは、学生に他の大学院又は研究所等において研究指導の一部を受けさせることができる。ただし、修士課程及び博士前期課程の学生の当該研究指導を受ける期間は、1年を超えないものとする。

(副指導教員)

第15条の2 各研究科等(教育学研究科教育実践高度化専攻は除く。)において、教育研究上有益と認めるときは、当該研究科等の教員及び他の研究科等の教員を副指導教員として、学生に、研究指導の一部を受けさせることができる。

2 前項の規定による副指導教員は教授をもって充てるが、各研究科等において教育研究上必要と認めるときは、准教授をもって代えることができる。

(入学前の既修得単位の取扱い)

第16条 各研究科等においては、教育上有益と認めるときは、学生が本大学院に入学する前に大学院において履修した授業科目について修得した単位(大学院設置基準(昭和49年文部省令第28号)第15条に定める科目等履修生として修得した単位を含む。)を、本大学院に入学した後の本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定により修得したものとみなす単位は、15単位を超えないものとする。

3 前2項の規定により修得したものとみなす単位数及び第14条の規定により本大学院において修得したものとみなす単位数は、合わせて20単位を超えないものとする。

4 教育学研究科教育実践高度化専攻にあつては、第1項の規定により修得したものとみなすことのできる単位数(大学院設置基準(昭和49年文部省令第28号)第15条に定める科目等履修生として修得した単位数を含む。)は、転学等の場合を除き、当該専攻において修得した単位以外のものについては、第2項の規定にかかわらず、第14条第4項の規定及び第22条の2第2項の規定により免除する単位数と合わせて45単位以上の2分の1を超えないものとする。

(長期にわたる教育課程の履修)

第16条の2 各研究科等は、当該研究科等の定めるところにより、学生が、職業を有している等の事情により、第7条に定める標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

2 前項の計画的な履修の期間は、第42条に定める在学年限を越えることはできない。

(教育方法の特例)

第17条 大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

(履修の認定)

第18条 授業科目の履修単位は、試験(口頭又は筆答)又は研究報告により認定するものとする。

2 病気その他やむを得ない事情のため正規の試験を受けることができなかつた者は、追試験を受けることができる。

3 各授業科目の試験又は研究報告の成績は、評語によりA、B、C、Dの4種とし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。ただし、不合格の科目については再試験を受けることができる。

4 各科目履修の認定は、学期の終わりに行うものとする。

(学位論文の審査)

第19条 修士課程及び博士前期課程の学位論文の審査は、当該教授会で選定する3人以上の教授が行うものとする。ただし、当該教授会が必要と認めるときは、准教授をもって代えることができる。

2 医学系研究科博士課程の学位論文の審査は、教授会が選定する3人以上の教授で構成する審査委員

会が行うものとする。

3 博士後期課程の学位論文の審査は、教授会が選定する3人以上の教授で構成する審査委員会が行うものとする。ただし、教授会が必要と認めたときは、准教授をもって代えることができる。

4 前3項の学位論文の審査に当たっては、当該教授会が必要と認めたときは、他の大学院又は研究所等の教員等の協力を得ることができる。

(最終試験)

第20条 最終試験は、所定の単位を修得した者で、学位論文の審査に合格した者につき、当該教授会が口頭又は筆答により行うものとする。

## 第5章 課程修了及び学位授与

(修士課程修了の認定)

第21条 修士課程及び博士前期課程修了の認定は、2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該修士課程の目的に応じ、当該研究科の行う修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験の合格によって行う。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者と各研究科等において認めた場合には、1年以上在学すれば足りるものとする。

(博士課程修了の認定)

第22条 博士課程修了の認定は、医学系研究科にあつては4年、保健学研究科及び理工学府にあつては5年（修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験の合格によって行う。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者と当該研究科等において認めた場合には、3年（修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。

2 大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）第3条第3項の規定により標準修業年限を1年以上2年未満とした修士課程を修了した者及び前条第1項ただし書の規定による在学期間をもって修士課程を修了した者の保健学研究科及び理工学府の博士課程修了の認定は、前項中「5年（修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。）」とあるのは「修士課程における在学期間に3年を加えた期間」と、「3年（修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。）」とあるのは「3年（修士課程における在学期間を含む。）」と読み替えて、同項の規定を適用する。

3 前2項の規定にかかわらず、学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第156条の規定により、大学院への入学資格に関し修士の学位若しくは専門職学位（学位規則（昭和28年文部省令第9号）第5条の2に規定する専門職学位をいう。以下同じ。）を有する者と同等以上の学力があると認められた者又は専門職学位課程を修了した者が、博士後期課程に入学した場合の博士課程の修了の認定は、3年（専門職大学院設置基準（平成15年文部科学省令第16号）第18条第1項の法科大学院の課程を修了した者にあつては、2年）以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験の合格によって行う。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者と研究科等において認めた場合には、1年（標準修業年限が1年以上2年未満の専門職学位課程を修了した者にあつては、3年から当該1年以上2年未満の期間を減じた期間）以



上在学すれば足りるものとする。

(専門職学位課程修了の認定)

第 22 条の 2 専門職学位課程修了の認定は、2 年以上在学し、所定の単位の修得によって行う。

2 教育学研究科教育実践高度化専攻にあっては、教育上有益と認めるときは、当該専攻に入学する前の幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律（平成 18 年法律第 77 号）第 2 条第 7 項に規定する幼保連携型認定こども園（以下「小学校等」という。）の教員としての実務の経験を有する者について、10 単位を超えない範囲で、高度の専門的な能力及び優れた資質を有する教員に係る実践的な能力を培うことを目的として小学校等その他の関係機関で行う実習により修得する単位の全部又は一部を免除することができる。

(在学期間の短縮)

第 22 条の 3 各研究科等において、修士課程、専門職学位課程、博士前期課程及び医学系研究科博士課程に入学する前に修得した単位（ただし、専門職学位課程以外の課程においては学校教育法第 102 条第 1 項の規定により入学資格を有した後、修得したものに限る。）を各研究科等において修得したものとみなす場合であって、当該単位の修得により各研究科等の修士課程、専門職学位課程、博士前期課程及び医学系研究科博士課程の教育課程の一部を履修したと認めるときは、当該単位数、その修得に要した期間その他を勘案して 1 年を超えない範囲で各研究科等が認めた期間、在学したものとみなすことができる。ただし、この場合においても、修士課程及び専門職学位課程については、当該課程に少なくとも 1 年以上在学するものとする。

(学位授与)

第 23 条 第 21 条から第 22 条の 2 までの規定により課程修了の認定を得た者には、次の区分に従い学位を授与する。

教育学研究科 教職修士（専門職）

社会情報学研究科 修士（社会情報学）

医学系研究科 修士（生命医科学）、博士（医学）

保健学研究科 修士（保健学）、修士（看護学）

博士（保健学）、博士（看護学）

理工学府 修士（理工学）、博士（理工学）

2 前項に定めるもののほか、博士の学位は、本大学院の行う博士論文の審査に合格し、かつ、博士課程の修了者と同等以上の学力を有すると確認された者にも授与することができる。

3 学位の授与に関し必要な事項は、別に定める。

(教育職員免許状授与の所要資格の取得)

第 24 条 教育職員免許法（昭和 24 年法律第 147 号）第 4 条に規定する学校の種類ごとの教諭一種免許状を有する者で、当該免許状に係る専修免許状の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則（昭和 29 年文部省令第 26 号）に定める所要単位の修得しなければならない。

2 本大学院の研究科及び学府において、当該所要資格を取得できる免許状の種類等は、別表第 2 に掲げるとおりとする。

## 第6章 入学，休学，退学，進学等

(入学の時期)

第25条 入学の時期は，学年の始めとする。ただし，学年の途中においても，学期の区分に従い，入学させることがある。

(入学資格)

第26条 修士課程，博士前期課程及び専門職学位課程に入学することのできる者は，次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 大学を卒業した者
  - (2) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者
  - (3) 外国において，学校教育における16年の課程を修了した者
  - (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
  - (5) 我が国において，外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
  - (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について，当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において，修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により，学士の学位に相当する学位を授与された者
  - (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
  - (8) 文部科学大臣の指定した者
  - (9) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第102条第2項の規定により本大学院以外の大学院に入学した者であって，本大学院において，大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認められたもの
  - (10) 本大学院において，個別の入学資格審査により，大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で，22歳に達したもの
  - (11) 大学に3年以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）で，本学の定める単位を優秀な成績で修得したと認めるもの（当該単位の修得の状況及びこれに準ずるものとして文部科学大臣が定めるものに基づき，これと同等以上の能力及び資質を有すると認めるものを含む。）
- 2 医学系研究科博士課程に入学することのできる者は，次の各号のいずれかに該当する者とする。
- (1) 大学（医学，歯学又は修業年限6年の薬学若しくは獣医学の課程）を卒業した者
  - (2) 外国において，学校教育における18年の課程（最終の課程は医学，歯学，薬学又は獣医学）を修了した者
  - (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学

校教育における 18 年の課程（最終の課程は医学，歯学，薬学又は獣医学）を修了した者

- (4) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 18 年の課程（最終の課程は医学，歯学，薬学又は獣医学）を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
  - (5) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が 5 年以上である課程（医学，歯学，薬学又は獣医学）を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
  - (6) 文部科学大臣の指定した者
  - (7) 学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 102 条第 2 項の規定により本大学院以外の大学院（医学，歯学，薬学又は獣医学を履修する課程に限る。）に入学した者であって、本大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
  - (8) 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学（医学，歯学又は修業年限 6 年の薬学若しくは獣医学の課程）を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、24 歳に達したもの
  - (9) 大学の医学，歯学又は修業年限 6 年の薬学若しくは獣医学の課程に 4 年以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）で、本学の定める単位を優秀な成績で修得したと認めるもの（当該単位の修得の状況及びこれに準ずるものとして文部科学大臣が定めるものに基づき、これと同等以上の能力及び資質を有すると認めるものを含む。）
- （進学又は編入学資格）

第 27 条 博士後期課程に進学又は編入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (6) 外国の学校、第 4 号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の課程を履修し、博士論文研究基礎力審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (7) 文部科学大臣の指定した者
- (8) 本大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24 歳に達したもの

(入学志願手続)

第 28 条 入学志願者は、所定の期日までに入学願書に関係書類を添付し、学長に提出するものとする。

(合格者の決定)

第 29 条 入学志願者に対しては、別に定めるところにより選考を行い、合格者を決定する。

(入学手続)

第 30 条 合格者は、定められた期日内に所定の手続きを経て、入学料を納入するものとする。この手続きを怠る者は入学を許可しないことがある。

(休学)

第 31 条 疾病その他特別の理由により引き続き 2 月以上修学できない者は、学長の許可を得て休学することができる。

2 疾病のため修学することが適当でないと認められる者に対しては、学長は休学を命ずることができる。

3 休学期間は、当該年度を超えることができない。ただし、特別の理由があるときは、学長の許可を得て引き続き休学することができる。

4 休学期間は、通算して、修士課程、博士前期課程及び専門職学位課程においては 2 年、博士後期課程においては 3 年、医学系研究科博士課程においては 4 年を超えることができない。

5 休学期間は、在学年限に算入しない。

(復学)

第 32 条 休学期間の満了により復学するときは、学長に復学の届出をしなければならない。

2 休学期間の満了前においてその理由がなくなったときは、学長の許可を得て復学することができる。

(在学延長)

第 33 条 各研究科等において、第 7 条に規定する標準修業年限以上在学し、課程を修了しないときは在学延長を願い出ることができる。

(退学)

第 34 条 病気、その他の理由により退学しようとする者は、退学願を提出して学長の許可を受けなければならない。

第 35 条 学長は、学生が病気その他の理由で成業の見込みがないと認めたときは退学させることがある。

(留学)

第 36 条 外国の大学院又は研究所等に留学を志望する者は、学長に願い出てその許可を受けなければならない。

2 前項の規定により留学した期間は、第 7 条の修業年限に算入することができる。

(博士課程への進学)

第 37 条 本大学院博士前期課程を修了し、引き続き、当該博士後期課程に進学を志望する者については、別に定めるところにより選考の上、進学を許可する。

(再入学)

第 38 条 第 34 条の規定により、本大学院を退学した者が再入学を願い出たときは、許可することができる。

(転 専 攻)

第 39 条 同一研究科内において転専攻を志望する者があるときは、学期の始めに限り、許可することがある。

(転 学)

第 40 条 学生が、他の大学院に転学しようとするときは、転学願を提出して学長の許可を受けなければならない。

2 他の大学院から、本大学院に転学を志願する者があるときは、学期の始めに限り、許可することがある。

(再入学、転専攻及び転学の場合の取扱い)

第 41 条 前 3 条の規定により入学等を許可された者の在学すべき年数及び既修得単位の取扱いについては、研究科長及び学府長が定める。

(在 学 年 限)

第 42 条 本大学院における最長在学年限は、修士課程、博士前期課程及び専門職学位課程においては 4 年、医学系研究科博士課程においては 8 年、博士後期課程においては 6 年とする。

## 第 7 章 検定料、入学料及び授業料

(検定料、入学料及び授業料)

第 43 条 検定料、入学料及び授業料の額及び徴収方法は、国立大学法人群馬大学授業料その他の費用に関する規程（平成 16 年 4 月 1 日制定。以下「費用規程」という。）の定めるところによる。

(停学中の者の授業料)

第 44 条 停学中の者は、停学期間中の授業料を納めなければならない。

(入学料及び授業料の免除及び徴収猶予)

第 45 条 入学料及び授業料については、別に定めるところにより免除及び徴収猶予することがある。

(検定料等の返還)

第 46 条 既納の検定料、入学料及び授業料は、いかなる事情があっても返還しない。

2 費用規程第 3 条第 4 項の規定に基づいて入学を許可するときに授業料を納入した者が入学年度の前年度の 3 月 31 日までに入学を辞退した場合には、前項の規定にかかわらず、納入した者の申出により当該授業料相当額を返還するものとする。

3 費用規程第 3 条第 3 項及び第 4 項の規定に基づいて前期分授業料を納入の際、後期分授業料を併せて納入した者が、後期分授業料の徴収時期前に休学又は退学した場合には、第 1 項の規定にかかわらず、後期分の授業料に相当する額を返還するものとする。

## 第 8 章 教員組織

(教員組織)

第 47 条 各研究科等における授業及び研究指導は、教授が担当する。ただし、必要があるときは、准教授、講師又は助教に担当又は分担させることがある。

## 第9章 教授会

(教授会)

第48条 各研究科等に、教授会を置く。

2 前項の教授会に関する必要な事項は、別に定める。

## 第10章 特別研究学生、特別聴講学生、科目等履修生、研究生、 聴講生及び外国人留学生

(特別研究学生)

第49条 他の大学院の学生で、本大学院において研究指導を受けることを志願する者があるときは、当該他の大学院との協議に基づき、必要な研究指導を受けることを認めることができる。

2 前項の規定により研究指導を受けることを認められた学生を、特別研究学生と称する。

(特別聴講学生)

第50条 他の大学院の学生で、本大学院の授業科目の履修を志願する者があるときは、各研究科等において当該他の大学院との協議に基づき、その履修を認めることができる。

2 前項の規定により各研究科等の授業科目の履修を認められた学生を、特別聴講学生と称する。

(科目等履修生、研究生、聴講生及び外国人留学生)

第51条 科目等履修生、研究生、聴講生及び外国人留学生については、本学学則の規定を準用する。

(特別聴講学生等の検定料及び入学金)

第52条 特別聴講学生及び特別研究学生（以下「特別聴講学生等」という。）の検定料及び入学金は、徴収しないものとする。

(特別聴講学生等の授業料)

第53条 特別聴講学生等の授業料は、公立又は私立の大学院の学生であるときは、特別聴講学生にあっては聴講生と同様とし、特別研究学生にあっては研究生と同様とし、国立大学の大学院の学生であるときは、徴収しないものとする。

2 前項の規定にかかわらず、特別聴講学生等の授業料について相互に不徴収とする大学間相互単位互換協定を本学と締結している公立又は私立の大学院の学生であるときは、徴収しないものとする。

3 第1項に定める授業料の徴収方法は、本学学則第69条第2項及び第3項の規定を準用する。

第54条 第46条の規定は、特別聴講学生等に準用する。この場合において、同条第2項中「費用規程第3条第4項の規程に基づいて」とあるのは「本学学則第69条第3項の規程に準じて」と読み替えるものとする。

## 第11章 特別の課程

第55条 本大学院は、本学の学生以外の者を対象とした特別の課程を編成し、これを修了したものに對し、修了の事実を証する証明書を交付することができる。

2 特別の課程に関する必要な事項は、別に定める。

## 第12章 雑則

第56条 この学則に定めるもののほか、大学院学生に関して必要な事項は、本学学則を準用する。

附 則

- この学則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。
- この学則施行の日において、旧国立学校設置法（昭和 24 年法律第 150 号）により設置された群馬大学大学院に在学する者は、引き続き本大学院に在学するものとし、その者に係る履修その他教育上必要な事項は、別に定める。
- 医学系研究科及び工学研究科に係る収容定員は、第 6 条の規定にかかわらず、平成 16 年度から平成 17 年度までは次のとおりとする。

研究科	課程・専攻・年度	課 程	専 攻	収 容 定 員 人	
				平成 16 年度	平成 17 年度
医学系研究科		博 士 課 程	医 科 学	174	261
		博士後期課程	保 健 学	30	
工学研究科	博士前期課程	電 気 電 子 工 学		69	
		計		459	
	博士後期課程	生 産 工 学		35	
		電 子 情 報 工 学		19	20
		ナノ材料システム工学		26	
計		101	116		

附 則

この学則は、平成 17 年 5 月 19 日から施行し、平成 17 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この学則は、平成 17 年 6 月 10 日から施行し、平成 17 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

- この学則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。
- 教育学研究科に係る収容定員は、改正後の第 6 条の規定にかかわらず、平成 18 年度は次のとおりとする。

研究科	課程・専攻・年度	課 程	専 攻	収容定員 人
				平成 18 年度
教育学研究科	博 士 課 程	学 校 教 育		11
		障 害 児 教 育		3
		教 科 教 育		64
		計		78

附 則

この学則は、平成 18 年 4 月 20 日から施行し、平成 18 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

- この学則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。
- 工学研究科の応用化学専攻、材料工学専攻、生物化学工学専攻、建設工学専攻、ナノ材料システム工学専攻、物質工学専攻、生産工学専攻及び電子情報工学専攻は、改正後の第 6 条の規定にかかわらず、平成 19 年 3 月 31 日に当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 医学系研究科の修士課程及び博士課程並びに工学研究科に係る収容定員は、改正後の第 6 条の規定にかかわらず、平成 19 年度から平成 21 年度は次のとおりとする。

研究科	課程	専 攻	収 容 定 員 人		
			平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
医学系研究科	博 士 課 程	生 命 医 科 学	15		
	博 士 課 程	医 科 学	333	318	303
工 学 研 究 科	博士前期課程	応用化学・生物化学	106		
		機械システム工学	44		
		生産システム工学	30		
		環境プロセス工学	22		
		社会環境デザイン工学	22		
		電気電子工学	44		
		情 報 工 学	32		
	博士後期課程	工 学	39	78	

附 則

この学則は、平成 19 年 12 月 26 日から施行する。

附 則

- この学則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。
- 教育学研究科の学校教育専攻及び教科教育専攻は、改正後の第 6 条の規定にかかわらず、平成 20 年 3 月 31 日に当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 教育学研究科の修士課程教科教育実践専攻及び専門職学位課程教職リーダー専攻に係る収容定員は、改正後の第 6 条の規定にかかわらず、平成 20 年度は次のとおりとする。

研究科	課程	専 攻	収容定員 人
			平成 20 年度
教育学研究科	博 士 課 程	教 科 教 育 実 践	20
	専門職学位課程	教 職 リ ー ダ ー	16

附 則

- この学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。
- 社会情報学研究科の修士課程及び医学系研究科の博士課程に係る収容定員は、改正後の第 6 条の規



定にかかわらず，平成 22 年度から平成 24 年度は次のとおりとする。

課程・専攻・年度 研究科	課 程	専 攻	収 容 定 員 人		
			平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
社会情報学研究科	修 士 課 程	社 会 情 報 学	24		
医学系研究科	博 士 課 程	医 科 学	273	258	243

#### 附 則

- 1 この学則は，平成 22 年 6 月 1 日から施行し，平成 22 年 4 月 1 日から適用する。
- 2 改正後の第 13 条の規定は，平成 22 年度入学者から適用し，平成 21 年度以前の入学者については，なお従前の例による。

#### 附 則

- 1 この学則は，平成 23 年 2 月 1 日から施行し，平成 22 年 4 月 1 日から適用する。
- 2 改正後の第 13 条の規定は，平成 22 年度入学者から適用し，平成 21 年度以前の入学者については，なお従前の例による。

#### 附 則

- 1 この学則は，平成 23 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 保健学研究科に係る収容定員は，改正後の第 6 条の規定にかかわらず，平成 23 年度から平成 24 年度は次のとおりとする。

課程・専攻・年度 研究科	課 程	専 攻	収 容 定 員 人	
			平成 23 年度	平成 24 年度
保健学研究科	修士前期課程	保 健 学	106	
	博士後期課程	保 健 学	40	35

#### 附 則

この学則は，平成 23 年 7 月 1 日から施行する。

#### 附 則

この学則は，平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

#### 附 則

- 1 この学則は，平成 25 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 工学研究科は，改正後の第 4 条の規定にかかわらず，平成 25 年 3 月 31 日に当該研究科に在学する者（平成 25 年 4 月 1 日以降に当該研究科に編入学，転入学及び再入学する者を含む。以下この項において単に「在学者」という。）が当該研究科に在学しなくなるまでの間，存続するものとし，在学者については，なお従前の例による。
- 3 理工学府の収容定員は，改正後の第 6 条の規定にかかわらず，平成 25 年度から平成 26 年度までは

次のとおりとする。

研究科	課程	専攻	収容定員 人	
			平成 25 年度	平成 26 年度
	博士前期課程	理 工 学	300	
理 工 学 府	博士後期課程	理 工 学	39	78

附 則

- 1 この学則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の第 23 条の規定は、平成 26 年度の入学者から適用し、平成 25 年度以前の入学者については、なお従前の例による。
- 3 工学研究科教授会は、平成 25 年 4 月 1 日施行の附則第 2 項の規定により工学研究科が存続する間、当該研究科に置くものとする。
- 4 工学研究科長は、平成 25 年 4 月 1 日施行の附則第 2 項の規定により工学研究科が存続する間、当該研究科に置くものとし、理工学府長をもって充てる。

附 則

この学則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 28 年 6 月 2 日から施行し、平成 28 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この学則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 教育学研究科の修士課程は、改正後の第 5 条の規定にかかわらず、令和 2 年 3 月 31 日に当該課程に在学する者が当該課程に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 教育学研究科の障害児教育専攻、教科教育実践専攻及び教職リーダー専攻は、改正後の第 6 条の規定にかかわらず、令和 2 年 3 月 31 日に当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 4 教育学研究科教育実践高度化専攻の収容定員は、改正後の第 6 条の規定にかかわらず、令和 2 年度

は次のとおりとする。

課程・専攻・年度 研究科	課 程	専 攻	収 容 定 員
			人
教育学研究科	専門職学位課程	教育実践高度化	令和2年度 20

附 則

この学則は、令和2年12月25日から施行し、令和2年6月30日から適用する。

附 則

この学則は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、令和5年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、令和6年4月1日から施行する。

別表第1 (第4条関係)

研究科等	講 座 等
教育学研究科	教職リーダー講座
社会情報学研究科	社会情報学講座
医学系研究科	<p>(基礎・基盤医学領域)</p> <p>機能形態学講座, 生体構造学講座, 分子細胞生物学講座, 生化学講座, 応用生理学講座, 脳神経再生医学講座, 薬理学講座, 遺伝発達行動学講座, 細菌学講座, 生体防御学講座, 公衆衛生学講座, 法医学講座, 医学哲学・倫理学講座, 医学教育開発学講座</p> <hr/> <p>生命科学</p> <p>(臨床医学領域)</p> <p>内科学講座, 総合外科学講座, 腫瘍放射線学講座, 放射線診断核医学講座, 神経精神医学講座, 麻酔神経科学講座, 救急医学講座, 総合医療学講座, リハビリテーション医学講座, 臨床検査医学講座, 病態病理学講座, 病理診断学講座, 小児科学講座, 産科婦人科学講座, 泌尿器科学講座, 脳神経外科学講座, 眼科学講座, 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座, 皮膚科学講座, 形成外科学講座, 整形外科学講座, 臨床薬理学講座, 口腔顎顔面外科学講座, 医療の質・安全学講座</p> <hr/> <p>(協力講座・連携講座)</p> <p>協力・連携講座</p>
	<p>(基礎・基盤医学領域)</p> <p>機能形態学講座, 生体構造学講座, 分子細胞生物学講座, 生化学講座, 応用生理学講座, 脳神経再生医学講座, 薬理学講座, 遺伝発達行動学講座, 細菌学講座, 生体防御学講座, 公衆衛生学講座, 法医学講座, 医学哲学・倫理学講座, 医学教育開発学講座</p> <hr/> <p>医科学専攻</p> <p>(臨床医学領域)</p> <p>内科学講座, 総合外科学講座, 腫瘍放射線学講座, 放射線診断核医学講座, 神経精神医学講座, 麻酔神経科学講座, 救急医学講座, 総合医療学講座, リハビリテーション医学講座, 臨床検査医学講座, 病態病理学講座, 病理診断学講座, 小児科学講座, 産科婦人科学講座, 泌尿器科学講座, 脳神経外科学講座, 眼科学講座, 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座, 皮膚科学講座, 形成外科学講座, 整形外科学講座, 臨床薬理学講座, 口腔顎顔面外科学講座, 医療の質・安全学講座</p> <hr/> <p>(協力講座・連携講座)</p> <p>臨床試験学講座, 情報医療学講座, 高次細胞機能解析学講座, 代謝・内分泌学講座, 遺伝情報・発現学講座, 重粒子線医学講座, 病態情報解析学講座, 食健康科学講座, 数理データ科学講座, 生体機能解析学講座</p>
保健学研究科	看護学講座, 生体情報検査科学講座, リハビリテーション学講座
理工学府	分子科学部門, 知能機械創製部門, 環境創生部門, 電子情報部門, 理工学基盤部門, 産学連携推進部門

別表第2 (第24条関係)

研究科	課程	専攻	免許状の種類	教科又は特別支援教育領域
教育学研究科	専門職学位課程	教育実践高度化	幼稚園教諭 専修免許状	
			小学校教諭 専修免許状	
			中学校教諭 専修免許状	国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健 体育, 技術, 家庭, 英語
			高等学校教諭 専修免許状	国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 家庭, 工業, 英語
			特別支援学校教諭 専修免許状	視覚障害者, 聴覚障害者, 知的障害者, 肢 体不自由者, 病弱者

## 2. 群馬大学大学院成績評価基準

群馬大学大学院 成績評価基準

	評 語	評価の基準
合 格	A	優 : 到達目標を十分に達成している
	B	良 : 到達目標をおおむね達成している
	C	可 : 到達目標を最低限達成している
不合格	D	不可 : 到達目標を達成していない

GUNMA UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL GRADING SYSTEM

	Letter Grade	Evaluation Criteria
Pass	A	Distinction : Outstanding performance
	B	Merit : Above the average standard
	C	Pass : Generally sound work
Fail	D	Fail : Insufficient performance

## 3. 成績評価の確認について

成績評価に疑義がある場合には、該当する成績開示後1か月以内に、理工学府教務委員会宛に成績評価の確認を願い出ることができる。

申立て方法等の詳細については、各学期における成績開示の際、入試・大学院係から掲示及びシステムにより学生へ周知する。

なお、成績評価の確認を申請するには、具体的な理由（どのような理由で評価に疑問があるのか）が必要となる。

## 4. 理工学府学位論文評価基準

下記の評価項目すべてについて、学位論文としての水準を満たしていると認められたものを合格とする。

(修士論文・博士論文共通)

### 1. 研究倫理

研究の内容は、関連する法令等や研究倫理を遵守していること  
内容や文章などに剽窃がないこと

### 2. 研究の目的

研究の目的が学術的あるいは社会的に意義を持つものであること  
研究目的が明確な問題意識と位置づけを基にしたものであること

### 3. 研究方法

研究目的に沿った実証的・科学的な方法による研究であること  
研究結果を再現できるだけの具体的な情報を含むものであること

### 4. 研究成果

研究結果について適切な論証と考察が行われていること  
研究で得られた結果と整合性・説得性のある結論が導かれていること

### 5. 論文の体裁

明快で論理的な構成がとられていること  
先行研究あるいは関連研究に対する適切な引用、評価が行われていること

(修士論文)

上記、1～5に加えて

### 6. 研究成果の公表

当該教育プログラムが定める学会発表等（発表予定を含む）を行っていること

(博士論文)

上記、1～5に加えて

### 6. 研究の独創性

研究が当該分野において先駆的・独創的なものであること

### 7. 研究成果の公表

当該領域が定める数以上の論文を査読付きの学術誌に公表（掲載決定を含む）  
していること

## 5. 群馬大学学位規則

	平成 16. 4. 1	制	定
改正	平成 19. 4. 1	平成 20. 4. 1	
	平成 23. 11. 1	平成 24. 4. 1	
	平成 25. 4. 1	平成 25. 4. 24	
	平成 25. 9. 26	平成 26. 4. 1	
	平成 31. 4. 1	令和 2. 4. 1	
	令和 3. 4. 1		

### 第1章 目 的

第1条 この規則は、学位規則（昭和28年文部省令第9号。以下「省令」という。）第13条の規定に基づき、群馬大学（以下「本学」という。）において授与する学位に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

### 第2章 学 位

第2条 本学において授与する学位は、学士、修士、博士及び専門職学位とする。

2 学士の学位は、次のとおりとする。

学 士（教育学）

学 士（社会情報学）

学 士（医学）

学 士（看護学）

学 士（保健学）

学 士（理工学）

3 修士の学位は、次のとおりとする。

修 士（社会情報学）

修 士（生命医科学）

修 士（保健学）

修 士（看護学）

修 士（理工学）

4 博士の学位は、次のとおりとする。

博 士（医学）

博 士（保健学）

博 士（看護学）

博 士（理工学）

5 専門職学位は、次のとおりとする。

教職修士（専門職）



### 第3章 学位の授与の要件

- 第3条 学士の学位は、本学学則の定めるところにより、本学を卒業した者に授与する。
- 2 修士の学位は、本学大学院学則の定めるところにより、修士課程又は博士前期課程を修了した者に授与する。
- 3 博士の学位は、本学大学院学則の定めるところにより、博士課程を修了した者に授与する。
- 4 前項に定めるもののほか、博士の学位は、本学大学院学則第23条第2項の規定により本学に学位論文を提出してその審査に合格し、かつ、本学大学院の博士課程の修了者と同等以上の学力があると確認された者に授与することができる。
- 5 専門職学位は、本学大学院学則の定めるところにより、専門職学位課程を修了した者に授与する。

### 第4章 課程の修了による学位の授与

- 第4条 前条第2項、第3項及び第5項の規定により、課程修了の認定を得た者については、本学大学院学則の定めるところにより学位を授与する。

### 第5章 論文提出による学位の授与

- 第5条 第3条第4項の規定により、学位論文を提出した者については、この規則の定めるところにより、審査の上、学位を授与することができる。
- 2 前項に規定する者が博士の学位論文を提出するときは、学位申請書に学位論文、学位論文の要旨、参考論文のあるときは当該参考論文、履歴書及び国立大学法人群馬大学授業料その他の費用に関する規程(平成16年4月1日制定。以下「費用規程」という。)に定める学位論文審査手数料を添えて提出するものとする。ただし、本学大学院の博士課程に本学大学院学則に定める修業年限以上在学し、所定の単位を修得して退学した者が退学後1年以内に申請する場合は、学位論文審査手数料を免除することができる。
- 3 学位論文の受理は、当該教授会の議を経て、学長が決定する。
- 4 各教授会は、学位論文のほか外国語及びその専攻学術について、本学大学院の博士課程の修了者と同等以上の学力を有することを認めるため試問を行うものとする。
- 5 前項の試問は、口頭又は筆答により行い、外国語については原則として2外国語を課するものとする。
- 6 第1項の規定により学位論文を提出した者が、本学大学院の博士課程に本学大学院学則に定める修業年限以上在学し、所定の単位を修得して退学した者であって、退学後の経過期間が各教授会が定める年限内である場合に限り、第4項の試問を免除することができる。
- 7 学位論文の審査は、本学大学院学則に定める博士課程における学位論文の場合と同様に、当該教授会において行う。

- 8 学位論文の審査のため必要があるときは、学位論文の提出者に対して当該論文の副本、訳本、模型又は標本その他の提出を求めることができる。
- 9 学位論文の審査は、当該論文を受理してから、原則として1年以内に終了するものとする。

## 第6章 課程の修了及び論文の審査の決議

第6条 各教授会は、第3条第2項及び第3項の規定によるものについては、本学大学院学則の定めるところにより課程の修了の可否、第3条第4項の規定によるものについてはその論文の審査の合否について議決する。

- 2 前項の議決は、出席した構成員の3分の2以上の賛成を必要とする。
- 3 前項の教授会は、構成員の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。
- 4 海外旅行中及び休職中の構成員は、前項の数には算入しない。

## 第7章 学長への報告

第7条 各教授会が第6条の議決をしたときは、当該研究科長及び学府長は、速やかに文書により、学長に報告しなければならない。

## 第8章 学位記の交付

第8条 学長は、本学学則第51条の規定により卒業を認定した者並びに前条の報告に基づいて、第3条第2項、第3項及び第5項の規定によるものについては、課程修了の可否、第3条第4項の規定によるものについては、その論文の合否及び学力確認の可否について決定し、授与の要件を満たす者には学位記を授与するものとする。

## 第9章 論文要旨の公表

第9条 本学は、博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から3月以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。

## 第10章 学位論文の公表

第10条 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の全文を公表するものとする。ただし、当該博士の学位を授与される前に既に公表したときは、この限りではない。

- 2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、研究科長又は学府長の承認を受けて、当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えて、その内容を要約したものを公表することができる。この場合において、研究科又は学府は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。
- 3 前2項の規定による公表は、インターネットの利用により行うものとする。

## 第11章 学位の名称

第11条 本学の学位を授与された者が、学位の名称を用いるときは、本学名を付記するものとする。

2 学位記の様式は、別表第1-1から第5までのとおりとする。

## 第12章 学位授与の取消

第12条 学位を授与された者が、その名誉を汚辱する行為があったとき、又は不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、学長は当該教授会の議を経て、学位の授与を取り消すことができる。

2 前項の議決については、第6条の議決の場合と同様に行うものとする。

## 第13章 学位授与の報告

第13条 本学において博士の学位を授与したときは、学長は省令第12条の定めるところにより、文部科学大臣に報告するものとする。

### 附 則

1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。

2 第3条第4項の規定による博士（保健学）の学位の授与は、医学系研究科保健学専攻の博士課程を最初に修了した者に対し、学位を授与した後に行うものとする。

### 附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

### 附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

### 附 則

この規則は、平成23年11月1日から施行する。

### 附 則

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

### 附 則

1 この規則は、平成25年4月1日から施行する。

2 平成25年3月31日に工学部及び工学研究科に在学する者（平成25年4月1日以降に当該学部及び当該研究科に編入学、転入学及び再入学する者を含む。）の学位については、改正後の第2条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

3 第3条第4項の規定による博士（理工学）の学位の授与は、理工学府の博士課程を最初に修了した者に対し、学位を授与した後に行うものとする。

附 則

この規則は、平成 25 年 4 月 24 日から施行し、平成 25 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この規則は、平成 25 年 9 月 26 日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の第 2 条の規定は、平成 26 年度の入学者から適用し、平成 25 年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 31 年 3 月 31 日に医学系研究科（重粒子線医工学グローバルリーダー養成プログラム）に在学する者の学位については、改正後の第 11 条第 2 項別表第 3-2 の様式にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規則は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の規則は、令和 2 年度の入学生から適用し、令和元年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規則は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の規則は、令和 3 年度の入学生から適用し、令和 2 年度以前の入学者については、なお従前の例による。

別表第 1 - 1

第 3 条第 1 項の規程により授与する学位記の様式（共同教育学部）

<p>Gunma University</p> <p>Cooperative Faculty of Education has awarded upon</p> <p>_____ (Name) _____</p> <p>Date of Birth: _____</p> <p>The bachelor of Education</p> <p>Together with all the rights, privileges and honors thereto appertaining,</p> <p>Conferred in the city of Maebashi, Gunma, Japan</p> <p>On the (日) Day of (月), (年)</p> <p>_____ (Name) _____</p> <p>Dean, Cooperative Faculty of Education, Gunma University</p> <p>_____ (Name) _____</p> <p>President, Gunma University</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">群馬大学 印</div>	<p style="text-align: right;">__学第____号</p> <p>学位記</p> <p style="text-align: right;">(氏名) _____</p> <p style="text-align: right;">__年__月__日生</p> <p>群馬大学及び宇都宮大学の共同教育学部所定の課程を修めたことを認める</p> <p>群馬大学共同教育学部長      宇都宮大学共同教育学部長</p> <p style="text-align: center;">(氏名) 印                      (氏名) 印</p> <p>群馬大学の卒業を認め学士（教育学）の学位を授与する</p> <p style="text-align: center;">__年__月__日</p> <p>群馬大学長                      宇都宮大学長</p> <p style="text-align: center;">(氏名) 印                      (氏名) 印</p>
--	--	---

(規格 A3)

別表第 1 - 2

第 3 条第 1 項の規程により授与する学位記の様式（共同教育学部を除く。）

<p>Gunma University</p> <p>The Faculty of _____ has awarded upon</p> <p>(School)</p> <p>_____ (Name) _____</p> <p>Date of Birth: _____</p> <p>The bachelor of _____</p> <p>Together with all the rights, privileges and honors thereto appertaining,</p> <p>Conferred in the city of Maebashi, Gunma, Japan</p> <p>On the (日) Day of (月), (年)</p> <p>_____ (Name) _____</p> <p>Dean, _____</p> <p>_____ (Name) _____</p> <p>President, Gunma University</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">群馬大学 印</div>	<p style="text-align: right;">__学第____号</p> <p>学位記</p> <p style="text-align: right;">(氏名) _____</p> <p style="text-align: right;">__年__月__日生</p> <p>本学____学部所定の課程を修めたことを認める</p> <p>群馬大学____学部長      (氏名) 印</p> <p>本学の卒業を認め学士（_____）の学位を授与する</p> <p style="text-align: center;">__年__月__日</p> <p>群馬大学長                      (氏名) 印</p>
---	--	---

(規格 A3)

別表第 2 - 1

第 3 条第 2 項の規定により授与する学位記の様式（研究科又は学府の学位論文審査）

Gunma University	__修第__号
The Graduate School of _____ has awarded upon	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">群馬大学 印</div> 学位記
_____(Name)_____ Date of Birth: _____	_____(氏名)_____ __年__月__日生
The degree of Master of _____	本学大学院_____(研究科又は学府)_____専攻の _____課程において所定の単位を修得し学位論文の審査及び最 終試験に合格したことを認める
Together with all the rights, privileges and honors thereto appertaining, Conferred in the city of Maebashi, Gunma, Japan	群馬大学大学院_____研究科長 _____(氏名)_____印 (_____学府長)
On the (日) Day of (月), (年)____	本学の修了を認め修士(____)の学位を授与する
_____(Name)_____ Dean, Graduate School of _____ _____(Name)_____ President, Gunma University	__年__月__日 群馬大学長 _____(氏名)_____印

(規格 A3)

別表第 2 - 2

第 3 条第 2 項の規定により授与する学位記の様式（研究科又は学府の特定の課題についての研究の成果の審査）

Gunma University	__修第__号
The Graduate School of _____ has awarded upon	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">群馬大学 印</div> 学位記
_____(Name)_____ Date of Birth: _____	_____(氏名)_____ __年__月__日生
The degree of Master of Philosophy in _____	本学大学院_____(研究科又は学府)_____専攻の_____課程におい て所定の単位を修得し特定の課題についての研究の成果の審査 及び最終試験に合格したことを認める
Together with all the rights, privileges and honors thereto appertaining, Conferred in the city of Maebashi, Gunma, Japan	群馬大学大学院_____研究科長 _____(氏名)_____印 (_____学府長)
On the (日) Day of (月), (年)____	本学の修了を認め修士(____)の学位を授与する
_____(Name)_____ Dean, Graduate School of _____ _____(Name)_____ President, Gunma University	__年__月__日 群馬大学長 _____(氏名)_____印

(規格 A3)

別表第3-1

第3条第3項の規定により授与する学位記の様式（研究科又は学府）

<p style="text-align: center;">Gunma University</p> <p>The Graduate School of _____ has awarded upon</p> <p style="text-align: center;">_____ (Name) _____</p> <p>Date of Birth: _____</p> <p style="text-align: center;">The degree of Doctor of Philosophy in _____</p> <p>Together with all the rights, privileges and honors thereto appertaining,</p> <p>Conferred in the city of Maebashi, Gunma, Japan</p> <p>On the (日) Day of (月), (年) _____</p> <p style="text-align: center;">_____ (Name) _____</p> <p>Dean, Graduate School of _____</p> <p style="text-align: center;">_____ (Name) _____</p> <p>President, Gunma University</p>	<p style="text-align: right;">__博甲第____号</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 30px; margin: 10px auto; text-align: center;">群馬大学 印</div> <p style="text-align: center;">学 位 記</p> <p style="text-align: right;">____ (氏 名) _____</p> <p style="text-align: right;">____年__月__日生</p> <p>本学大学院____(研究科又は学府)____専攻の博士課程において所定の単位を修得し学位論文の審査及び最終試験に合格したことを認める</p> <p>群馬大学大学院__研究科長__ (氏 名) __印 (__学府長)</p> <p>本学の修了を認め博士 (____) の学位を授与する</p> <p style="text-align: center;">____年__月__日</p> <p>群 馬 大 学 長 _____ (氏 名) __ 印</p>
--	---

(規格 A3)

別表第3-2

第3条第3項の規定により授与する学位記の様式（重粒子線医工学グローバルリーダー養成プログラム）

<p style="text-align: center;">Gunma University</p> <p>The Graduate School of Medicine has awarded upon</p> <p style="text-align: center;">_____ (Name) _____</p> <p>Date of Birth: _____</p> <p style="text-align: center;">The degree of Doctor of Philosophy in (Program for Cultivating Global Leaders in Heavy Ion Radiotherapy, Science and Technology)</p> <p>Together with all the rights, privileges and honors thereto appertaining,</p> <p>Conferred in the city of Maebashi, Gunma, Japan</p> <p>On the (日) Day of (月), (年) _____</p> <p style="text-align: center;">_____ (Name) _____</p> <p>Dean, Graduate School of _____</p> <p style="text-align: center;">_____ (Name) _____</p> <p>President, Gunma University</p>	<p style="text-align: right;">医博甲第____号</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 30px; margin: 10px auto; text-align: center;">群馬大学 印</div> <p style="text-align: center;">学 位 記</p> <p style="text-align: right;">____ (氏 名) _____</p> <p style="text-align: right;">____年__月__日生</p> <p>本学大学院____(研究科又は学府)____専攻博士課程の重粒子線医工学グローバルリーダー養成プログラムにおいて所定の単位を修得し学位論文の審査及び最終試験に合格したことを認める</p> <p>群馬大学大学院__研究科長__ (氏 名) __印 (__学府長)</p> <p>本学の修了を認め博士 (____) の学位を授与する</p> <p style="text-align: center;">____年__月__日</p> <p>群 馬 大 学 長 _____ (氏 名) __ 印</p>
--	---

(規格 A3)

別表第 4

第 3 条第 4 項の規定により授与する学位記の様式

Gunma University	博乙第 _____ 号
The Graduate School of _____ has awarded upon	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">群馬大学 印</div> 学 位 記
_____ (Name)	_____ (氏 名)
Date of Birth: _____	_____年__月__日生
The degree of Doctor of Philosophy in _____	本大学に学位論文を提出し所定の審査及び試験に 合格したことを認める
Together with all the rights, privileges and honors thereto appertaining.	
Conferred in the city of Maebashi, Gunma, Japan	群馬大学大学院 _____ 研究科長 _____ (氏 名) 印 ( _____ 学 府 長)
On the (日) Day of (月), (年) _____	
_____ (Name)	上記を認め博士 ( _____ ) の学位を授与する
Dean, Graduate School of _____	_____年__月__日
_____ (Name)	群馬大学長 _____ (氏 名) 印
President, Gunma University	

(規格 A3)

別表第 5

第 3 条第 5 項の規定により授与する学位記の様式

Gunma University	教職修第 _____ 号
The Graduate School of Education has awarded upon	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">群馬大学 印</div> 学 位 記
_____ (Name)	_____ (氏 名)
Date of Birth: _____	_____年__月__日生
The degree of Master of Education (Professional)	本学大学院教育学研究科教職リーダー専攻専門職学位課程におい て所定の課程を修了したことを認める
Together with all the rights, privileges and honors thereto appertaining.	
Conferred in the city of Maebashi, Gunma, Japan	群馬大学大学院 教育学研究科長 _____ (氏 名) 印
On the (日) Day of (月), (年) _____	
_____ (Name)	本学の修了を認め教職修士 (専門職) の学位を授与する
Dean, Graduate School of Education	_____年__月__日
_____ (Name)	群馬大学長 _____ (氏 名) 印
President, Gunma University	

(規格 A3)



## 6. 群馬大学大学院理工学府規程

平成 25 年 4 月 1 日 制定

改正 平成 26 年 4 月 1 日 平成 27 年 4 月 1 日  
平成 28 年 4 月 1 日 平成 29 年 4 月 1 日  
平成 30 年 4 月 1 日 令和 3 年 4 月 1 日  
令和 4 年 4 月 1 日 令和 4 年 7 月 1 日  
令和 4 年 10 月 1 日 令和 5 年 4 月 1 日  
令和 6 年 4 月 1 日

### 第 1 章 総 則

第 1 条 群馬大学大学院理工学府（以下「学府」という）に関し必要な事項は、群馬大学大学院学則（以下「大学院学則」という）及び群馬大学学位規則に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

第 2 条 学府は、多様化・複層化が深化する産業活動における諸課題に対して俯瞰的なものの見方と、総合的実践力・独創力を発揮することにより、これらに適切に対処していくことのできる人材、さらに、社会の革新・成長を牽引するリーダーとして社会の各分野で活躍できる実践的かつ独創性を有する高度な研究開発人材を育成することを目的とする。

2 前項の目的を達成するため、理学と工学の分野融合による教育研究活動を基盤に次の各号に掲げる教育を行うものとする。

- (1) 従来の学問分野の枠を超えて俯瞰的に問題を把握し、知識を総合化して課題を解決できる能力を養う高度な理工学教育
- (2) 各教員の特長を活かした先端的研究の実践を通じて、自ら新たな課題を発見し挑戦する創造性と実践力を養う教育
- (3) これからの研究者・技術者に求められる技術マネジメントなどに関する基礎的素養と高い倫理観を養う教育
- (4) 先端研究者・高度専門技術者としてグローバルに活躍するための国際コミュニケーション能力を養う教育

### 第 2 章 組 織

第 3 条 学府博士前期課程に、次の教育プログラムを置く。

- 物質・生命理工学教育プログラム
- 知能機械創製理工学教育プログラム
- 環境創生理工学教育プログラム
- 電子情報・数理教育プログラム

2 学府博士後期課程に、次の領域を置く。

物質・生命理工学領域

知能機械創製理工学領域

環境創生理工学領域

電子情報・数理領域

### 第3章 指導教員

第4条 学生は、指導教員の指導の下に研究並びに履修を行うものとする。

第5条 前条の指導教員は、学府長が定める。

### 第4章 履 修

第6条 学府における授業科目及び単位数は、別表第1（博士前期課程）、別表第2（博士後期課程）、群馬大学大学院学則第12条第2項及び群馬大学大学院共通科目に関する内規に基づく大学院共通科目のとおりとする。

第7条 前条に規定する授業科目のうち、博士前期課程においては32単位以上、博士後期課程においては16単位以上選択履修しなければならない。

第8条 学府における授業及び研究指導は、夜間その他特定の時間又は時期において行うことができる。

2 教育方法の特例に関して必要な事項は、別に定める。

第9条 学生は、学期始めの指定された期日までに、履修しようとする授業科目を指導教員を経て学府長に届け出るものとする。

第10条 指導教員が必要と認めて他の教育プログラム及び領域の授業科目を選択履修させた場合は、履修単位として認定することができる。

第11条 学生は、学府と他の大学院との協議に基づき、当該他の大学院の授業科目を履修することができるものとし、履修期間は、履修に必要な所定の期間とする。

2 前項の規定により履修した単位は、10単位を限度に履修単位として認定することができる。

3 第1項の規定による履修を志望する学生は、指導教員を経て学府長の許可を得なければならない。

第12条 外国の大学院に留学を志望する学生は、学府長を経て学長に願い出てその許可を得なければならない。

2 前項の許可を得て留学した期間は、1年を超えない範囲を原則として修業年限に算入することができる。

3 第11条の規定は、学生が留学する場合に準用する。

第13条 他の大学院（外国の大学院を含む。以下同じ）に履修を認められた学生は、履修を修了したときは、直ちに指導教員を経て学府長に、履修報告書及び当該他の大学院の交付する学業成績証明書を提出しなければならない。

## 第5章 学位論文及び最終試験

第14条 学生は、学位論文の題目を指定された期日までに、指導教員を経て学府長に届け出るものとする。

第15条 学位論文は、指定された期日までに指導教員を経て学府長に提出するものとする。

2 学府長は、学位論文を受理したときは、教授会の審査に付さなければならない。

第16条 前条の規定による学位論文の審査は、大学院学則第19条第1項、第3項及び第4項までの規定に基づき、審査委員を選定して行うものとする。

2 学位論文審査のため必要があるときは、学位論文の副本、訳本、模型又は標本等の資料を提出させることができる。

第17条 審査委員は、学位論文の審査が終了したときは、速やかにその結果を教授会に、文書をもって報告するものとする。

第18条 最終試験は、大学院学則第20条の規定に基づき、行うものとする。

## 第6章 特別研究学生、特別聴講学生、科目等履修生、 研究生、聴講生及び外国人留学生

第19条 科目等履修生、聴講生及び外国人留学生として入学できる者は、大学院学則第26条第1項又は第27条の各号のいずれかに該当する者とする。

第20条 研究生として入学できる者は、博士前期課程にあつては大学院学則第27条の各号のいずれかに該当する者、博士後期課程にあつては博士の学位を有する者又は学府において、博士の学位を有する者と同等以上の研究能力があると認めたとする。

第21条 科目等履修生、研究生及び聴講生の入学は、学生の履修に支障のない場合に限り、選考の上、学長が許可することがある。

第22条 外国人で、学府に入学を志望する者があるときは、選考の上、定員外として入学を、学長が許可することがある。

第23条 大学院学則第49条に定める特別研究学生に関しては、別に定める。

第24条 他の大学院の学生で、学府の授業科目の履修を志願する者があるときは、学府と当該他の大学院との協議に基づき、特別聴講学生として受入れを許可することができる。

第25条 特別聴講学生、科目等履修生、研究生、聴講生及び外国人留学生については、この規程に定めるもののほか、群馬大学理工学部規程を準用する。

## 第7章 教務・厚生

第26条 学府学生の教務及び厚生補導に関しては、教務委員会において処理する。

## 第8章 規程の改廃

第27条 この規程の改廃は、教授会の議を経て、学府長が行う。

### 附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

### 附 則

- 1 この規程は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 改正後の規程は、博士前期課程平成26年度入学者並びに博士後期課程平成26年度編入学者及び進学者から適用し、平成25年度以前の入学者については、なお従前の例による。

### 附 則

- 1 この規程は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 改正後の規程は、博士前期課程平成27年度入学者並びに博士後期課程平成27年度編入学者及び進学者から適用し、平成26年度以前の入学者については、なお従前の例による。

### 附 則

- 1 この規程は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 改正後の規程は、博士前期課程平成28年度入学者並びに博士後期課程平成28年度編入学者及び進学者から適用し、平成27年度以前の入学者については、なお従前の例による。

### 附 則

- 1 この規程は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 改正後の規程は、博士前期課程平成29年度入学者並びに博士後期課程平成29年度編入学者及び進学者から適用し、平成28年度以前の入学者については、なお従前の例による。

### 附 則

- 1 この規程は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 改正後の規程は、博士前期課程平成30年度入学者並びに博士後期課程平成30年度編入学者及び進学者から適用し、平成29年度以前の入学者については、なお従前の例による。

### 附 則

- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。

- 2 改正後の規程は、博士前期課程平成 31 年度入学者並びに博士後期課程平成 31 年度編入学者及び進学者から適用し、平成 30 年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の規程は、博士前期課程令和 2 年度入学者並びに博士後期課程令和 2 年編入学者及び進学者から適用し、平成 31（令和元）年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の規程は、博士前期課程令和 3 年度入学者並びに博士後期課程令和 3 年編入学者及び進学者から適用し、令和 2 年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の規程は、博士前期課程令和 4 年度入学者並びに博士後期課程令和 4 年編入学者及び進学者から適用し、令和 3 年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の規程は、博士前期課程令和 5 年度入学者並びに博士後期課程令和 5 年編入学者及び進学者から適用し、令和 4 年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、令和 4 年 7 月 1 日から施行し、令和 4 年 4 月 1 日から適用する。
- 2 改正後の規程は、博士前期課程令和 4 年度入学者並びに博士後期課程令和 4 年編入学者及び進学者から適用し、令和 3 年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、令和 4 年 10 月 1 日から施行し、令和 4 年 4 月 1 日から適用する。
- 2 改正後の規程は、博士前期課程令和 4 年度入学者並びに博士後期課程令和 4 年編入学者及び進学者から適用し、令和 3 年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は，令和5年4月1日から施行する。
- 2 改正後の規程は，博士前期課程令和5年度入学者並びに博士後期課程令和5年編入学者及び進学者から適用し，令和4年度以前の入学者については，なお従前の例による。

附 則

- 1 この改正は，令和6年4月1日から施行する。
- 2 改正後の規程は，博士前期課程令和6年度入学者並びに博士後期課程令和6年編入学者及び進学者から適用し，令和5年度以前の入学者については，なお従前の例による。



## 7. 理工学府課程表・講義要目 (博士前期課程) <別表第1>

物質・生命理工学教育プログラム (博士前期課程)

プログラム ・科目区分	授 業 科 目	担当教員	単 位 数	週授業時間数				備 考
				1 年次		2 年次		
				前	後	前	後	
物質・ 生命 理工学 教育 プログラム	(数学系科目)							・理工学特別演習 4 単位及び理工学特別実験 8 単位を含む 32 単位以上を修得すること。 そのうち、学府共通教育科目から 3 単位以上、所属するプログラムの理工学特別演習及び理工学特別実験を除くコア教育科目から 6 単位以上を修得すること。 ・重粒子線理工学グローバルリーダー養成プログラム(重粒子線理工学連携コース)在籍者は、リーディングコース科目理工学共通科目群の生命倫理と法的規制、関連法規・医療倫理及び研究倫理から 1 単位以上、重粒子線理工学科目群から 2 単位以上修得すること。 リーディング理工学科目(学府開放教育科目及び全教育プログラムのコア科目中の(★)科目)から 4 単位以上履修すること。 リーディング理工学科目は上記【修了要件】の修得単位に含むことができる。
	代数 学 特 論 I	名 越	2	(開講なし)				
	代数 学 特 論 II	名 越	2		2			
	代数 学 特 論 III	高 崎	2	2				
	解析 学 特 論 I	高 江	2	2				
	解析 学 特 論 II	田 洲	2		2			
	解析 学 特 論 III	渡 沼	2	2				
	関数解析学特論 I		2	(開講なし)				
	データ解析特論		2	(開講なし)				
	バイオデータ解析・統計特論	半田・石井	2		2			
	(物理系科目)							
	熱力学 学 特 論	山本(隆)・武野	2	2				
	量子物理学 特 論	引 原	2		2			
	統計物理学 特 論 I	守 田	2	2				
	統計物理学 特 論 II	山 本(隆)	2		2			
	物性物理学 特 論 I	長 尾	2	2				
	物性物理学 特 論 II	高 橋(学)	2		2			
	システム物理学入門		2	(開講なし)				
	(化学系科目)							
	固体化学 特 論	花屋・京免・藤沢	2		2			
高分子化学 特 論	米山・奥(浩)	2	2					
(インテンシブ科目)								
理学 インテンシブ I	佐 藤(正)	1		1		集中講義		
理学 インテンシブ II	山 本(隆)	1			1	隔年開講・集中講義		
理学 インテンシブ III	高 橋(学)	1			1	隔年開講		
理学 インテンシブ IV	守 田	1	1			隔年開講・集中講義		
理学 インテンシブ V	引 原	1	1			隔年開講		
理学 インテンシブ VI	長 尾	1		1				
理学 インテンシブ VII	鈴木(真)・太田	1		1		隔年開講・集中講義		
(実践実習科目)								
分析・測定スキルアップ実践実習	松尾・堂本	1		1		集中講義		
CAD・CAMスキルアップ実践実習	林	1	1			集中講義		
環境計測・シミュレーションスキルアップ実践実習	渡 邊・中川 桂・野田・若井	1	1			※学府共通教育科目、学府開放教育科目及び技術マネージメント系科目は 84 ページ参照		
(プロジェクト系科目)								
ファイブバイオ工学特論	粕谷・河原・橋	2		2				
医工連携特論	伊 藤(正)	1						
理工学連携重粒子線治療の物理と医学特論(★)	櫻井・花泉 他	2	2					
医学物理計測制御特論(★)	鈴 木	2		2				
総合日本語中級 I	渡 邊	1	1			・総合日本語中級 I・II 及び上級 I・II は留学生のみ履修可。修了要件単位に含めない。		
総合日本語中級 II	大 和	1		1				
総合日本語上級 I	大 和	1	1					
総合日本語上級 II	渡 邊	1		1				
技術 マネー ジメン ト系 科目	M O T 特 論	伊藤(正)・萩原 坂田・星野	2	2			集中講義	
	経営工学特論	伊藤(正)・角田・芳賀	2		2			
	インターンシップ	全 教 員	1					
	長期インターンシップ	全 教 員	4					
	科学研究発表技法	海 野	2	2	2			
	コミュニケーション技術	未 定	1	(1年次に行う)				
	国際コミュニケーション I	海 野	1					
	国際コミュニケーション II	海 野	2					
アントレプレナーシップ特論	板 橋 他	2				集中講義		



プログラム ・科目区分	授 業 科 目	担当教員	単 位 数	週授業時間数				備 考	
				1年次		2年次			
				前	後	前	後		
物質・生命理工学教育プログラム	(分野統合科目)								
	物質・生命理工学特論Ⅰ	尾崎(広)・森口	2	2					
	物質・生命理工学特論Ⅱ(★)	武田(茂)・松尾	2	2					
	物質・生命理工学特論Ⅲ	行木・武田(茂)	2	2					
	物質・生命理工学特論Ⅳ	高橋(浩)・高橋(剛)	2	2					
	コア教育科目	分析化学特論	佐藤(記)・Hossain	2		2			
		無機固体・表面化学特論	白石・岩本	2		2			
		無機化学特論	浅野・村岡・竹田	2		2			
		分子分光化学特論	園山・住吉	2	2				
		量子化学特論	奥津・下赤	2		2			
		分子動力学特論	山路・吉原	2	2				
		有機反応化学特論	山田(圭)	2		2		隔年開講	
		有機構造化学特論	中村・堂本	2		2			
		有機合成化学特論	網井・菅野	2	2				
		有機元素化学特論	海野・武田(亘)	2		2			
		高分子成形加工特論	上原・浅川	2		2			
		生物機能工学特論	井上・武田(茂)	2	2				
		放射線利用環境浄化技術特論	廣木・瀬古・田口	2		2		集中講義	
		化学計量標準特論	朝海・羽成	2		2		集中講義	
		量子ビーム利用機能性材料創製特論	前川・八巻・山本	2		2		集中講義	
		バイオプラスチックデザイン工学特論	阿部・沼田(圭)・吉川	2		2		集中講義	
		生物科学特別講義Ⅰ	生体調節研究所各教員	2	2				
		物質・生命理工学特別講義Ⅰ	各教員	1				集中講義	
		物質・生命理工学特別講義Ⅱ	各教員	1				集中講義	
	物質・生命理工学特別講義Ⅲ	各教員	1				集中講義		
	物質・生命理工学特別講義Ⅳ	各教員	1				集中講義		
	理工学特別演習	全教員	4						
理工学特別実験	全教員	8							
リーディングコース科目	(医理工共通科目群)								
	生命倫理と法的規制	曾根	1		1				
	関連法規・医療倫理	曾根	1		1				
	研究倫理	曾根	1		1				
	解剖学	武田(茂)	1			1			
	生理学	武田(茂)	1			1			
	(医学物理基礎科目群)								
	力学	櫻花	2		2				
	電磁気学	井泉	2		2				
	量子力学	山花	2		2				
	物理数学	山口	2		2				
	放射線物理学	櫻井	2		2				
	医療・画像情報学	櫻井	2		2				
	統計学	山口	2		2				
	英学	山	2		2				
	(重粒子線医理工学科目群)								
	保健物理・放射線防護学講義	櫻井	2			2		集中講義	
放射線診断・核医学物理学講義	櫻井	2			2		集中講義		
放射線治療物理学講義	大野	2			2		集中講義		
基礎腫瘍生物学	武田(茂)	2			2				
放射線生物学	武田(茂)	2			2				

## [コア教育科目]

(分野統合科目)

**物質・生命理工学特論Ⅰ** 尾崎 広明・森口 朋尚

Special Topics in Chemistry and Chemical Biology I

学部での生化学関連講義で取り扱った生体分子，特に核酸関連生体分子を中心に，その化学的性質，化学合成法，分子間での相互作用など，化学的な立場からより詳細に分子レベルで解説する。

This course provides an overview of organic chemistry, chemical synthesis, and intermolecular interaction of biomolecules such as nucleic acids and the related compounds.

**物質・生命理工学特論Ⅱ** 武田 茂樹・松尾 一郎

Special Topics in Chemistry and Chemical Biology II

化学を出発点として生命現象の理解を目指すケミカルバイオロジーの研究について最新のトピックスを紹介する。核酸やペプチド，糖など生体関連物質を用いた化学プローブの合成について，生理活性物質の構造や相互作用について，化学プローブの生物学的，医学的応用について，などについて解説する。生物機能解明研究について具体例を挙げて学ぶことで，化学－生物学の分野横断的な考え方を身につけることを目的とする。

This course will provide an overview of chemical biology through the recent research topics of this field as follows; synthetic method for chemical probes, interaction and structural analysis of bioactive compounds, biological and biomedical applications of chemical probes.

**物質・生命理工学特論Ⅲ** 行木 信一・武田 茂樹

Special Topics in Chemistry and Chemical Biology III

タンパク質の作用機序を分子レベルで理解することはその医薬的応用に必須である。タンパク質の発現機序，それを利用した実験サンプルの調製，タンパク質の静的・動的構造と相互作用の解析について概説する。

Molecular-level understanding of action mechanisms of proteins is crucial for their application to drug development. We will review the mechanisms of protein expression, its application for the preparation of experimental samples, analyses of static/dynamic structures and interaction of protein molecules.

**物質・生命理工学特論Ⅳ** 高橋 浩・高橋 剛

Special Topics in Chemistry and Chemical Biology IV

生物機能の要となる生体高分子の化学的性質・構造・ダイナミクスを明らかにする計測手法について講義する。生体高分子の主要物質であるタンパク質を中心にして，その化学的性質，化学合成法，分子間相互作用，立体構造形成やその安定性の問題を，実験的方法の基礎原理や学部で学んだ知識の復習も含めて解説する。

Chemical natures, dynamics, and structures of biological macromolecules are fundamentally crucial for the physiological functions of those molecules. Focusing mainly on proteins, their chemical properties, chemical synthesis, intermolecular interactions, three-dimensional structure formation, and stability problems will be reviewed. This lecture also deals with different experimental methods that can be applied to reveal various properties of biological molecules and those assemblies.

## 分 析 化 学 特 論 佐藤 記一・Md. Zakir Hossain

Analytical Chemistry, Advanced Course

生物分析化学および固体表面分析における代表的分析法の原理と測定に関する考え方を理解する。具体的には、前半では電気泳動、イムノアッセイ、蛍光イメージングなどについて、後半は結晶表面の構造、再構築、逆格子およびその解析手法などについて解説する。

Basic concepts and recent progress of bioanalytical chemistry and surface analysis are discussed. The topics in this course: electrophoresis, immunoassay, fluorescent imaging, structure and reconstruction of crystal surface, reciprocal lattice of surface, different surface probed techniques and its application.

## 無 機 固 体 ・ 表 面 化 学 特 論 白石 壮志・岩本 伸司

Structure and Surface Chemistry of Inorganic Solids, Advanced Course

今日、さまざまな機能性固体無機材料が我々の生活を支えるために用いられている。本講義では、固体無機材料の構造と機能についての基礎的な知識を習得することを目標として、炭素材料および金属酸化物材料の結晶構造、細孔構造、電気化学特性、表面化学特性などについて解説する。

Nowadays, inorganic solid materials are used in various technological applications. This course provides fundamental knowledge of structure and functions of inorganic solid materials. Especially, crystal structure, pore structure, electrochemical property and surface property of carbon materials and metal-oxides are explained in detail.

## 無 機 化 学 特 論 浅野 素子・村岡 貴子・竹田 浩之

Advanced Inorganic Chemistry

有機金属錯体を含む遷移金属錯体化学の基礎および応用について解説する。特に化合物の結合、構造、反応性、物性と電子状態について、分子軌道の考え方をもとに統一的に理解することを目指す。また、金属錯体の結合や構造、電子状態の理解に必要な群論の基礎を講義する。さらに金属錯体の電子励起状態および光反応について解説する。

This course provides the basic concept and applications of transition metal complexes including organometallic compounds. Chemical bonding, structures, reactivities, properties, and electronic structure are discussed on the basis of the molecular orbital theory. Basic of group theory is introduced in order to understand electronic structure as well as chemical bonds. Further, properties of coordination compounds in the excited states are discussed in terms of electronic structure and photoreactions.

## 分子分光学特論

園山 正史・住吉 吉英

Molecular Spectroscopy, Advanced Course

分子・分子集合体の構造や性質の解明に大きな役割を果たす分子分光学の理論や実験方法について講義する。具体的には、学部の物理化学、分子分光学、構造化学を基礎として、物質科学および生命科学分野における、赤外吸収・ラマン散乱、蛍光・リン光、マイクロ波、磁気共鳴を用いた研究成果を講述する。

The aim of this lecture is to understand experimental methods and theories of molecular spectroscopy. This course will provide several topics on recent applications of infrared and Raman, fluorescence and luminescence, microwave, and magnetic resonance spectroscopies in materials and life sciences.

## 量子化学特論

奥津 哲夫・下赤 卓史

Quantum Chemistry, Advanced Course

まず、時間に依存しない Schrödinger 方程式に関する様々な電子状態理論とその分子物性への応用について学ぶ。また、角運動量の量子化とスピンの概念について講述し、その上で、電子の軌道角運動量の扱いと電子スピンの特殊性を理解する。

One of the aims of this course is to learn a variety of electronic structure theories related to the time-independent Schrodinger equation and the application to some molecular properties. Also provided are the idea of quantization of angular momentum and the concept of spin. Then, the handling of electron orbital angular momentum and the special nature of electron spin are discussed.

## 分子動力学特論

山路 稔・吉原 利忠

Molecular Reaction Dynamics

化学反応速度の動力的取り扱い法、反応速度に関する理論、拡散律速反応、酵素反応速度論、エネルギー移動反応の理論と応用、電子移動反応の理論と応用について講述する。

The aim of this lecture is to understand the kinetics of chemical reactions, representative theories on chemical reactions, diffusion-controlled reactions, enzyme reactions, energy transfer reactions, and electron transfer reactions.

## 有機反応化学特論

山田 圭一

Organic Reactions, Advanced Course

医薬品やファインケミカルなどの有用な有機化合物の化学合成を理解する上で必要な化学反応について、最新の論文に応用された実例を交えながら、講述する。前半は、クロスカップリング反応、カルボニル求核反応とその立体化学、アルケン合成などを代表的題材として、有機化学反応全般の理解に応用可能な考え方の習熟を目指す。後半は、逆合成の考え方に基づく天然有機化合物の合成に関して実例を交えながら解説する。

Fundamental principles of useful organic reactions for preparation of organic molecules such as pharmaceuticals and fine chemicals are discussed. Students will master prediction of many organic

reactions through discussion on frequently utilized reactions that appear among recent papers, for example, cross-coupling reaction, stereoselective nucleophilic reaction of carbonyls, and alkene syntheses. Furthermore, total synthesis of natural organic compounds by retrosynthetic approach will be discussed.

### 有機構造化学特論 中村 洋介・堂本 悠也

#### Advanced Organic Structural Chemistry

ひずみ, 立体化学, 芳香族性などの有機構造化学における重要な概念について解説した後, 有機機能物質化学の観点から, 有機発色性物質 (色素, クロミズム), 有機発光性物質, 有機表示物質, 有機電導性物質, 有機磁性物質, 金属イオン捕捉有機物質 (ホスト-ゲスト化学) 等について概論的に講述するとともに, それぞれの実例を挙げて解説する。

This course provides some essential concepts in organic structural chemistry such as strain, stereochemistry, and aromaticity, and the outline and examples of organic functional materials, such as organic dyes, light-emitting materials, display materials, conductors, magnets, and ionophoric materials.

### 有機合成化学特論 網井 秀樹・菅野 研一郎

#### Advanced Synthetic Organic Chemistry

現代の有機合成化学の基幹をなす様々な概念について学ぶ。主な内容として, 遷移金属触媒を用いた反応, 典型元素試薬を用いた反応, 立体選択性, 官能基変換反応, 不斉触媒反応などを軸として講述するが, 最近のトピックとして天然物合成や機能性材料の合成などについても紹介する。

Essential concepts of modern synthetic organic chemistry are discussed, such as transition-metal-catalyzed reactions, chemistry of main group elements, stereoselectivity, functional group transformations, catalytic asymmetric reactions, and some recent topics including synthesis of natural products and advanced functional materials.

### 有機元素化学特論 海野 雅史・武田 亘弘

#### Advanced Organic Element Chemistry

(海野教授) ケイ素を含む化合物について, 元素特性から合成, 材料としての応用まで, 広くわかりやすく解説する。また, 講義の中で研究の進め方, キャリアアップの方法, 海外での研究など周辺的な事項についても触れる。

(武田准教授) 炭素-典型元素 (リチウム, マグネシウム, ホウ素, ケイ素, リン, 硫黄など) 結合を持つ化合物 (有機典型元素化合物) の構造, 合成, 反応性について系統的に解説する。

(Prof. Unno) The basic, synthesis, and material application of silicon-containing compounds are described. Also additional information about research, carrier-up, and activities in the foreign countries is also supplied.

(Prof. Takeda) Structure, synthesis, and reactivities of organic main group compounds having bonds between a carbon and a main group element (lithium, magnesium, boron, silicon, phosphorus, sulfur

and so on) are systematically explained.

## 高分子成形加工特論

上原 宏樹・浅川 直紀

Polymer Processing

高分子材料の超延伸技術を通して、鎖状であるが故に発現する分子鎖絡み合いが成形加工性と物性に及ぼす役割について考察する。また、高分子薄膜の作製プロセスや自己組織化などの時空間ダイナミクスに係るシナジェティクスの基礎事項についても解説する。

This course discusses the role of molecular entanglements on polymer processing and properties through various super-drawing techniques of polymeric materials. Furthermore, fundamental aspects of synergetics concerning spatio-temporal dynamics such as self-organization processes for polymeric thin films are also given.

## 生物機能工学特論

井上 裕介・武田 茂樹

Food Immunology and Cell Engineering, Advanced Course

この講義では食品免疫学と細胞工学についての講義を行う。食品免疫学では、免疫制御に関する分子機構を理解するとともに、その機能性食品、アレルギーや自己免疫疾患の予防を目的とした食品への応用に関して考察する。細胞工学では、哺乳類細胞における代謝の制御機構について講義する。また、遺伝子工学的手法を用いた多機能性細胞の開発や遺伝子改変動物の作製などについて紹介する。

This course covers food immunology and cell technology. “Food immunology” emphasizes the molecular basis of regulation of immune responses and their application to the functional foods, especially to the prevention of allergy and autoimmune disease. “Cell technology” focuses on regulatory mechanism of metabolism in mammalian cells. New techniques such as development of pluripotent cells and establishment of genetically modified animals using genetic engineering will be also introduced.

## 放射線利用環境浄化技術特論

瀬古 典明・田口 光正・廣木 章博

Environmental Purification Technology using Ionizing Radiation, Advance Course

電子ビームなどの放射線を利用して空気・水中に生成させた活性種の化学反応により、共存する環境汚染物質を分解・除去する技術、また放射線加工による有害金属等の吸着剤及び生分解性材料の改質に関わる基礎と応用について講義する。

This lecture covers fundamental and application of chemical reactions of active species induced in air or water by ionizing radiation such as electron beams, relating to environmental purification technologies: decomposition/ removal of coexisting organic pollutants, modification of absorbent materials or biodegradable polymers using ionizing radiation.

**化学計量標準特論**

朝海 敏昭・羽成 修康

Chemical Metrology and Standards

正確かつ精密な化学分析は、研究開発、政策決定、商取引などに不可欠であり、そのために検量学の概念が化学計測に取り込まれている。化学計測におけるトレーサビリティ、分析値の信頼性、不確かさの評価、標準物質など、化学計量における重要な項目について講義する。

Discussed are fundamental concepts in chemical metrology such as the traceability in measurements, evaluation of uncertainties in analytical values, role of standard reference materials and etc.

**量子ビーム利用機能性材料創製特論**

前川 康成・八巻 徹也・山本 洋揮

Advanced Course on Quantum Beam Application for Creating Functional Materials

電子、イオン、中性子、X線、 $\gamma$ 線などの量子ビームの性質および物質・材料に及ぼす照射効果について解説する。また、量子ビームを利用した有機・無機機能性材料の創製に関する研究開発事例についても紹介する。

This advanced course covers the intrinsic properties and irradiation effects of quantum beams such as electron beams, ion beams, neutron beams, X-rays, and  $\gamma$ -rays. Topics also include some examples of R & D activities for creating organic and inorganic functional materials by quantum beams technology.

**バイオプラスチックデザイン工学特論**

阿部 英喜・沼田 圭司・吉川 佳広

Advanced Course on Molecular Design for Bioplastics

本科目では、バイオマスを原料とするバイオプラスチックデザインを体系的に学ぶ。バイオマスからバイオベースケミカルの精製（バイオリファイナリー）、バイオベースケミカルを利用したバイオプラスチック合成、バイオプラスチックの構造および機能制御、バイオプラスチックの生分解性制御など、バイオプラスチックデザインに必要な知見を、先端研究成果を交えながら講述する。

Systematic knowledge that are needed in designing of bioplastics are lectured. This lecture contains different disciplines: biorefinery, synthesis of bioplastics, control of structure and function of bioplastics. Recent studies on bioplastics will be also introduced.

**生物科学特別講義 I**

生体調節研究所各教員

Special Lecture in Life Sciences I

細胞分子生物学分野の基礎的な学識と手法とともに、最新の研究成果、その考え方を学ぶ。

This course outlines the fundamentals and methodology of molecular cell biology, and the current topics and research achievements are explained.

物質・生命理工学特別講義Ⅰ 各教員

物質・生命理工学特別講義Ⅱ 各教員

物質・生命理工学特別講義Ⅲ 各教員

物質・生命理工学特別講義Ⅳ 各教員

理 工 学 特 別 演 習 全教員

Seminar in Specialized Topics

物質科学，生物科学，計測科学に関する先端的な概念を学び修士論文作成のために必要な知識を習得するために，指導教員の指導領域から研究課題を選択して，これに関連した文献調査・講読などの演習を行う。

理 工 学 特 別 実 験 全教員

Experimental Research in Specialized Topics

物質科学，生物科学，計測科学に関する先端的な研究手法を実践的に学ぶために，指導教員の指導領域から研究課題を選択して，理論研究・実験・数値解析などの研究をおこない，修士論文の作成指導を受ける。





知能機械創製理工学教育プログラム（博士前期課程）

プログラム・科目区分	授 業 科 目	担当教員	単位数	週授業時間数				備 考
				1 年 次		2 年 次		
				前	後	前	後	
知能機械創製理工学教育プログラム	(数学系科目)							・理工学特別演習4単位、理工学特別実験8単位及びサイエンススペース機械知能システム特論2単位を含む32単位以上を修得すること。 そのうち、学府共通教育科目から3単位以上、所属するプログラムの理工学特別演習及び理工学特別実験を除くコア教育科目から6単位以上を修得すること。 ・重粒子線理工学グローバルリーダー養成プログラム（重粒子線理工学連携コース）在籍者は、リーディングコース科目医理工共通科目群の生命倫理と法的規制、関連法規・医療倫理及び研究倫理から1単位以上、重粒子線理工学科目群から2単位以上修得すること。 ・リーディング医工学科目（学府開放教育科目及び全教育プログラムのコア科目中の★科目）から4単位以上履修すること。 ・リーディング医工学科目は上記【修了要件】の修得単位に含むことができる。
	代数特論 I	名越	2	(開講なし)				
	代数特論 II	名越	2		2			
	代数特論 III	名越	2	2				
	解析特論 I	高江洲	2	2				
	解析特論 II	高江洲	2		2			
	解析特論 III	高江洲	2	2				
	関数解析特論 I	田渡	2	(開講なし)				
	データ解析特論 I	田渡	2	(開講なし)				
	バイオデータ解析・統計特論	半田・石井	2		2			
	(物理系科目)							
	熱力学特論	山本(隆)・武野	2	2				
	量子物理学特論	引守	2		2			
	統計物理学特論 I	引守	2	2				
	統計物理学特論 II	山本(隆)	2		2			
	物性物理学特論 I	長尾	2	2				
	物性物理学特論 II	高橋(学)	2		2			
	システム物理学入門	高橋(学)	2	(開講なし)				
	(化学系科目)							
	固体化学特論	花屋・京免・藤沢	2		2			
	有機化学特論	久新・中村・堂本	2		2			
	高分子化学特論	米山・奥(浩)	2	2				
	(生物系科目)							
	生物科学特論	井上・武田(茂)	2	2				
	(インテンシブ科目)							
	理学インテンシブ I	佐藤(正)	1		1			
理学インテンシブ II	山本(隆)	1			1			
理学インテンシブ III	高橋(学)	1			1			
理学インテンシブ IV	守田	1	1					
理学インテンシブ V	引守	1	1					
理学インテンシブ VI	長尾	1		1				
理学インテンシブ VII	鈴木(真)・太田	1		1				
(実践実習科目)								
分析・測定スキルアップ実践実習	松尾・堂本	1		1				
CAD・CAMスキルアップ実践実習	林	1	1					
環境計測・シミュレーションスキルアップ実践実習	渡邊・中川	1	1					
(プロジェクト系科目)								
ファイブプロバイオ工学特論	粕谷・河原・橋	2		2				
医工連携特論	伊藤(正)	1						
医理工連携重粒子線治療の物理と医学特論(★)	櫻井・花泉 他	2	2					
医学物理計測制御特論(★)	鈴木	2		2				
総合日本語中級 I	大渡	1	1					
総合日本語中級 II	大渡	1		1				
総合日本語上級 I	大渡	1	1					
総合日本語上級 II	大渡	1		1				
学府共通教育科目								
集中講義								
隔年開講・集中講義								
隔年開講・集中講義								
隔年開講								
隔年開講								
隔年開講・集中講義								
学府開放教育プログラム								
(実践実習科目)								
分析・測定スキルアップ実践実習	松尾・堂本	1		1				
CAD・CAMスキルアップ実践実習	林	1	1					
環境計測・シミュレーションスキルアップ実践実習	渡邊・中川	1	1					
(プロジェクト系科目)								
ファイブプロバイオ工学特論	粕谷・河原・橋	2		2				
医工連携特論	伊藤(正)	1						
医理工連携重粒子線治療の物理と医学特論(★)	櫻井・花泉 他	2	2					
医学物理計測制御特論(★)	鈴木	2		2				
総合日本語中級 I	大渡	1	1					
総合日本語中級 II	大渡	1		1				
総合日本語上級 I	大渡	1	1					
総合日本語上級 II	大渡	1		1				
技術マネジメント系科目								
MOT特論	伊藤(正)・萩原	2	2					
経営工学特論	坂田・星野	2		2				
インターンシップ	伊藤(正)・角田・芳賀	2		2				
長期インターンシップ	全教員	1						
科学研究発表技術	全教員	4						
コミュニケーション技術	海野	2	2	2				
国際コミュニケーション I	未定	1	(1年次に行う)					
国際コミュニケーション II	海野	1						
アントレプレナーシップ特論	板橋	2						
コア教育科目								
(分野統合科目)								
サイエンススペース機械知能システム特論	石間・中沢・山田(功)・林	2	2					
エネルギー変換工学特論 I	座間	2		2				
エネルギー変換工学特論 II	古畑	2			2			
圧縮性流体力学特論	船津	2		2				
熱流体工学特論	天未	2			2			
エネルギーシステム工学特論	未定	2						

プログラム ・科目区分	授 業 科 目	担当教員	単 位 数	週授業時間数				備 考
				1年次		2年次		
				前	後	前	後	
知能機械創製理工学教育プログラム	エネルギー解析工学I	石川 間島	2			2	隔年開講	
	エネルギー解析工学II	荒木(幹)	2			2	隔年開講	
	エネルギー計測工学	松原 岩崎	2	2				
	破壊力工学特論	岩 莊	2		2		隔年開講	
	信頼性工学特論	岩 莊	2		2		隔年開講	
	通信システム特論	鈴木(良)	2		2		隔年開講	
	精密加工特論	林	2	2			隔年開講	
	材料加工特論	半谷	2	2			隔年開講	
	界面科学特論	小相	2		2		隔年開講	
	応用力学特論	小相	2	2			隔年開講	
	ソフマテリアル工学特論	井上	2		2		隔年開講	
	弾性波動学	山口	2	2			隔年開講	
	機械のダイナミクス	丸山	2	2				
	機械物理計測特論(★)	藤井	2	2			隔年開講	
	ロボット工学特論	村上	2		2		隔年開講	
	知能機械工学	未定	2					
	ヒューマンインタフェース特論	未定	2		2			
	生体運動制御特論(★)	山田(功)	2		2			
	計測制御工学特論(★)	田中(勇)	2		2			
	コンピュータシステム特論	田中(勇)	2		2			
	システム最適化特論	K a m a l	2	2				
	人工知能特論	山田(功)	2	2			隔年開講	
	マイクロナノシステム特論	鈴木(孝)・田中(有)	2	2				
	I o T 特論	未定	1	1			集中講義	
	産業人材育成特論	荒木・天谷・岩瀬・川島・江本・志賀・熊川・中谷	2	2			集中講義	
	知能・制御のための数理データサイエンス	山田(功)	2		2			
	社会安全システム工学特論	田北	2		2		隔年開講	
	研究発表討論セミナー	山田(功)	1			1		
	リーダーシップ論I	Mai Thi Nghia	2		2		2	
	リーダーシップ論II	Mai Thi Nghia	2	2			2	
	繰返し非弾性ひずみと構造物の強度設計	若井・岡島	1	1			集中講義	
	知能機械創製理工学特別講義I	未定	1		2		集中講義	
	知能機械創製理工学特別講義II	未定	1		2		集中講義	
知能機械創製理工学特別講義III	岩崎・渡壁	1	1			集中講義		
知能機械創製理工学特別講義IV	鈴木(秀)	2	1	1				
知能機械創製理工学特別講義V	安藤(哲)	1	1			集中講義		
知能機械創製理工学特別講義VI	藪野	1		1		集中講義		
知能機械創製理工学特別講義VII	渡邊	1	1			集中講義		
理工学特別演習	教員	4						
理工学特別演習	教員	8						
リーディング科目	(医理工共通科目群)							
	生命倫理と法的規制	曾根	1					
	関連法規・医療倫理	曾根	1					
	研究倫理	曾根	1					
	解剖学	武田(茂)	1			1		
	生理解理	武田(茂)	1			1		
	(医学物理基礎科目群)							
	力電	井泉	2					
	磁気	井泉	2					
	量子力学	山	2					
	物理数	山	2					
	放射線物理解	井	2					
	医療・画像情報	井	2					
	統計学	山	2					
	英語	山	2					
(重粒子線理工学科目群)								
保健物理・放射線防護学講義	櫻井	2			2	集中講義		
放射線診断・核医学物理学講義	櫻井	2			2	集中講義		
放射線治療物理学講義	大野	2			2	集中講義		
基礎腫瘍学	武田(茂)	2			2			
放射線生物学	武田(茂)	2			2			

## [コア教育科目]

(分野統合科目)

### サイエンスベース機械知能システム特論 石間 経章・中沢 信明・山田 功・林 偉民

Intelligent Mechanical Systems based on Science, Advanced Course

「エネルギーシステム」「マテリアルシステム」「メカトロニクス」「インテリジェントシステム」に関して、分野を超えて共通の理論体系や解析手法について学ぶ。新しい機械知能システムを創製していくことができる高度な知識を身に付け、分野融合型プロジェクトにも参画できる実践力や独創力を養う。

Common theoretical systems and analytical method related with “Energy System”, “Material System”, “Mechatronics” and “Intelligent System” are learned. Advanced knowledge for developing the new intelligent mechanical systems is obtained. Practical skills and creativity for participating in the field integration project is also developed.

### エネルギー変換工学特論 I 座間 淑夫

Advanced Energy Conversion I

熱エネルギー変換における液体燃料の燃焼方法に用いられる噴霧燃焼について、物理学的また化学反応の立場からの講義を行う。特に燃料噴霧の形成における燃料微粒化、噴霧流動について流体力学的な観点から理解することを目的とする。そのため、噴霧の現象論的な理解を深めるため、噴流理論や噴霧計測法、さらには数値解析法などについて解説する。

This lecture provides the physical and chemistry knowledge for spray combustion of liquid fuel. Especially, the aim of this lecture is to understand atomization mechanism and spray characteristics of the liquid fuel in terms of fluid dynamics. To achieve this aim of the lecture, jet theory, measurement technique of the spray, numerical simulation method and so on are explained.

### エネルギー変換工学特論 II 古畑 朋彦

Advanced Energy Conversion II

熱エネルギー変換における熱発生プロセスとしての燃焼現象について、熱流体の観点から解説する。特に、乱流場における速度、温度および濃度変動と化学反応や物質移動との関連を理解することを目的とする。そのために、乱流モデルや燃焼、化学反応とその数学的モデルや数値解析法などについて解説する。

Combustion phenomena in thermal energy conversion systems are lectured from the view point of thermal fluid flow. The aim of this lecture is to understand the relationship between velocity, temperature and mass concentration fluctuations and chemical reactions in turbulent flow. Numerical models of turbulence and combustion and numerical simulation methods for turbulent combustion are also discussed.

## 圧縮性流体力学 船津 賢人

### Compressible Fluid Dynamics

学部での流体力学，流体力学関連の講義科目を基礎にして流体力学と熱力学の知識を必要とする圧縮性流体力学を講義する。具体的内容として，1. 圧縮性と等エントロピー流，2. 衝撃波，3. プラントルマイヤー流，4. 化学反応を伴う流れ，5. 管内圧縮流れ，6. 極超音速流などである。

This course covers the theory of compressible fluid dynamics on the basis of fluid engineering and fluid dynamics. It provides compressible flows, isentropic flows, shock waves, Prandtl-Meyer flows, flows with chemical reactions, and hypersonic flows.

## 熱流体工学特論 天谷 賢児

### Advanced Thermo-Fluid Engineering

熱流体工学で取り扱う輸送現象の理解を深めるために，熱流体工学の基礎方程式であるいくつかの微分方程式を，質量，運動量，エネルギー保存原理から導く。運動量の保存法則からオイラーの運動方程式やナビエ・ストークス方程式を，エネルギーの保存則から，エントロピー方程式や熱伝導方程式を求め，これらの方程式から得られるいくつかの解析解についても言及する。

The objective of this course is to learn the basic equations of mass, momentum and energy conservation for understanding of thermo-fluid transport phenomena. In this lecture, general conservation equations for mass, momentum and energy, Euler's equation of motion, Navier-Stokes equation, entropy equation, diffusion equation, heat conduction equation are explained.

## エネルギーシステム工学特論 未定

### Advanced Energy Systems Engineering

学部の熱力学 I & II，流体工学基礎，流体力学 I & II，エネルギー変換工学，エネルギー計測工学，エネルギー解析工学を基礎として，エネルギーの発生（燃焼と熱移動の理論），エネルギーの利用（内燃機関と蒸気タービンの熱力学と実際），エネルギーと環境（環境汚染物質の発生と抑制技術）について講述する。

On the basis of the thermodynamic cycle analysis and the energy utilization technology, followings are discussed: importance of temperature - entropy diagrams in the consideration of ideal cycle analysis, comparison study between Otto cycle and Diesel cycle, combined effect of Otto cycle and Brayton cycle, and comparison study of Rankine cycle and Carnot cycle. In addition to this, basics of combustion are given by defining the followings; stoichiometry and equivalence ratio, calorific value and enthalpy of formation, specific heat and adiabatic flame temperature, thermal dissociation effect, combustion products and the formation of air pollution, and thermal efficiency of actual heat engines. Recent strategies for suppressing pollutant products are also discussed.

## エネルギー解析工学 I 石間 経章

### Analysis of Fluid Dynamics and Heat Transfer I

流れおよび熱の移動の実験を遂行する際に必要となる流体力学や伝熱工学について講義する。これらを基にして、実験遂行のため計測器の正しい選定と正しい実験計画を行えるような知識を身につける。さらに、熱と流れの数値シミュレーションの基礎を講義することで実験とシミュレーションの利点欠点を理解する。

Fluid dynamics and heat-transfer engineering are introduced for planning and performing measurements of flow and heat-transfer. The goal of this lecture is to obtain the knowledge to use the correct planning and selection of the equipment and the experimental method of the fluid and thermal experiments. In addition, fundamentals of numerical simulation are lectured. The advantages and the disadvantages of both experiment and simulation are understood.

## エネルギー解析工学 II 川島 久宜

### Analysis of Fluid Dynamics and Heat Transfer II

流れおよび熱移動を理解するために必要な流体力学、伝熱工学について講義する。また、実際に熱および流体にみられる偏微分方程式に対して、基礎的な数値シミュレーションを用いた解法を紹介することで、流れおよび熱移動に対する基礎的な知識を習得する。

Fluid dynamics and heat-transfer engineering are introduced to understand of heat and fluid flow. The aim of this lecture is to obtain the knowledge to the phenomena of fluid flow and heat transfer by introducing the governing equations in the fluid dynamics and heat transfer engineering. And, in this lecture the basically numerical analysis is introduced for the equations to understand the fluid flow and heat transfer.

## エネルギー計測工学 荒木 幹也

### Instrumentation Engineering for Energy Systems

物理現象解明は、現象を適切に計測し、結果を正確に解釈することから始まる。本講では、エネルギー分野で多用される (1) オリフィス・ベンチュリ流量計, (2) バルブ, (3) 熱式流量計, (4) レーザドップラ流速計, (5) 熱電対などの、計測原理・使用法の実際について詳細に解説する。これは単に計測装置の解説ではなく、流体力学、熱力学、伝熱工学、電気・電子工学といった基礎科目の理解を必要とするものである。なお講義は英語で進行していく。

In order to reveal the physics behind phenomena, it is necessary to measure them correctly and accurately. In this lecture, several instruments often used in energy systems, such as 1) orifice and Venturi flow meters, 2) valves, 3) hot-wire flow meters, 4) laser Doppler anemometers, 5) thermocouples and so on are introduced and their methodologies are explained in detail. This lecture is based on fluid dynamics, thermodynamics, heat transfer, electricity engineering and so on. We will be using English throughout the course.

## 破 壊 力 学 松原 雅昭

### Fracture Mechanics

脆性破壊や疲労破壊を解析する上で重要となる線形弾性破壊力学について、応力拡大係数の解説を中心に講述する。

併せて、破壊力学を実際に使用する上で必要となる非破壊検査技術についても解説する。

Give an overview of linear elastic fracture mechanics important for analyzing brittle fracture and fatigue fracture mainly about explanation of stress intensity factor. Give an explanation of non-destructive inspection needed for practically using fracture mechanics.

## 構 造 信 頼 性 工 学 特 論 岩崎 篤

### Advanced Structural Reliability Engineering

効率的な保全の実施に必要な、様々な機器・構造・機械要素の信頼性・安全性を確率論をベースに定量評価する手法について講義を行う。具体的には、基礎となる確率論に関する解説から、故障率・破損確率の評価手法、様々な強度に関するパラメータの確率論的な取り扱い、限界状態関数法、FOSM, FORM に関する解説をおこない、それらを用いた信頼性設計法までを講義する。

This course provides the theory of evaluation of structural reliability based on strength of materials, fracture mechanics and statistics. Various topics relating to maintenance of structures via structural reliability engineering will be introduced.

## 材 料 設 計 工 学 特 論 荘司 郁夫

### Advanced Materials Design Engineering

学部の機械材料 I, II を基礎にして、構造材料および機能材料について基本的特性とその影響因子を述べ、機器・装置として使用する場合の問題点と材料設計の考え方および機械設計のための材料選定を理論および工学の立場から講述する。

The aim of this lecture is to understand methods of control of microstructures, mechanism of materials degradation and materials selection in mechanical design based on the relationship between materials properties and microstructures.

## 精 密 加 工 特 論 林 偉民

### Precision Mechanical Engineering, Advanced Course

精密機械の構造、設計原理、加工方法について論じる。主な内容として、精密機械の構成、超精密機械システムの設計原理とその事例、超精密加工法について議論する。

The aim of this lecture is to understand the precision machine tool and the precision machining process. The topics in this course will be introduced as follows; the configuration of the precision machine tools, design principle and examples of ultra-precision mechanical systems, and ultra-precision machining process.

## 材 料 加 工 学 特 論 半谷 禎彦

Advanced Materials Production Engineering

学部の機械加工学，機械材料，弾性力学，塑性・塑性加工学を基礎として，加工に必要な基礎的理論とその解法について述べると共に，各種加工法のメカニズムを概説する。

Give an overview of mechanism and evaluation method of materials production.

## 界 面 科 学 特 論 小山 真司

Interface Science, Advanced Course

界面科学の基礎理論を概説する。具体的には，複合材料の設計手法，界面反応の熱力学・反応速度論，不均質材料の強度，異材界面の特性評価法，異材界面の制御法について講義する。

The aim of this lecture is to understand the basic theory of interface science. The topics in this course will be introduced as follows: methods of designing composite materials, thermodynamics and reaction kinetics of interfacial reactions, strength of inhomogeneous materials, dissimilar interface characteristic evaluation methods, and control methods of dissimilar interface.

## 応 用 力 学 特 論 相原 智康

Applied Mechanics, Advanced Course

非常に多数の質点からなる質点系の運動状態（位置と速度）とポテンシャルから、マクロな熱力学量・力学量・相関関数などを，位相空間の観点や統計力学の手法を応用して評価する方法について講義する。

Lectures are given on how to evaluate macroscopic thermodynamic quantities, dynamic quantities, correlation functions, etc. of the system of particles with a large number of particles, for example, the result of molecular dynamics simulation, from their position, velocity and potential by using the viewpoint of phase space and the methods of statistical mechanics.

## ソ フ ト マ テ リ ア ル 工 学 特 論 井上 雅博

Soft Material Engineering, Advanced Course

有機高分子材料（樹脂，ゴム）などの工学的応用について理解するための物理化学的基礎を講義する。また，構造材料（エンジニアリングプラスチック，複合材料），機能材料，異種材料接着技術，熱伝導制御技術など，具体的な機械工学分野での応用例について解説する。

Physicochemical basis of soft materials such as organic polymers (resins and rubbers) is introduced to understand engineering applications of these materials. In addition, practical applications in mechanical engineering including structural materials (engineering plastics, composites), functional materials, adhesives and thermal interface materials are explained.

## 弾 性 波 動 学 山口 誉夫

Theory of Elastic Waves

複雑な機械構造物の動特性について，変形を伴う運動の数値解を得る方法を学ぶ。弾性体，粘弾性体



の動的有限要素の基礎理論，慣性行列，減衰行列，剛性行列の導出，要素の高精度化（次数低減積分，非適合モード），高速応答計算法（複素数による解法，モード座標，大規模自由度の解法）を講義する。

For complicated problems of structures including motions with elastic/viscoelastic deformation, computational methods are given using FEM. Derivation of inertia, damping and stiffness matrix is discussed. Advanced elements (i.e. reduced integration and non-conforming modes) are explained. Fast computation methods (e.g. response analysis using complex matrix, modal coordinates) to calculate responses are provided.

## 機械のダイナミクス 丸山 真一

Advanced Dynamics of Machinery

学部の機械力学 I，機械力学 II を基礎にして，機械・構造物の動的解析方法を修得する。具体的にはマトリックス法による振動解析，一自由度系の非線形振動，静的平衡点とその安定性，非線形周期応答とその安定性，多自由度系や連続体の非線形振動問題について講義する。

This course provides analytical method on dynamics of machines and structures. It gives the matrix method, nonlinear vibrations of 1-dof system, static equilibrium state and its stability, nonlinear periodic responses, nonlinear phenomena of multiple dof system and of continuous system.

## 機械物理計測特論 藤井 雄作

Mechanical-Physical Instrumentation and Measurement, Advanced Course

機械工学を含む科学技術の広い分野で重要な役割を担う機械物理計測 について，深い理解と，それに裏打ちされた応用力を養うことを目指す。まず，物理量の計測で基本となる，国際単位系の仕組み，各単位の標準，各種計測器・センサの校正方法，計測値の不確かさ評価方法について，深く学ぶ。次に，先端分野として，力センサの動的校正法，宇宙ステーションでの質量計測法，などの機械物理計測を例にとり，それらの改良案を考えることを通して，実践的な応用力をつけることを目指す。

The aim of this lecture is to give the deep knowledge and the clear understanding on the mechanical-physical instrumentation and measurement. Firstly, the fundamentals of the measurement, such as the International System of Units, the measurement standards, calibration of sensors and the measurement uncertainty, are discussed. Secondly, the advanced applications, such as dynamic calibration of force sensors, BMMD (Body Mass Measurement Device) for use in the International Space Station, are discussed to improve the practical ability needed for the engineers and the researchers.

## ロボット工学特論 村上 岩範

Robotics

最近のロボット研究の動向，ロボットの運動，制御，軌道計画について講義を行う，特にノンホロノミック系の劣駆動型ロボットの運動学を中心として教育を行う。またこれに伴い，非線形システムについての線形化，非線形システム制御，ノンホロノミック制御も扱う。

The aim of this lecture is to understand kinematics, control, and trajectory planning of robot.

Especially, it lectures on the Nonholonomic control, the nonlinear system control and the linearization of the nonlinear system. The topics in this course will be introduced as follows; kinematics and control of Nonholonomic system.

## 知 能 機 械 工 学 未 定

### Intelligent Machine

制御工学を応用した機械の設計と解析において、各種の制御を組み込むことにより知能化や性能の最適化が行われている。最適化に関する種々の数理的アプローチや知能化の現状などについて例題を交えながら講義する。

In analysis and design of the machine with use of the control engineering, performance optimization and high intelligence are carried out by the various control theories and intelligence approaches. This lecture deals with the some approaches for the optimization and high performance by using the examples.

## ヒューマンインタフェース特論 中沢 信明

### Advanced Human Interface

画像処理ならびに各種センサを利用した人間の生体運動と感覚特性のセンシング手法について講義するとともに、操作者のユーザビリティに基づくヒューマンインタフェースについて講述する。

Give the method for measurement of human biomechanics and sensory characteristics using image processing and various sensors, and the advanced human interface based on operator usability.

## 生 体 運 動 制 御 特 論 未 定

### Human Robotics, Advanced Course

ヒトの優れた生体運動制御機能を応用して、機械システムの知能化を実現するために、生体運動制御で重要な役割を果たす最適化の基礎について講義する。具体的には、関数最適化法の理論とその計算手法、変分法の理論とその計算手法、生体運動制御への応用例について講述する。

The aim of this lecture is to understand the basis of optimization theory necessary for developing more advanced and intelligent robotic systems. The topics in this course will be introduced as follows; functional optimization, calculus of variations, and actual optimization problems in human motor control mechanism.

## 計 測 制 御 工 学 特 論 山田 功

### Advanced Measurement and Control Engineering

プロパー安定有理関数行列を用いた制御系設計法を概観する。特に、安定化補償器のパラメトリゼーションと  $H^\infty$  制御の基礎を説明する。具体的な授業内容は、古典制御、現代制御の復習、安定有理関数環の基礎、安定化補償器のパラメトリゼーション、 $H^\infty$  制御等である。

This lecture gives an overview of design methods of control systems using proper stable rational

function matrices. Especially give the parameterization of all stabilizing controllers and H infinity control.

## コンピュータシステム特論 田中 勇樹

Computer Systems, Advanced Course

コンピュータシステムの心臓部であるプロセッサの論理的構造の基礎について講義する。具体的には、プロセッサでの四則演算の方法や実装、パイプライン処理のプロセッサ上での実現などの概要を論述する。

This course aims to understand the fundamentals of processor architecture which is a key component of a computer system. The course will outline the methods and implementation of basic arithmetic operations, pipeline processing, et al.

## システム最適化特論 Md Abdus Samad Kamal

Advanced Optimization Systems

システム最適化問題の分類，計算の複雑さ，解法について講述する。システム最適化手法の基礎的知識を身に着け，発展的内容として，最適システム制御への実応用についての技術動向を探る。

This course aims at providing basic knowledge about system optimization, classification of optimization problems, computational complexity, and solving techniques while focusing on both the current and future engineering applications in the relevant fields.

## 人工知能特論 山田 功

Advanced Artificial Intelligence

前半では，人工知能における従来の手法とアルゴリズムについて講義を行う。それをもとに，機械のユーザインタフェース，自動制御，設計最適化，知識処理，感性情報処理，医療工学の各分野における最新の話題に対して，応用可能性を探る。

In the first half of the class, lectures on the conventional methods and the algorithms in the Artificial Intelligence (AI) technique are given. Then, based on this, it is discussed how to apply these AI techniques to the user-interfaces of machines, autonomous behaviors of agents, design optimizations, knowledge processing, Kansei information processing and medical engineering.

## マイクロナノシステム特論 鈴木 孝明・田中 有弥

Advanced Micro and Nanosystems

マイクロナノシステムの創製に必要な設計・解析，加工，評価・応用に関する各種技術を体系的に理解し，応用例を含む技術動向について，理解を深めることを目的とする。また，半数の回については，企業での実務経験のある教員が，その経験を活かしてデバイスの動作原理を解説する。

The aim of this lecture is to understand the state-of-art technology of micro/nano-systems and the operation mechanisms of semiconductor devices. Various technologies concerning design, analysis,

processing, evaluation and application needed to create micro/nano-systems are systematically understood. The device operation will be explained based on basic semiconductor physics.

## I o T 特 論 未 定

Internet of Things, Advanced Course

ものづくりへのIoT活用により生産性向上を実現する手法の基本的な考え方について理解することを目的とする。実際の製造プロセスでの課題となる計測プロセス、解析プロセスおよびフィードバックプロセス等についての基礎とそれらの関連性を踏まえた制御手法等について講述する。

The aim of this lecture is to understand the fundamental methods for improving productivity by IoT in manufacturing. Typical IoT process such as measurement, analysis, evaluation, feedback and control methods based on their relationship are discussed.

## 産 業 人 材 育 成 特 論

荒木 幹也・天谷 賢児・岩瀬 勉・川島 久宜・  
江本 聞夫・志賀 聖一・熊川 拓也・中谷 淳一

Advanced Course of Industrial Human Resource Development

県の基幹産業である自動車産業を中心として、その将来を見据えた人材育成を行う。群馬県の歴史と伝統、自動車関連の先端研究、自動車のデザイン、産業におけるIOT、デジタル化に関連した座学、ハイエンドな3-D CADであるCATIAの体験、県内のものづくり関連企業における短期インターンシップ、そして産業に関するPBL授業を行う。

Focusing on the automobile industry in Gunma, future human resources are developed through the course. Lectures related to the history and tradition of Gunma, advanced research to automobiles, automobile design, IOT in industry, digitization, experience of CATIA, a high-end 3-D CAD, short-term internship at manufacturing companies, and PBL classes on industry are held.

## 知能・制御のための数理データサイエンス 山田 功

Mathematical Data Science for Artificial Intelligence and Control

情報通信技術の進歩により膨大なデータの取得・処理が可能な時代となり、数理的根拠に基づいて戦略的にデータを扱うことの重要性がますます増大している。我が国が世界に先駆けてSociety 5.0を実現していくために、データサイエンスの活用能力をもつ人材の育成が求められている。そこで本講では、データ解析・機械学習の手法について数学的に講述し、さらにプログラミング演習により実践のための素養を確かにする。

With advances in information and communications technology enabling us to acquire and process vast amounts of data, the importance of strategically handling data based on mathematical evidence is increasing. In order for Japan to be the first country in the world to realize Society 5.0, it is necessary to develop human resources capable of utilizing data science. In this course, we will give a mathematical lecture on the methods of data analysis and machine learning, and furthermore, we will use programming exercises to confirm our practical skills.

## 情報通信システム特論 鈴木 良祐

### Information & Communication System Engineering

一般的な機械系エンジニアが身に着けるべき基礎的な情報処理技術, 通信技術, デジタルセキュリティ技術の素養身に着けることを目的とする。

The lecture provides basic knowledge for information processing technology, communication technology and digital security technology necessary for common mechanical engineers.

## 社会安全システム工学特論 田北 哲洋

### Social Safety System Engineering

ICT, IoT, AI, Big Data を理解するのに必要な知識を習得し, その実際の応用方法について学ぶ。加えて, 高度情報化社会においてプライバシーの喪失や監視社会につながる事の危険性とその防止策について, 現状と将来展望を交えて学ぶ。

The aim of this lecture is to learn the knowledge necessary to understand ICT, IoT, AI, and Big Data, and learn how to apply them in practice. In addition, the lecture provides the dangerousness and prevention method of the loss of privacy and super surveillance society in the advanced information society, including the current situation and future prospects.

## 研究発表討論セミナー 山田 功

### Seminar for Research Presentation and Discussion

各大学院生が, 自ら行っている研究課題についての口頭またはポスター発表を行う。各指導教員の指導のもとに, 研究成果のまとめ, 文献的考察, 位置付けを行い, 学会発表形式で口演を行う。発表は, すべての学年の大学院生及び関係する指導教員による分析・検証を受け, 問題点を明らかにし, お互いにその解決方法を探る。発表後は, 自らの研究課題に関する問題点の整理やその解決法, 並びに今後の研究の展望についてのレポートを提出する。この発表により, 大学院生は相互理解を深め, 研究成果活用方法について視野を広げ, 新たな興味を喚起することが可能となる。

Graduate students will give an oral or poster presentation on their research topic. Under the guidance of advisors, they will summarize their research results, examine the literature, position them, and give an oral presentation in the form of a conference presentation. Graduate students of all grades and related academic advisors will evaluate the individual research presentations, clarify problems, and discuss solutions for further improvement with each other. After the presentation, students are required to submit a report on the issues related to their own research topic, their solutions, and the prospects for future research. Through this presentation, graduate students are expected to deepen mutual understanding, broaden their perspectives on utilizing research results, and arouse new interests.

## リーダーシップ論 I Mai Thi Nghia

### Leadership I

国費外国人留学生の優先配置を行う知能・制御のための特別プログラムに参加する大学院生が, 社会

から求められるリーダーシップとは何か、リーダーシップを取るとはどのようなことが、実社会でリーダーを務めている講師から学ぶ。

Graduate students participating in a special program for intelligence and control that prioritizes placement of government-sponsored international students will discuss what kind of leadership is required by society, what it means to take leadership, and what it means to be a leader in the real world. Learn from a teacher who is working in the actual society.

## リ ー ダ ー シ ッ プ 論 Ⅱ            Mai Thi Nghia

### Leadership II

国費外国人留学生の優先配置を行う知能・制御のための特別プログラムに参加する大学院生が、社会から求められるリーダーシップとは何か、リーダーシップを取るとはどのようなことが、実社会でリーダーを務めている講師から学ぶ。

Graduate students participating in a special program for intelligence and control that prioritizes placement of government-sponsored international students will discuss what kind of leadership is required by society, what it means to take leadership, and what it means to be a leader in the real world. Learn from a teacher who is working in the actual society.

## 繰返し非弾性ひずみと構造物の強度設計            若井 隆純・岡島 智史

### Structure Designing at Elevated Temperature Considering Cyclic Inelastic Strain

繰返し非弾性ひずみと構造物の強度設計について講義する。

Give an overview of cyclic inelastic strain and strength design of structures.

## 知能機械創製理工学特別講義Ⅰ            未定

### Advanced Lecture on Intelligent Mechanics I

振動騒音の基礎から応用までを数値シミュレーションを含めて講義する。基礎から応用へと授業を進めるのではなく、まず自動車の振動騒音を例にとり実現象とその解決法を解説し、基礎の必要性を知ってもらう。その後で基礎式とその解法さらに数値シミュレーションについて学ぶ。

Noise and vibration including numerical simulation are lectured. This lecture is not conducted from basic to the application but the application to basic. The example of automobile noise and vibration is showed first, and students know the needs of basic knowledge. Then fundamental equation and its solution are explained. Furthermore the numerical simulation is discussed.

## 知能機械創製理工学特別講義Ⅱ            金子 誠

### Advanced Lecture on Intelligent Mechanics II

非圧縮性流体を対象に、熱流体シミュレーションを行う上での計算手法、熱移動、境界条件等の基礎事項について概説する。自然対流、強制対流に関する熱流体シミュレーションの計算プログラムが作成できるレベルを目指す。

This lecture gives an outline of simulation method, heat transfer, and boundary conditions to perform the thermo-fluid computer simulation for incompressible fluid. The final goal of this lecture is to understand the thermo-fluid simulation program for natural and forced convections.

### 知能機械創製理工学特別講義Ⅲ 岩崎 篤・渡壁 智祥

#### Advanced Lecture on Intelligent Mechanics Ⅲ

学部で学ぶ弾性解析を中心とした材料力学・弾塑性構造解析をベースに、耐震設計の考え方及び地震動等の動的解析手法について講述する。原子力プラントにおける実例を交えながら、動的な構造強度評価手法及び、それらを考慮した構造物の強度設計及び耐震設計について、理解を深める。

Based on the elastic-plastic structural analysis and the mechanics of materials, this lecture explains the basis of seismic design and the dynamic analysis methods for seismic motion and so on. Using actual examples from nuclear power plants, the dynamic structural strength evaluation methods and the strength and seismic design of structures based on these methods are explained for deep understanding of them.

### 知能機械創製理工学特別講義Ⅳ 鈴木 秀和

#### Advanced Lecture on Intelligent Mechanics IV

エンジンのトライボロジーについて理解するために、最初にトライボロジー（摩擦・摩耗・潤滑）の基本的項目の講義を行う。次に自動車用エンジンのトライボロジーに関係する諸問題、すなわち、摩擦損失低減、燃費向上、オイル消費、耐久性向上などについて説明し、トライボロジー問題の理解を深める。

This lecture provides the basics of tribology (friction, attrition, and lubrication) to understand the engine tribology. Problems related with automobile engine tribology, i.e. friction loss reduction, improved fuel economy, oil consumption, and improved durability, are explained for deep understanding of the engine tribology.

### 知能機械創製理工学特別講義Ⅴ 安藤 哲也

#### Advanced Lecture on Intelligent Mechanics V

非鉄金属材料は、その材料特性を利用し、軽量化部材や高電導、高伝熱部材、耐食性部材などの様々な機能機器に使用されている。講義では、非鉄金属材料、特にアルミニウム合金および銅合金の適用方法と、適用を目的とした材料組織制御について解説する。

Non-ferrous alloys are applied for various functions which are light, high electro-conductive, high heat-conductive and corrosion resistant parts. This course provides application methods of non-ferrous alloys, especially aluminum alloys and copper alloys, and control methods of metallurgical structure for above applications.

## 知能機械創製理工学特別講義Ⅵ 藪野 浩司

### Advanced Lecture on Intelligent Mechanics VI

機械力学における非線形力学現象について講義する。各種機械システムに発生する非線形現象の制御と利用例を示すとともに、その基礎となる数学理論を講述する。具体的には、線形ダイナミカルシステムの解析、分岐現象とその解析法、摂動法によるダイナミクスの平均化について詳細に解説する。

This course provides analytical method and control on nonlinear phenomena in mechanical systems. It gives analyses on linear dynamical systems, bifurcation phenomena and its analyses, and averaging of dynamics with perturbation method.

## 知能機械創製理工学特別講義Ⅶ 渡邊 裕彦

### Advanced Lecture on Intelligent Mechanics VII

効率的エネルギー利用を目的として研究開発が進められている次世代パワー半導体に使用される各種材料の材料特性および接合界面の各種特性について講義する。様々な用途で要求されるパワー半導体モジュールの電気機械的特性および信頼性を満足させるために、どのような思想により、材料設計、構造設計および製品の量産がなされているのかを解説する。

This course provides materials properties of various materials and various characteristics of joint interfaces in the next-generation power semiconductor that has been researched and developed to efficiently use energy. It gives how materials design, structural design and the mass production of the product are performed based on what kind of thought in order to satisfy electromechanical characteristics and reliability of the power semiconductor module required for various uses.

## 理工学特別演習 各教員

### Seminar in Specialized Topics

「エネルギーシステム」「マテリアルシステム」「メカトロニクス」「インテリジェントシステム」に関する先進的な概念を学ぶために、指導教員ごとに学生は研究課題を選択し、これに関連した文献調査などの演習を行う。

In order to learn the advanced concepts on “Energy System”, “Material System”, “Mechatronics” and “Intelligent System”, each student selects a research agenda and exercises, such as paper searching related to own study.

## 理工学特別実験 各教員

### Experimental Research in Specialized Topics

「エネルギーシステム」「マテリアルシステム」「メカトロニクス」「インテリジェントシステム」に関する先進的な概念を学ぶために、指導教員ごとに学生は研究課題を選択し、理論研究・実験・数値解析などの研究を行い、修士論文の作成指導を受ける。

In order to learn the advanced concepts on “Energy System”, “Material System”, “Mechatronics” and “Intelligent System”, each student selects a research topic. The students write their master’s thesis along the topic by theoretical work, experiments, or numerical simulation.





環境創生理工学教育プログラム（博士前期課程）

プログラム・科目区分	授 業 科 目	担当教員	単位数	週授業時間数				備 考
				1 年 次		2 年 次		
				前	後	前	後	
環境創生理工学教育プログラム	(数学系科目)							・理工学特別演習4単位、理工学特別実験8単位及びスマートシティ創生理工学特論2単位を含む32単位以上を修得すること。 そのうち、学府共通教育科目から3単位以上、所属するプログラムの理工学特別演習及び理工学特別実験を除くコア教育科目から6単位以上を修得すること。 ・重粒子線理工学グローバルリーダー養成プログラム（重粒子線理工学連携コース）在籍者は、リーディングコース科目理工学共通科目群の生命倫理と法的規制、関連法規・医療倫理及び研究倫理から1単位以上、重粒子線理工学科目群から2単位以上修得すること。 リーディング理工学科目（学府開放教育科目及び全教育プログラムのコア科目中の★科目）から4単位以上履修すること。 リーディング理工学科目は上記【修了要件】の修得単位に含むことができる。 ・土木環境工学修士英語コース在籍者は、コースワーク（専門）の環境創生理工学特論、構造設計工学特論、地盤環境工学特論、流域環境学特論、災害社会工学特論（以上5科目は博士後期課程の科目として提供。なお、修士英語コースで修得済みの博士後期課程の科目は、博士後期課程進学後、再履修できない。）、土木環境工学修士英語コース特別講義Ⅰ、土木環境工学修士英語コース特別講義Ⅱから10単位以上修得し、特別研究のResearch Project（16単位）、留学のStudy-abroad（Research Internship）（6単位）は必ず修得すること。
	代数 学 特 論 I	名 越	2	(開講なし)				
	代数 学 特 論 II	宮 崎	2		2			
	代数 学 特 論 III	宮 崎	2	2				
	解析 学 特 論 I	高 江	2	2				
	解析 学 特 論 II	高 江	2		2			
	解析 学 特 論 III	田 沼	2	2				
	関数解析学特論 I	渡 辺	2	(開講なし)				
	データ解析特論 I		2	(開講なし)				
	バイオデータ解析・統計特論	半田・石井	2		2			
	(物理系科目)							
	熱力学 学 特 論	山本(隆)・武野	2	2				
	量子物理学 学 特 論	引 原	2		2			
	統計物理学 学 特 論 I	守 田	2	2				
	統計物理学 学 特 論 II	山 本(隆)	2		2			
	物性物理学 学 特 論 I	長 尾	2	2				
	物性物理学 学 特 論 II	高 橋(学)	2		2			
	システム物理学入門		2	(開講なし)				
	(化学系科目)							
	固体化学 学 特 論	花屋・京免・藤沢	2		2			
	有機化学 学 特 論	久新・中村・堂本	2		2			
	高分子化学 学 特 論	米山・奥(浩)	2	2				
	(生物系科目)							
	生物科学 学 特 論	井上・武田(茂)	2	2				
	(インテンシブ科目)							
	理学インテンシブ I	佐 藤(正)	1		1		集中講義	
	理学インテンシブ II	山 本(隆)	1			1	隔年開講・集中講義	
理学インテンシブ III	高 橋(学)	1			1	隔年開講		
理学インテンシブ IV	守 田	1	1			隔年開講・集中講義		
理学インテンシブ V	引 原	1	1			隔年開講		
理学インテンシブ VI	長 尾	1		1				
理学インテンシブ VII	鈴木(真)・太田	1		1		隔年開講・集中講義		
(実践実習科目)								
分析・測定スキルアップ実践実習	松尾・堂本	1		1		集中講義		
CAD・CAMスキルアップ実践実習	林	1	1			集中講義		
環境計測・シミュレーションスキルアップ実践実習(プロジェクト系科目)	渡 邊・中 川 桂・野田・若井	1	1			※学府共通教育科目、学府開放教育科目及び技術マネジメント系科目は84ページ参照		
ファイブプロバイオ工学特論	粕谷・河原・橋	2		2				
医工連携特論	伊 藤(正)	1						
医理工連携重粒子線治療の物理と医学特論(★)	櫻井・花泉 他	2	2					
医学物理計測制御特論(★)	鈴 木	2		2				
総合日本語中級 I	渡 邊	1	1					
総合日本語中級 II	大 和	1		1				
総合日本語上級 I	大 和	1	1					
総合日本語上級 II	渡 邊	1		1				
M O T 特 論	伊藤(正)・萩原 坂田・星野	2	2			集中講義		
経営工学 学 特 論	伊藤(正)・角田・芳賀	2		2				
インターンシップ	全 教 員	1						
長期インターンシップ	全 教 員	4						
科学研究発表技法	海 野	2	2	2				
コミュニケーション技術	未 定	1	(1年次に行う)					
国際コミュニケーション I	海 野	1						
国際コミュニケーション II	海 野	2						
アントレプレナーシップ特論	板 橋 他	2				集中講義		

環境創生理工学(修)

プログラム ・科目区分	授 業 科 目	担当教員	単 位 数	週授業時間数				備 考
				1年次		2年次		
				前	後	前	後	
環境創生理工学教育プログラム	(分野統合科目)							
	スマートシティー創生工学特論	全板橋・樋山	2		2			隔年開講
	環境分析科学特論Ⅰ	未森	2		2			隔年開講
	電気化学工学特論Ⅱ	佐藤	2			2		隔年開講
	微粒子プロセス工学特論	尾崎(純)	2	2				隔年開講
	材料プロセス工学特論	尾崎(純)	2		2			隔年開講
	微小プロセス操作特論	尾崎(純)	2			2		隔年開講
	プロセスシステム工学特論	野田	2			2		隔年開講
	エネルギープロセス工学特論	中原	2			2		隔年開講
	環境化学プロセス工学特論	未定	2		2			隔年開講
	バイオプロセス工学特論	未定	2			2		隔年開講
	分子設計プロセス特論	大森	2		2			隔年開講
	環境エネルギー理工実習	森大・原野・野田・樋山	2					
	環境整備工学特論	渡邊	2	2				隔年開講
	環境バイオテクノロジー特論	伊藤(司)	2			2		隔年開講
	構造材料工学特論	小澤	2	2				隔年開講
	構造解析学特論	齋藤(隆)	2			2		隔年開講
	地盤環境・防災工学特論	若井	2	2				隔年開講
	地盤力学特論	蔡	2			2		隔年開講
	水圏環境水理学特論	鶴崎	2	2				隔年開講
	環境水理学特論	清水	2			2		隔年開講
	災害社会工学特論	金井	2			2		隔年開講
	都市・交通工学特論	未定	2				2	隔年開講・集中講義
	エロゾル工学特論	白井・野田・丹野	2			2		隔年開講・集中講義
	燃焼環境工学特論	白井・野田・丹野	2	2				隔年開講・集中講義
	環境創生理工学特別講義Ⅰ	滝山・水野・吉澤	2	2				集中講義
	環境創生理工学特別講義Ⅱ	鷹	2	2				集中講義
	環境創生理工学特別講義Ⅲ	沢田・相楽・杉木	2			2		隔年開講・集中講義
	環境創生理工学特別講義Ⅳ	藤原・山田・迫井・国枝	2	2				隔年開講・集中講義
	土木環境工学修士英語コース特別講義Ⅰ	全教員	1					
土木環境工学修士英語コース特別講義Ⅱ	全教員	2						
理工学特別演習	全教員	4						
理工学特別実験	全教員	8						
Research Project	全教員	16						
Study-abroad(Research Internship)	全教員	6						
リーディングコース科目	(医理工共通科目群)							
	生命倫理と法的規制	曾根	1		1			・リーディングコース科目は重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム(重粒子線医理工連携コース)在籍者のみ履修可。 修了要件単位に含めない。 医学物理基礎科目群は、本大学院入学時に履修していない者のみ履修可。 また、医学物理コース在籍者は医理工共通科目群から関連法規・医療倫理、解剖学、生理学、重粒子線医理工学科目群のすべて、学府開放教育科目から医学物理計測制御特論、大学院共通科目から医学物理演習、医学物理実習を履修する。 医学物理基礎科目群については本大学院入学時に履修していない者のみ履修可。
	関連法規・医療倫理研究	曾根	1		1			
	解剖学	武田(茂)	1			1		
	生理学	武田(茂)	1			1		
	(医学物理基礎科目群)							
	力学	櫻井	2		2			
	電磁気学	花井	2		2			
	量子力学	花井	2		2			
	放射線物理解	山口	2		2			
	放射線画像情報	櫻井	2		2			
	医療統計	山口	2		2			
	英語	山口	2		2			
	(重粒子線医理工学科目群)							
	保健物理・放射線防護学講義	櫻井	2		2			
放射線診断・核医学物理学講義	櫻井	2		2			集中講義	
放射線治療物理学講義	大野	2		2			集中講義	
基礎腫瘍学	武田(茂)	2		2				
放射線生物学	武田(茂)	2		2				

## [コア教育科目]

(分野統合科目)

### スマートシティー創生工学特論 全教授

Engineering Topics for Smart City Creation

新エネルギーによる省資源化および環境配慮型の技術とともに、自然災害からの脅威を克服し安全・安心な都市（スマートシティー）づくりをテーマとし、教員が関連する研究プロジェクト等の紹介を通じて講義する。

A lecture is given as a series of research topics that are related to new-energy, eco-friendly technologies, infrastructure, environment and so on, for a safe society and a smart city.

### 環境分析科学特論 板橋 英之・樋山 みやび

Environmental Analytical Sciences, Advance Course

環境科学の分野で利用されている分析技術に関する知識を習得するため、環境中に存在する様々な成分の分析に利用されている方法について、その測定原理と応用範囲を解説する。また、環境中の微量成分分析に必要な分離技術と濃縮技術について講義する。

The aim of this lecture is to master knowledge on analytical techniques employed in the field of environmental science. This course can learn the theories and the principles of typical analytical methods for chemical compounds in environments and their application to real samples.

### 電気化学工学特論 I 未定

Advanced Electrochemistry I

学部の電気化学、物理化学を基礎として、電池等のエネルギー変換デバイスの基礎と応用について幅広い観点から講述する。

This course provides fundamental theory and applications of batteries based on electrochemistry and physical chemistry.

### 電気化学工学特論 II 森本 英行

Electrochemical Engineering, Advanced Course II

学部の物理化学、電気化学、材料科学などを基礎とし、電気化学エネルギーデバイスと機能性材料について講述する。特に、電池の電極と電解質との界面に関する電気化学測定法および電気化学反応について解説する。

This course provides an overview of the fundamentals of electrochemical energy devices and functional materials based on the physical chemistry, electrochemistry and material science. Especially, electrochemical measurements and reactions on the interface of electrode materials and electrolytes for batteries are explained.

**微粒子プロセス工学特論** 佐藤 和好

Fine Particle Process Engineering, Advanced Course

エネルギー、環境、医療など、様々な分野で不可欠な微粒子プロセスに関する基礎的な知識の習得を目的に、粉体工学、コロイド科学等を中心とした講義を行う。また、近年注目されているナノ粒子のプロセスについて、通常の微粒子との共通点や相違点を中心に講述する。加えて、微粒子の物理的・化学的性質を評価する手法について、事例を交えながら、その原理や特徴を解説する。

This course aims to learn fundamentals and applications of fine particle processing based on powder technology and colloidal science. Recent topics on nanoparticles processing are covered, especially from the view point of similarity and difference between nanoparticles and conventional fine particles. The principles of characterization method of fine particles are also lectured.

**材料プロセス工学特論** 尾崎 純一

Advanced Process-Oriented Material Engineering

はじめに、無機材料の構造と物性の関係について述べる。次いで、それらを実現する製造プロセスについて講述する。特に燃料電池用電極触媒炭素の調製を例とし説明する。

Relations between structures and properties of inorganic materials are given. Next, the fabrication processes including chemical reactions are discussed to achieve the desired properties or functions. Many examples come from our recent results of developing of non-platinum cathode catalyst carbons.

**微小プロセス操作特論** 桂 進司

Advanced Engineering on Micro-manipulation and Fabrication

微小粒子や分子の検出法やこれらの微粒子の操作に用いる力とその性質について講義するとともに、操作の場を作成するために微細加工技術についても講義する。

This course provides principles of detection and manipulation methods for particles and molecules. Techniques of micro-fabrication are also introduced.

**プロセスシステム工学特論** 野田 玲治

Process System Engineering, Advanced Course

効率のよいエネルギー変換プロセスシステム設計のための方法論について解説する。様々なプロセスについてエクセルギー解析やピンチ解析を利用して高効率化への方法論を理解する。

This lecture explains the methodology for planning and design of efficient energy conversion processes. The topics of this lecture are concept and method of pinch analysis and exergy analysis of energy conversion processes.

**エネルギープロセス工学特論** 中川 紳好

Energy Process Engineering, Advanced Course

化学プロセスおよびそのシステムについて、熱力学を基にしたエネルギー・エクセルギー評価法につ

いて講義する。また、燃料電池について、その発電原理、プロセスの仕組み、動作特性評価手法や最近の開発状況について解説する。

This course provides unique method of energy and exergy evaluation for chemical process systems based on thermodynamics. It also provides subjects related to fuel cells including principles, evaluation method of the cell performance, actual system structures and recent topics in R&D.

### 環境化学プロセス工学特論 原野 安土

Environmental and Chemical Engineering, Advanced Course

今日の大気に関する地球環境問題を学部の物理化学や化学工学の知識を基礎として理解する。さらに大気に関する環境保全技術を紹介し、その原理と理論を学ぶ。

This course provides the basic principles of the effects of pollutants on atmosphere, the formation mechanism of pollutants, and the control technologies associated with the areas of air quality based on physical chemistry and chemical engineering.

### バイオプロセス工学特論 未定

Bioprocess Engineering

本科目は講義形式で行う。微生物や細胞を用いたプロセスの実際を紹介するとともにプロセス設計のための指針を学ぶ。生体材料や生化学反応の特徴と利用方法の基礎を学ぶとともに、発酵、水処理への化学工学的発展を理解する。プレゼンテーションを通して微生物細胞などの生体触媒の種類や特徴について深く理解するとともに、これらの工学的利用方法について考察する。

The aim of this lecture is to understand characteristics of bioprocess using microorganism and cell, and study the indicator for a process design. While studying a biomechanical material, the feature of a biochemistry reaction, and the foundation of the usage, fermentation and chemical engineering development in water disposal could be understood. We understand the kind, the features, and these engineering use methods of living body catalyst, such as a microbial cell.

### 分子設計プロセス特論 大重 真彦

The special theory of molecular design process

本講義は、触媒のためのナノ粒子、創薬のための化学物質（化合物、核酸、タンパク質）、再生医工学のための細胞の設計開発方法についての理解を目指します。講義およびその内容に関連する論文を読み、発表を行なってもらいます。

This course provides the design and the development methods of the nano-particle for the catalyst, the chemicals for the medicine and the cells for the tissue engineering, including seminar with reading and presentation.

**環境エネルギー理工学ティーチング実習** 全教員

Practice on Teaching and Experimentation in Chemical and Environmental Engineering

環境プロセス工学に関する実験の、指導補助をとおり、環境プロセス工学の各分野で必要とされる測定、分析、評価法を修得する。

Practice on teaching and experimentation for some subjects in Chemical and Environmental Engineering

**環境整備工学特論** 渡邊 智秀

Environmental Engineering, Advanced Course

生活環境の保全ならびに水環境保全に対して中心的な役割を演じる廃水処理技術の設計・操作の基礎と応用について、生物学的廃水処理法における微生物機能と役割ならびに速度論的取扱いや反応装置工学の基礎を講述する。これらを踏まえ、活性汚泥モデル (ASMs) を例として、生物学的廃水処理における水質予測や運転管理への応用について述べる、さらに、最新の水質浄化技術も紹介する。

This course focuses on biological water/wastewater treatment processes. It includes fundamentals of microbial aspects, stoichiometry of biological reactions, microbial kinetics, reactor engineering and numerical approaches using activated sludge models (ASMs) and emerging applications.

**環境バイオテクノロジー特論** 伊藤 司

Environmental Biotechnology, Advanced Course

微生物の持つ優れた機能や潜在的能力を理解し、それらを環境保全などの応用するための知識と手法を修得する。呼吸、代謝、物質構成、エネルギー生成等、生物が生きる仕組みを細胞レベルで理解し、これらを基礎としてヒトを含む生態系の成り立ちを理解する。

Students will learn what the life is, how the life works, and how the ecosystem on earth is. Based on the learning students will learn how microorganisms are introduced in technologies in the environmental engineering field, agricultural field, and medical field.

**構造材料工学特論** 小澤 満津雄

Structural Materials Engineering, Advanced Course

コンクリートの若材齢時の体積変化と応力解析方法およびひびわれの制御方法について講義する。加えて、コンクリートの耐火性についても講義する。

キーワード：若材齢、温度応力、自己収縮、乾燥収縮、クリープ、ひび割れ、耐火性、爆裂

Controlling early-age cracking due to volume changes is essential to achieving long-term durability of concrete structures. The aim of this lecture is to understand as follow; characteristics of volume change at early ages, stress analysis method. Additionally, fire resistance of concrete is introduced.

Keywords: early-age, thermal stress, autogenous shrinkage, drying shrinkage, creep, crack, fire resistance, spalling.

## 構造解析学特論 齋藤 隆泰

### Advanced Structural Analysis

本講義では、代表的な構造解析手法の1つとして知られる有限要素法について講義する。具体的には有限要素法の定式化、ガラーキン法による有限要素方程式の離散化、連立一次方程式の解法、そして有限要素法のためのプログラミング技術について講義する。また、有限要素法を用いたいくつかの数値解析事例についても紹介する。

This lecture presents an overview of the finite element method (FEM), which is one of the most widely used structural analysis methods. The general finite element formulation, finite element discretization using Galerkin method, methods of solving a system of linear equations, and programming skills needed to understand FEM are lectured. In addition, some numerical examples are demonstrated to show the effectiveness of FEM.

## 地盤環境・防災工学特論 若井 明彦

### Geotechnical and Geo-environmental Engineering, Advanced Course

学部の地盤力学、地盤工学、耐震工学に関する講義を基礎にして、地盤防災・地盤環境工学に関する最近の話題について講述する。

Based on the lectures such as Geo-mechanics, Geotechnical Engineering and Earthquake-resistant Engineering given in the undergraduate course, recent topics on Geo-environmental Engineering and Disasters related to Geotechnical Engineering are presented.

## 地盤力学特論 蔡 飛

### Soil Mechanics, Advanced Course

地盤工学に関わる種々の力学現象はほとんどが微分方程式の初期値・境界値問題として定式化しうる。連続体力学の視点から、地盤の挙動（浸透・変形・破壊）を電子計算機による数値計算によりシミュレートする手法を講義する。各現象の理解を深めるために、簡単な有限要素法プログラムを利用した問題解決（課題は自由に各自が選択）を実施するとともに、その計算結果の解釈に関わる技術的考察を含めたプレゼンテーション能力の修得にも取り組む。

Various mechanical phenomena in geotechnical engineering can be mostly formulated as initial-boundary value problems of differential equations. This course introduces the numerical methods to simulate the various ground behaviors such as seepage, deformation and failure from a viewpoint of the continuum mechanics. The exercises using the finite element method (FEM) programs to solve some practical problems and presentation of the numerical results are also included in the course.

## 水圏環境学特論 鵜崎 賢一

### Water Environmental Science, Advanced Course

環境創生理工学プログラムのコア教育科目である本授業では、水圏に係わる環境と災害問題の物理的、化学的メカニズムを解説しながら、広域的な環境形成や災害発生のプロセスとその保全・防災対策について学ぶ。基本的には、河川・湖沼や海岸における環境と災害問題に対して、水理学的なアプローチで



そのメカニズムと対策を検討する。

In this lecture, which is the one of main subjects of the educational program of department of environmental and engineering science, mechanisms of water disaster and environmental problems are discussed on the viewpoint of hydraulics and studied the solution method of those problems. Especially, water disaster and environmental problems of river and coastal engineering and hydrology are lectured. The understanding of mechanisms of them with regard to the global warming and countermeasures are described in detail.

## 環 境 水 理 学 清水 義彦

### Environmental Hydraulics

河川、湖沼などの水域における水、土砂、物質の輸送、水質形成に係わる水理現象について、その理論的な取り扱い、水理モデル構築および数値解析手法について解説する。とくに、移流拡散、密度流、土砂水理、水質、河川植生に焦点を絞り、環境水理の基礎を解説する。

The aim of this subject is to get a fundamental understanding of the hydraulic processes that govern mass and momentum transfer in the river basin environment. The lecture provides students with hydraulic principles, including advective, diffusive and dispersive processes in the water environment and applications to transport and mixing in rivers.

## 災 害 社 会 工 学 金井 昌信

### Disaster Social Engineering

自然災害による人的被害を最小化するためのソフト対策について講述する。具体的には、地域防災計画、避難計画、災害情報システム、リスク・コミュニケーション、ハザードマップについて、現状の課題や解決策について講義する。

This course is to study regional plan for disaster prevention, evacuation behavior, disaster information system, risk communication and hazard map as the non-structural measurement against natural disaster.

## 都 市 ・ 交 通 工 学 特 論 未 定

### Urban Planning and Traffic Engineering, Advanced Course

都市開発とは社会、経済、工学等の分野を総合したシステム技術のもとで行われるものであり、種々の確度から相互メカニズムの把握、それに基づくトータルシステムの構築等についての基礎理論を論述する。

This course is to study the basic theory of urban planning as the synthetic technology around sociology, economics and engineering science from various points of view.

## エ ー ロ ザ ル 工 学

白井 裕三・野田 直希・丹野 賢二

Aerosol Engineering, Advanced Course

エネルギー変換システムから発生する微粒子の特性とその制御ならびに除去や利用を中心的な内容として、微粒子の基本特性、気流からの微粒子分離・回収方法、粒子の諸性状の計測方法および機能性微粒子の特徴と応用について講義する。

This course focuses on generation characteristics and control technology of particulate matter formed in conversion system of fossil fuel energy and is lectured as follows, outline and classification of aerosol, influence of suspended particulate matter on human body, relation between particulate matter generation and combustion, control technology of particulate matter, measuring methods of particulate matter and suspended particulate matter and collection technology of particulate matter.

## 燃 焼 環 境 工 学

白井 裕三・野田 直希・丹野 賢二

Environmental Combustion Engineering, Advanced Course

化石燃料の中で賦存量が最も多く産出地の偏りも少ない石炭をクリーンに利用するために重要な低NO<sub>x</sub> 燃焼技術や低負荷対応燃焼技術、脱硝技術、集じん技術、脱硫技術などの各種要素技術に関して、実用技術の特徴、性能、運用上の課題について講義する。また、高性能化を目指した新技術を概説する。

This course focuses on recent coal combustion technology and is lectured as follows, fundamental of formation mechanisms of SO<sub>x</sub> and NO<sub>x</sub> in fossil fuel combustion, the NO<sub>x</sub> and SO<sub>x</sub> reduction technologies, dust collector technologies and the harmonious flue gas treatment technologies with environment.

## 環 境 創 生 理 工 学 特 別 講 義 I

滝山 博志・水野 彰・吉澤 徳子

Special Program on Chemical and Environmental Engineering I

環境プロセス工学およびその関連分野に関する講義。

## 環 境 創 生 理 工 学 特 別 講 義 II

鷹觜 利公

Special Program on Chemical and Environmental Engineering II

環境プロセス工学およびその関連分野に関する講義。

## 環 境 創 生 理 工 学 特 別 講 義 III

沢田 和秀・相楽 渉・杉木 直

Special Program on Civil and Disaster Engineering III

社会基盤工学・防災工学およびその関連分野に関する講義。

## 環 境 創 生 理 工 学 特 別 講 義 IV

藤原 拓・山田 真義・迫井 裕樹・国枝 稔

Special Program on Civil and Disaster Engineering IV

社会基盤工学・防災工学およびその関連分野に関する講義。

**土木環境工学修士英語コース特別講義 I** 全教員

## Civil and Environmental Engineering Special Lecture I

水・環境学，構造工学，地盤環境工学，流域環境，災害社会工学等の分野に関係して，海外の大学が提供する講義・セミナー等を海外の学生と共に履修し，より深い知識・技術と国際的な意識を身に付ける。

The course aims to provide students with opportunities to engage on a broader and deeper levels with the topics covered in the fields of civil and environmental engineering, by attending courses with local students provided by overseas universities.

**土木環境工学修士英語コース特別講義 II** 全教員

水・環境学，構造工学，地盤環境工学，流域環境，災害社会工学等の分野に関係して，海外の大学が提供する講義・セミナー等を海外の学生と共に履修し，より深い知識・技術と国際的な意識を身に付ける。

The course aims to provide students with opportunities to engage on a broader and deeper levels with the topics covered in the fields of civil and environmental engineering, by attending courses with local students provided by overseas universities.

**理 工 学 特 別 演 習** 全教員

## Seminar in Specialized Topics

環境分析，機能性材料，エネルギー有効利用，エネルギー変換デバイス，エネルギーシステム，分離・回収・除去，物質循環，社会基盤工学，環境工学，安全・防災の分野において，指導教員ごとに学生に以下に示す領域等から研究課題を選択させて，これに関連した文献講読などの演習を行う。

**理 工 学 特 別 実 験** 全教員

## Experimental Research in Specialized Topics

微量分析，機能性材料，エネルギー有効利用，エネルギー変換デバイス，エネルギーシステム，分離・回収・除去，物質循環，社会基盤工学，土木工学，安全・防災の分野において，指導教員ごとに学生に以下に示す領域等から研究課題を選択させて，理論研究・実験・システム作成などについて研究を行わせ，修士論文の作成指導を受ける。

**R e s e a r c h P r o j e c t** 全教員

水・環境学，構造工学，地盤環境工学，流域環境，災害社会工学等の分野に関係して，各領域の研究課題に基づいて，1) 研究計画を立て，文献購読・論文紹介の演習を通して，研究を進める。また，2) 指導教員と相談しながら進行中の研究について，得られた実験結果等の解釈をまとめ，国内・海外での学会等での発表を通して，研究成果を修士論文としてまとめる。

Students will design and execute a research project in English that demonstrates spatial knowledge and skills learned in the fields of civil and environmental engineering. This will culminate in a research project of the student's own design by 1) making a research proposal with the research

methods and relating their own research to existing literature on the subject, and 2) demonstrating their findings and presenting a clear thesis based on their own original data as well as an evidence-based argument.

### **Study-abroad (Research Internship)** 全教員

水・環境学，構造工学，地盤環境工学，流域環境，災害社会工学等の分野に関係して，海外の大学等機関に3カ月程度留学して，本学および海外の大学等機関の指導教員による共同指導を得ながら実践的なプロジェクト演習に参加する。

Students will participate in a research internship programme provided by overseas institutions for up to 3 months and implement a research project under co-supervision of Gunma University and host institution.



電子情報・数理教育プログラム

プログラム ・科目区分	授 業 科 目	担当教員	単 位 数	週授業時間数				備 考
				1 年 次		2 年 次		
				前	後	前	後	
電子情報・数理教育プログラム	(数学系科目)							・理工学特別演習 4 単位及び理工学特別実験 8 単位を含む 32 単位以上を修得すること。 そのうち、学府共通教育科目から 3 単位以上、所属するプログラムの理工学特別演習及び理工学特別実験を除くコア教育科目から 6 単位以上を修得すること。 ・重粒子線理工学グローバルリーダー養成プログラム(重粒子線理工学連携コース)在籍者は、リーディングコース科目(理工学共通科目群の生命倫理と法的規制、関連法規・医療倫理及び研究倫理から 1 単位以上、重粒子線理工学科目群から 2 単位以上)を修得すること。リーディング理工学科目(学府開放教育科目及び全教育プログラムのコア科目中の(★)科目)から 4 単位以上履修すること。 リーディング理工学科目は上記【修了要件】の修得単位に含むことができる。
	代数特論 I	越崎	2	(開講なし)				
	代数特論 II	越崎	2		2			
	代数特論 III	江洲	2	2				
	解析特論 I	高田	2	2				
	解析特論 II	高田	2		2			
	解析特論 III	渡辺	2	2				
	関数解析特論 I		2	(開講なし)				
	データ解析特論 I		2	(開講なし)				
	バイオデータ解析・統計特論	半田・石井	2		2			
	(物理系科目)							
	熱力学特論	山本(隆)・武野	2	2				
	量子物理学特論 I	引守	2	2	2			
	統計物理学特論 II	山本(隆)	2	2				
	物性物理学特論 I	長尾	2	2				
	物性物理学特論 II	高橋(学)	2		2			
	システム物理学入門		2	(開講なし)				
	(化学系科目)							
	固体化学特論	花屋・京免・藤沢	2		2			
	有機化学特論	久新・中村・堂本	2		2			
	高分子化学特論	米山・奥(浩)	2	2				
	(生物系科目)							
	生物科学特論	井上・武田(茂)	2	2				
	(インテンシブ科目)							
	理学インテンシブ I	佐藤(正)	1		1		集中講義	
	理学インテンシブ II	山本(隆)	1			1	隔年開講・集中講義	
	理学インテンシブ III	高橋(学)	1				隔年開講	
理学インテンシブ IV	守田	1	1			隔年開講・集中講義		
理学インテンシブ V	引原	1	1			隔年開講		
理学インテンシブ VI	長尾	1		1				
理学インテンシブ VII	鈴木(真)・太田	1		1		隔年開講・集中講義		
(実践実習科目)								
分析・測定スキルアップ実践実習	松尾・堂本	1		1		集中講義		
CAD・CAMスキルアップ実践実習	林	1	1			集中講義		
環境計測・シミュレーションスキルアップ実践実習	渡邊・中川	1		1				
(プロジェクト系科目)								
ファイブバイオ工学特論	粕谷・河原・橋	2		2		※学府共通教育科目、学府開放教育科目及び技術マネジメント系科目は 84 ページ参照		
理工連携特論	伊藤(正)	1						
理工連携重粒子線治療の物理と医学特論(★)	櫻井・花泉 他	2	2					
医学物理計測制御特論(★)	鈴木 木	2		2				
総合日本語中級 I	渡邊	1	1					
総合日本語中級 II	大和	1		1		・総合日本語中級 I・II 及び上級 I・II は留学生のみ履修可。修了要件単位に含めない。		
総合日本語上級 I	大和	1	1					
総合日本語上級 II	渡邊	1		1				
技術マネジメント系科目								
MOT 特論	伊藤(正)・萩原	2	2			集中講義		
経営工学特論	坂田・星野	2		2				
インターンシップ	伊藤(正)・角田・芳賀	2						
長期インターンシップ	全教員	1						
科学研究発表技術	全教員	4						
コミュニケーション技術	海未	2	2					
国際コミュニケーション I	野定	1	1		1	(1年次に行う)		
国際コミュニケーション II	海野	1						
アントレプレナーシップ特論	板橋 他	2				集中講義		
(分野統合科目)								
電子情報理工学特論 I	弓仲・三輪	2		2		集中講義 集中講義		
電子情報理工学特論 II		2	(開講なし)					
電子情報・数理特別講義 I	各教員	1			1		(1年次に行う)	
電子情報・数理特別講義 II	各教員	2			2		(1年次に行う)	

電  
情  
・  
数  
理  
(  
修  
)

プログラム ・科目区分	授 業 科 目	担当教員	単 位 数	週授業時間数				備 考
				1年次		2年次		
				前	後	前	後	
電子情報・数理教育プログラム	(電気電子分野)							
	エネルギー変換工学特論	橋本	2			2		隔年開講
	光デバイス工学特論(★)	花泉・三浦	2		2			
	光エレクトロニクス特論	高橋(佳)・千葉	2	2				隔年開講
	電子物性特論	櫻井	2	2				
	固体物性工学特論		2	(開講なし)				
	電子デバイス工学特論	尾崎(俊)	2			2		隔年開講
	気体電子工学特論	高橋(俊)	2	2				
	波動情報工学特論	本島	2	2				隔年開講
	先端計測デバイス特論(★)	曾根・尹	2	2				隔年開講
	計算知能特論	伊藤(直)	2			2		
	物性科学特論	鈴木(真)	2		2			
	光子工学特論	後藤	2	2				集中講義
	シミュレーションとナノ計測工学特論	齊藤(和)・孝橋	2	2				集中講義
		岩崎・原田	2	2				
		高橋(学)・長尾・守						
	現代物理学インテンシブ	田・引原・山本(隆)・後藤・鈴木(真)	1		1			隔年開講 集中講義
	量子ビームイメージング	山口・河地	2					集中講義
	情報通信工学特論	高	2		2			
	(情報科学分野)							
	アルゴリズム論		2	(開講なし)				
	情報理論特論		2	(開講なし)				
	計算量特論		2	(開講なし)				
	プログラミング言語		2	(開講なし)				
	ソフトウェア工学特論		2	(開講なし)				
	ソフトウェアインテグレーション		2	(開講なし)				
	情報セキュリティ特論		2	(開講なし)				
	神経計算論		2	(開講なし)				
	知識情報処理特論		2	(開講なし)				
	パターン認識特論		2	(開講なし)				
	画像情報工学特論		2	(開講なし)				
	画像システム工学特論		2	(開講なし)				
	画像システム工学特論		2	(開講なし)				
量子計算理論		2	(開講なし)					
先端プログラミング言語特論		2	(開講なし)					
現代数学インテンシブ		1	(開講なし)					
(研究指導)								
理工学特別演習	全教員	4						
理工学特別演習	全教員	8						
リーディングコース科目	(医理工共通科目群)							
	生命倫理と法的規制	曾根	1		1			・リーディングコース科目は重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム(重粒子線医理工連携コース)在籍者のみ履修可。 修了要件単位に含めない。 医学物理基礎科目群は、本大学院入学時に履修していない者のみ履修可。 また、医学物理コース在籍者は医理工共通科目群から関連法規・医療倫理、解剖学、生理学、重粒子線医理工学科目群のすべて、学府開放教育科目から医学物理計測制御特論、大学院共通科目から医学物理演習、医学物理実習を履修する。医学物理基礎科目群については本大学院入学時に履修していない者のみ履修する。
	関連法規・医療倫	曾根	1		1			
	研究倫	曾根	1		1			
	解剖学	武田(茂)	1		1			
	生理学	武田(茂)	1		1			
	(医学物理基礎科目群)							
	力電磁気学	櫻井	2		2			
	量子力学	花泉	2		2			
	放射線物理	山口	2		2			
	医療・画像情報	櫻井	2		2			
	統計学	山口	2		2			
	英	山口	2		2			
	(重粒子線医理工学科目群)							
	保健物理・放射線防護学講義	櫻井	2		2		集中講義	
	放射線診断・核医学物理学講義	櫻井	2		2		集中講義	
	放射線治療物理学講義	大野	2		2		集中講義	
基礎腫瘍学	武田(茂)	2		2				
放射線衛生学	武田(茂)	2		2				

## [コア教育科目]

(分野統合科目)

### 電子情報理工学特論 I 弓仲 康史・三輪 空司

Theory and Practice in Electronics and Informatics, I

電子情報通信技術の理工学的基礎となるプログラミング技術，シミュレータ技術について講述する。特に，Windows ベースのCプログラムによる物理シミュレーションや視覚化手法，また，その応用である集積回路設計ツールの原理，具体的回路設計手法に関して，基礎から実践までの技術の習得を目的とした講義を行う。

For obtaining basic skills from theory to practice in Electronics and Informatics, simulation and visualization techniques of physical phenomena are discussed via Windows based-C programming. Theory and design of electric circuits with EDA tool are also lectured.

### 電子情報・数理特別講義 I 各教員

Special Lecture on Electronics and Informatics I

電気電子工学，情報工学，および数理分野の最近の重要な話題を幅広く取り上げ，講義する。なお，講義は集中講義形式で行う。

This course lectures recent important topics in electrical and electronic engineering, and computer science. The lecture is offered in intensive course style.

### 電子情報・数理特別講義 II 各教員

Special Lecture on Electronics and Informatics II

電気電子工学，情報工学，および数理分野の最近の重要な話題を幅広く取り上げ，講義する。なお，講義は集中講義形式で行う。

This course lectures recent important topics in electrical and electronic engineering, and computer science. The lecture is offered in intensive course style.

(電気電子分野)

### エネルギー変換工学特論 橋本 誠司

Electromechanical Energy Conversion

前半では，制御対象のモデリングと現代制御理論に基づく設計法について講述する。同時に，制御系設計用CADによるシミュレーション検証を行う。後半では，ニューラルネットワークに基づく知能化制御法の基礎について，その応用を交えて解説する。

In the first half, modeling and control design based on the modern control theory are given. Moreover, the simulation using CAD tool for the control system design is carried out. In the latter half, this course gives the explanation of the basics of intelligent control methods based on neural



networks, including their applications.

## 光デバイス工学特論 花泉 修・三浦 健太

### Photonic Devices

最新の光デバイス工学技術について講述する。具体的には、①デバイス工学におけるイオン注入技術、②光機能デバイス（光スイッチ、光変調器、フィルタなど）、③先端光デバイス工学（フォトニック結晶など）について解説する。

Latest technologies of photonic devices are lectured. Ion implantation technologies for photonic devices, functional devices (optical switches, modulators, and filters), and advanced device technology such as photonic crystals are introduced.

## 光エレクトロニクス特論 高橋 佳孝・千葉 明人

### Optoelectronics, Advanced Course

光通信、光情報処理において重要な役割を果たすオプトエレクトロニクスデバイスの概念、原理、その応用について理解させるために、マックスウェルの方程式から出発してオプトエレクトロニクスデバイスの例としての光ファイバの原理と現状までを講義する。

To understand optoelectronics devices which are important in optical communication and optical information processing, the course will cover the basic concept of lasers starting with Maxwell equations, and the principle and current status of optical fibers.

## 電子物性特論 櫻井 浩

### Solid-State Physics of Electronic Materials

エレクトロニクス産業で重要な役割を担っている電子デバイスは、電子輸送&光デバイスと磁性&スピントロニクスデバイスに大別できる。本講義では、これらデバイスの最先端な研究成果を紹介し、それらの原理や概念を講述する。

The electronic devices taking an important role on in electronic industry can be classified into two groups: (1) electronic transportation & photonic devices and (2) magnetic & spintronic devices. The aim of this lecture is to introduce principles of such devices and corresponding recent topics.

## 電子デバイス工学特論 尾崎 俊二

### Electronic Devices

半導体におけるキャリアの輸送現象、pn接合について復習した後、バイポーラトランジスタの静特性・周波数特性、及びMOS集積回路システムにおける信号遅延とチップ面積の最小化のため、各世代のプロセス技術でどのような設計指針や回路構成がとられてきたかを講義する。

The aim of this lecture is to understand semiconductor devices for integrated circuits. The topics in this course will be introduced as follows; 1. Electrical transport in semiconductors, 2. pn junction, 3. Characteristics of bi-polar and MOS transistors, 4. Operation of C-MOS inverters and signal delay in

integrated circuits.

## 気体電子工学特論 高橋 俊樹

### Gaseous Electronics

放電現象を含む弱電離プラズマから高温の完全電離プラズマに至る幅広い電離気体を対象とし、その性質や物理を講義する。また、プラズマの計測法、イオン源や加速器、および核融合など工学への基礎や応用等を講述する。

This lecture deals with ionized gases such as weakly-ionized plasmas including discharges and high temperature fully-ionized plasmas. Their properties and physics are discussed. Plasma diagnostics, ion sources and accelerators, and fundamentals and applications to fusion engineering will be reviewed.

## 波動情報工学特論 本島 邦行

### Wave and Information Engineering, Advanced Course

通信メディアである電波の振る舞いを情報工学として修得するために、電波の基礎理論から出発し、最新の解析方法まで発展させた内容を講義する。具体的には、実践的波動情報解析法として有限差分時間領域法（FDTD法）を取り上げ、その理論の理解及び数値解析法の概要を講述する。

The aim of this lecture is to understand behavior of electromagnetic wave for advanced information engineering. The topics in this course are theory of practical analysis on electromagnetic wave, finite difference time domain method for numerical analysis and architecture of programming code.

## 先端計測デバイス特論 曾根 逸人・尹 友

### Advanced Device and Metrology

電子情報学の基礎となる電子デバイス、特に、先端デバイスを理解できる知識を修得するために、電子デバイス、プロセス技術、先端計測技術の現状と将来について講義し、先端デバイス研究開発のための実践力を身に付ける。

To understand electronic devices, especially advanced devices based on electronics and informatics, this course covers current and future technologies for electronic devices, processing and advanced metrology. Then, the practical knowledge in research and development of advanced devices are obtained.

## 物性科学特論 鈴木 真粧子

### Material Science Advanced Course

本講義では、表面・界面科学、磁性、誘電体物性、マルチフェロイクスなど、電子材料研究に必要な物性物理学の基盤と最新の研究についての解説を行う。

This Course lectures on the surface/interface science, magnetism, dielectrics, and multiferroics that is important for the materials research. Related fundamental physics and recent studies are presented.

## 光 物 性 物 理 学 後藤 民浩

### Physics of Photoelectric Materials

光と物質の相互作用に関する物理と応用について講義する。光学・固体物理学の基礎から光吸収・放射などの光学遷移の理解を深めた後、半導体や絶縁体の光物性と光電子デバイスへの応用について講義する。

This lecture gives an introductory treatment of the optical properties of solids. The fundamental principles of absorption, reflection, and luminescence are discussed for semiconductors and dielectrics. Examples also include optical devices.

## 計 算 知 能 特 論 伊藤 直史

### Computational Intelligence, Advanced Course

知的な情報処理の基盤をなすパターン認識について、その基礎理論（ベイズ決定理論、最尤推定、ベイズ推定）を原理から系統的に学習し、音声認識や光学的文字認識、ジェスチャー認識などへの応用に関する例題も交えて、様々な目的や用途に応用するための知識を習得する。

Pattern recognition forms the technical ground of intelligent information processing. The aim of this course is to learn systematically the basis theories of pattern recognition. This lecture will deal with Bayesian decision theory, maximum likelihood estimation method, Bayesian estimation and their applications in various fields.

## 電 子 工 学 特 論 齊藤 和夫・孝橋 照生

### Electronic Engineering, Advanced Course

電子スピンの作り出す物性である“磁性”に関して、その種類や特徴、計測手法を説明する。また磁性を利用したデバイス（磁気記録装置、永久磁石等）に関して、その原理や構造を歴史的背景および実用例も含めて講義する。

This course lectures on "magnetism" in the categories of basic principles, characteristics, and measurement methods, which come from electron spin. In addition, principles and structures of magnetic devices (magnetic recording devices, permanent magnets, etc.) are explained with historical backgrounds and practical examples.

## シミュレーションとナノ計測工学特論 岩崎 富生・原田 研

### Micro-scale Computer Simulation and Nano-metrology

ナノ領域での原子、分子の振る舞いを解析し、材料物性や界面物性を予測するとともに、シミュレーションデータを情報工学により分析して物性の優れた材料を設計する「マテリアルズ・インフォマティクス」を含めたシミュレーション工学について講義する。さらには、タンパク質・DNAと有機分子の吸着など、プラスチックの生分解や医療・創薬についてのシミュレーションも解説する。また、ナノ計測では、原子レベル分解能を持つ透過電子顕微鏡の構造と画像情報、およびナノ材料やナノデバイスの微細構造解析への応用について講義する。

This course provides nano-scale simulation technologies that predict properties of materials and

interfaces from atomic or molecular dynamics, and also provides materials informatics technologies that enable us to design excellent materials by analyzing simulation data. In addition, the simulations of the adhesion between proteins, DNA and organic molecules, which are related to the discovery of biodegradable plastics, new drugs and biomedical, are explained. Furthermore, as for Nanometrology, the configuration and the image information of a transmission electron microscope which has an atomic order resolution will be lectured and then their applications for fine structure analysis of nanomaterials and nano-devices.

## 現代物理学インテンシブ

高橋 学・長尾 辰哉・守田 佳史・引原 俊哉・  
山本 隆夫・後藤 民浩・鈴木 真粧子

### Modern Physics Intensive Course

現代物理学の中から、次のテーマについて解説、講義を行う。

1) d 電子系物性理論, 2) f 電子系物性理論, 3) 低次元量子系理論, 4) 量子スピン系理論, 5) 結晶成長理論, 6) 光物性実験, 7) 構造物性実験。

The following research fields of modern physics are lectured: 1) theoretical study of d-electron systems, 2) theoretical study of f-electron systems, 3) theoretical study of low dimensional quantum systems, 4) theoretical study of quantum spin systems, 5) theoretical study of crystal growth, 6) experimental study of optical properties of matter, 7) experimental study of atomic structure of matter.

## 量子ビームイメージング

山口 充孝・河地 有木

### Quantum Beam Imaging

量子ビームイメージング技術は、放射線を画像化して医療診断等に用いる放射線計測の一分野である。応用分野は医療のみならず、農学を含む生命科学領域の多岐に渡る。授業では、量子ビームの発生方法、物質との相互作用を学び、PET システム、コンプトンカメラシステムといった新しい測定システムも含め、その原理と性能評価、および応用について言及する。

The quantum beam imaging technology is a subfield of radiation measurement that visualizes radiation for applications such as medical diagnosis. It is applied not only in medicine but also in a wide range of life sciences including agriculture. This course will cover the generation of quantum beams, their interactions with matter, and will discuss principles, performance evaluations, and applications, including PET systems and a novel measurement system like the Compton camera.

## 情報通信工学特論

高井 伸和

### Information and Communication Engineering

通信経路上の多くの信号の中から情報を取り出すために必要なフィルタ理論について講義する。バターワース、チェビシェフ、ベッセルフィルタの伝達関数の数学的な解析を学んだ後、具体的にそれぞれのフィルタを設計する手法を講義する。最後に設計したフィルタを実際の回路として構成するための回路設計法を講義する。

The aim of this lecture is to understand analog filter theory which is very important theory to select a desired signal from the communication line. At first, mathematical analyses of the Butterworth, Chebyshev, Bessel filter are given, and design methods of these filters are given. Finally, circuit designs of these filters are discussed.

(研究指導)

### 理 工 学 特 別 演 習 全教員

#### Seminar in Specialized Topics

電子デバイス，計測・制御・エネルギー，情報通信システム，計算機科学，数理科学，物理学の分野において，指導教員ごとに学生に以下に示す領域等から研究課題を選択させて，これに関連した文献講読などの演習を行う。

### 理 工 学 特 別 実 験 全教員

#### Experimental Research in Specialized Topics

電子デバイス，計測・制御・エネルギー，情報通信システム，計算機科学，数理科学，物理学の分野において，指導教員ごとに学生に以下に示す領域等から研究課題を選択させて，理論研究・実験・システム作成などについて研究を行わせ，修士論文の作成指導を受ける。

## [学府共通教育科目]

(数学系科目)

### 代 数 学 特 論 II 名越 弘文

Algebra II, Advanced Course

整数論におけるいくつかの基本的な定理たちを解説し、暗号の理論へのそれらの応用を述べる。具体的な内容は、ユークリッドの互除法、合同、一次合同式、フェルマーの小定理、原始根、離散対数、平方剰余の相互法則、素数判定法、素数分布、素因数分解アルゴリズム、暗号、RSA、デジタル署名、疑似乱数生成である。

This course explains some basic theorems in number theory and gives their applications to the theory of cryptography. The following topics will be discussed: Euclidean algorithm, congruence, linear congruence equation, Fermat's little theorem, primitive roots, discrete logarithm, quadratic reciprocity law, primality tests, distribution of primes, prime factorization algorithms, cryptography, RSA, digital signature, pseudorandom number generators.

### 代 数 学 特 論 III 宮崎 隆史

Algebra III, Advanced Course

初等整数論の基礎と応用について学ぶ。整数の集合を割り算によって分割して出来る剰余類の概念を学ぶことを通して、その背後にある群論の基本を理解する。また合同式を使ってそれらを表現し、整数に関わるより高度な計算が出来る様になることを目指す。さらに、初等整数論がどのように応用されるかを知ることにより、理論の理解を深める。

This course explains some basic facts in elementary number theory and their applications. Through the notion of residue class of integers, we will understand the basic of the group theory. We express them by using congruence to work out non-trivial computations among integers. Moreover, some topics will be presented as applications of elementary number theory.

### 解 析 学 特 論 I 高江洲 俊光

Analysis I, Advanced Course

原子・分子の系のスペクトル・散乱現象は量子力学の理論で記述される。この講義では、量子力学の理論で中心となるシュレディンガー方程式の解析に関する基本的事項について学ぶ。

Quantum mechanics describes the spectrum and scattering phenomenon of the systems of atoms or molecules. In this class, we study the basic analysis of Schrödinger equation, which is the main topics in the quantum mechanics.

## 解 析 学 特 論 II 田沼 一実

Analysis, Advanced Course

デルタ関数は、一点に単位質量（または単位電荷）が存在するときの質量密度関数（または電荷密度関数）として特徴づけられるが、微分積分学の範疇では理解しにくい関数である。そこで本講義ではデルタ関数を出発点に、関数という概念をいくつかの数学的観点から見直し、超関数（distribution）の紹介を行う。さらに解が特異性を有するような微分方程式を対象に、初期条件、境界条件を与え、解の構成方法と解のもつ性質を中心に解説する。その際、外力項をデルタ関数においた微分方程式の解（グリーン関数）を構成することが要点となる。以上の内容を理工学府全教育プログラム向けに基礎から丁寧に講義する予定である。

Starting from a question “What is the delta function?”, we introduce a basic theory on distributions. We then study various methods for solving differential equations whose solutions develop singularities and investigate the properties of those solutions. Construction of the Green functions will be useful.

## 解 析 学 特 論 III 渡辺 秀司

Analysis III, Advanced Course

関数解析学とその量子力学への応用とについての基本的な力の習得を目標とする、講義を主体とした授業を行う。まずは、ブラケット記法による量子力学の物理学的な定式化を、次に、ブラケットをヒルベルト空間の要素として、物理量をその上の線形作用素としてそれぞれ扱うことを学ぶ。

Give an overview of mathematical foundation of quantum mechanics. Understand the basic concepts of quantum mechanics including bras, kets and observables. Understand functional analytical formulation of bras, kets and observables in quantum mechanics.

(物理系科目)

## 熱 力 学 特 論 山本 隆夫・武野 宏之

Thermodynamics, Advanced Course

非常に多くの自由度を持つ系を単純に理解することのできる熱力学の精神について深く理解し応用力を培うために、熱力学の第一法則、第二法則といった巨視的法則の視点と、微視的な構造から巨視的な性質を導出する統計力学の視点という二つの視点から高分子鎖および高分子溶液の熱的性質を講義する。

The aim of this lecture is to achieve great understanding of thermodynamics and to cultivate applied skill of it through discussing the thermodynamic properties of polymer chains and polymer solutions on the basis of both the macroscopic thermodynamic laws and the microscopic statistical-mechanical analysis.

## 量 子 物 理 学 特 論 引原 俊哉

Quantum Physics

現代の工学に共通する基礎理論としての量子力学について講義する。原子・分子や固体中の電子など、

様々な研究対象を解析するための量子力学的手法について学習する。具体的には、シュレーディンガー方程式の解法、摂動論などを学ぶ。

The lecture concerns basic theory of quantum mechanics. Several fundamental techniques of quantum mechanics including a solution of Schrodinger equation and perturbation theory will be discussed.

### 統計物理学特論 I 守田 佳史

Statistical Physics I, Advanced Course

凝縮系物理学の話題を中心に、統計物理学における種々の方法を学ぶ。

Focusing on topics of condensed matter physics, we shall discuss the methods of statistical physics.

### 統計物理学特論 II 山本 隆夫

Statistical Physics II, Advanced Course

要素のダイナミクスを支配する力学から、集団の性質の質的変化という相転移現象がどのように理解できるかを統計物理学の原理に基づき簡単なモデル例で具体的なイメージをもたせるよう工夫しながら講義する。

The aim of this lecture is to achieve microscopic understanding of the phase transition phenomena through analyzing some simple models on the basis of statistical mechanics.

### 物性物理学特論 I 長尾 辰哉

Material Physics, Advanced Course I

本講義では、可視光や x 線など、光実験によって観測される結晶の物性を理解するための理論の基礎を講義する。光(光子)と物質の相互作用という統一的な観点から、観測された現象の微視的な発現機構を理解するために役立つ話題を基礎から発展的なものまで紹介する。

In this lecture, theoretical foundation to understand the physical properties of crystals experimentally probed by light such as visible light and x-ray is presented. On the basis of the interaction between the matters and light (photon), several interesting topics, from fundamental to advanced (e.g., resonant x-ray scattering, x-ray absorption) ones are introduced to understand the microscopic mechanism of the experiments.

### 物性物理学特論 II 高橋 学

Theoretical Solid State Physics II

物質の磁気的性質を中心に講義する。物質中の電磁気の振る舞い、反磁性、常磁性、強磁性について学ぶ。

The lecture will focus on the magnetic properties of materials. Learn about the electromagnetic behavior of matter, antimagnetism, paramagnetism, and ferromagnetism.



(化学系科目)

## 固 体 化 学 特 論 花屋 実・京免 徹・藤沢 潤一

Advanced Solid State Chemistry

結晶構造に関連する様々な用語や表記法および結晶構造を決定する方法である回折実験の原理を理解し、物質の性質を理解する基本情報である原子配置に関する基礎的知識を身につける。また、交流誘電率測定、熱測定・熱分析、固体高分解能 NMR の基本的な原理を理解し、その応用に関する基礎的知識を身につける。

Crystallography and the principles of diffractometry, dielectrometry, thermal analysis, calorimetry, and high resolution solid-state NMR are explained with exhibiting the applications of those methods to the characterization of condensed materials.

## 有 機 化 学 特 論 中村 洋介・堂本 悠也

Advanced Organic Structural Chemistry

ひずみ、立体化学、芳香族性などの有機構造化学における重要な概念について解説した後、有機機能物質化学の観点から、有機発色性物質（色素、クロミズム）、有機発光性物質、有機表示物質、有機電導性物質、有機磁性物質、金属イオン捕捉有機物質（ホスト-ゲスト化学）等について概論的に講述するとともに、それぞれの実例を挙げて解説する。

This course provides some essential concepts in organic structural chemistry such as strain, stereochemistry, and aromaticity, and the outline and examples of organic functional materials, such as organic dyes, light-emitting materials, display materials, conductors, magnets, and ionophoric materials.

## 高 分 子 化 学 特 論 米山 賢・奥 浩之

Polymer Chemistry, Advanced Course

高分子材料の構造・物性を理解するために以下の内容について講義する。(1) 電気的性質、熱的性質と高分子材料の機能および高分子の反応。(2) 高分子構造を調べるための分析法。

The aim of this lecture is to understand characteristics of polymer materials. The topics in this course will be introduced as follows: (1) Electric and thermal properties. Functional polymers. Polymer reactions. (2) Structural analytical methods.

(生物系科目)

## 生 物 科 学 特 論 井上 裕介・武田 茂樹

Food Immunology and Cell Engineering, Advanced Course

この講義では食品免疫学と細胞工学についての講義を行う。食品免疫学では、免疫制御に関する分子機構を理解するとともに、その機能性食品、アレルギーや自己免疫疾患の予防を目的とした食品への応用に関して考察する。細胞工学では、哺乳類細胞における代謝の制御機構について講義する。また、遺

伝子工学的手法を用いた多機能性細胞の開発や遺伝子改変動物の作製などについて紹介する。

This course covers food immunology and cell technology. “Food immunology” emphasizes the molecular basis of regulation of immune responses and their application to the functional foods, especially to the prevention of allergy and autoimmune disease. “Cell technology” focuses on regulatory mechanism of metabolism in mammalian cells. New techniques such as development of pluripotent cells and establishment of genetically modified animals using genetic engineering will be also introduced.

(インテンシブ科目)

## 理 学 イ ン テ ン シ ブ I 佐藤 正英

### Science Intensive Course I

主に学外から講師を迎えて、物理学の関連分野からトピックスを選び講義する。講義のトピックスは毎年変わる。講義の詳細はシラバスを参照すること。最先端の物理 関連の理学研究について、基礎から応用まで概観する。物理学としての研究成果だけでなく、それらがどのように応用されているか役に立っているかまで講義する。

We invite lecturers mainly from outside the university to give lectures on selected topics in related fields of physics. The topics of the lectures will change every year. Refer to the syllabus for details. This course provides an overview of the latest physics-related scientific research, from basic to applied. The lecture will cover not only the results of research in physics, but also how they are applied and useful.

## 理 学 イ ン テ ン シ ブ II 山本 隆夫

### Science Intensive Course II

熱力学的視点から論じられることの多い1次相転移現象を、統計力学的な視点から講義することで、1次相転移現象についての深い理解と応用力を養う。

The aim of this lecture is to achieve great understanding of the first-order phase transition and to cultivate applied skill of the first order-phase transition phenomena. To achieve the aim, the first-order phase transition is discussed on the basis of statistical mechanics.

## 理 学 イ ン テ ン シ ブ III 高橋 学

### Science Intensive Course III

学部の力学に関連する講義で学んだことを基本にして、剛体の運動および角運動量について学ぶ。

In this intensive course we discuss the elementary dynamics of rigid bodies and the concept of angular momentum.

## 理 学 イ ン テ ン シ ブ Ⅳ 守田 佳史

### Science Intensive Course IV

凝縮系物理学の話題を中心に、自然科学における種々の方法をまなぶ。

Focusing on topics of condensed matter physics, we shall discuss the methods of science.

## 理 学 イ ン テ ン シ ブ Ⅴ 引原 俊哉

### Science Intensive Course V

自然科学の様々な分野で登場する概念であるエントロピーについて学習する。各分野におけるエントロピーの物理的意味についての理解を深めるとともに、エントロピーを通して浮かび上がる自然科学の様々な領域に共通する普遍性についての理解を涵養する。

This course will focus on Entropy, a fundamental concept appearing in various fields of science. Variety and universality of entropy in several fields such as thermodynamics, statistical mechanics, and information theory will be discussed.

## 理 学 イ ン テ ン シ ブ Ⅵ 長尾 辰哉

### Science Intensive Course VI

分子や結晶の示す物性は、その系の対称性を考察することにより、詳細な理論計算を駆使せずとも定性的に理解できることが多い。本講義では群論の表現論について必要最小限の知識を補った後、その分子、結晶の物性研究の具体的な対象への使用例を紹介する。

Consideration on the basis of the symmetry possessed by the systems, such as molecules and crystals, is quite useful to understand the qualitative properties shown by them without massive theoretical calculation. In this lecture, after introducing minimum ingredients of representation theory of group, several applications to the study of molecules and crystals are explained.

## 理 学 イ ン テ ン シ ブ Ⅶ 鈴木 真粧子・太田 幸則

### Science Intensive Course VII

本講義では、光と物質が織りなす光物性とその実験手法、および磁性物理と医工学への応用について、最近の研究例を挙げながら解説を行う。

This course lectures on the optical property of materials and its experimental details. Practical use for the magnetic and medical engineering is also presented.

## [学府開放教育科目]

(実践実習科目)

### 分析・測定スキルアップ実践実習 松尾 一郎・堂本 悠也

Advanced Practice in Instrumental Analysis

NMR, 質量分析の基本原理, 応用例について説明する。この理解のもとに実際の有機化合物の構造解析実習を行い, 装置の基本的操作, データ解析法を身につける。

The fundamentals of NMR and MASS spectroscopy and their applications are lectured. On the basis of these lectures, the practices of the NMR and MASS spectroscopy are carried out in order to learn the basic operation of machines and the analytical method of the obtained data.

### CAD・CAM スキルアップ実践実習 林 偉民

Practical Training and Exercise in Skill Development of CAD/CAM

CAD ソフトウェア Solidworks を使用して, 三次元設計および設計の基本についてのスキルアップをするための実践演習科目である。本演習では, 幾何学的構造, スケッチ, 直線, 3D モデリング, 投影法, 副視図, 寸法公差, フィット, アッセンブリー, パラメトリック等について学ぶ。三次元モデルの例題を作成し図面を読むための基本的なスキルとその知識を修得することが本科目の目的である。

This course covers exercises and practical training in skill development for basic designing, a three dimensional design using a CAD software (Solidworks). Topics includes a geometric construction, sketching, lines, a 3-D modeling and drawing, orthographic projection, auxiliary views, dimensioning & tolerancing, tolerance and fit, assembly, parametric modeling etc.. The aims of the course is providing knowledge and basic skills for reading engineering drawing and production of some examples of 3-D models.

### 環境計測・シミュレーションスキルアップ実践実習 渡邊 智秀・中川 紳好・桂 進司・若井 明彦・野田 玲治

Practical Training of Measurement and Simulation for Environmental Research

自然環境や化学プロセス内で起きる様々な現象をモデル化し, シミュレーションするために必要となるシミュレーターの利用法や計算や結果の評価に必要なデータを得るための各種計測技術についての実習を行う。

This course provides practical trainings for mathematical modeling of physical phenomena and utilization of a computer simulator as well as measurement techniques in order to get the data for the simulation. The subjects of the modeling and the simulation are in the field of environmental and chemical engineering.

(プロジェクト系科目)

### ファイブバイオ工学特論 粕谷 健一・河原 豊・橘 熊野

Fibro-bioengineering, Advanced Course

環境調和型材料を天然高分子、バイオマスプラスチックや生分解性高分子から創成するためには、分子構造と物性との関連だけでなく環境中での分解機構まで理解する必要がある。本講義では、植物の繊維細胞や、絹フィブロインタンパク質、羊毛ケラチンなどの天然高分子の基本物性と構造の関連性や、バイオマスプラスチックおよび生分解性高分子の構造-物性、および生分解性機構について解説する。

In order to develop eco-friendly materials from natural biopolymers, biomass-based plastics, and/or biodegradable functional polymers, it is very important to understand the relation between the molecular structure and hydrolyzation mechanism by environmental microorganisms as well as the basic physical properties for those polymers. In the classes, fundamental properties of natural biopolymers such as fibrous cells of vegetables, silk fibroin, wool keratin will be introduced, the synthetic method and properties of biomass-based plastics, and the structures, physical properties, and biodegradabilities of biodegradable plastics will be presented.

### 医 工 連 携 特 論 伊藤 正実

Partnership of Medicine and Engineering Research

この講座では、工学系及び医学系の専門分野の研究者が自身の最新の研究成果についてプレゼンし、異種分野との連携の可能性を議論することを聴講し、学際領域の知識形成のプロセスを理解することを狙いとする。

This course aims the understanding of the knowledge formation process in the interdisciplinary area by listening the presentation of latest research results of engineering and medicine and the discussion about the potential to seek the research project by the collaboration between both area.

### 医理工連携重粒子線治療の物理と医学特論 櫻井 浩・花泉 修・重粒子線医学推進機構各教員

Physics and Medicine of Heavy Ion Therapy for Cooperation of Medicine and Engineering, Advanced Course

放射線・粒子線の物理学の基礎、その加速器等発生装置・線量測定の基礎について学ぶ。さらに、それらを利用した人体の構造のイメージング、治療の基礎と線量測定による治療計画立案の考え方を学ぶ。これらの講義を通して、重粒子線治療の概要とポイントを把握させることを目的とする。

This course covers essential physics of radiation, particle beam, accelerator and dosimetry. Those applications for human body imaging and design for treatment plan are also discussed. Students study concept and essence of heavy ion therapy.

### 医学物理計測制御特論 鈴木 宏輔

Measurement Control in Medical Physics

医工学の基礎について講義する。具体的には人工心臓などの電気機械装置を利用した人工臓器の基礎

と最新技術について講義する。さらに、高エネルギーイオンビームを基盤とした医学・医療分野等への応用技術について講義する。

This course lectures on bases of medical engineering, specifically it lectures on a basis and recent progress of the artificial internal organ technology such as an artificial heart using electromechanical devices. It also lectures on a basis on a high-energy ion beam technology applied to the field of medical science and technology.

### 総合日本語中級Ⅰ 渡邊 知積

#### Comprehensive Intermediate Japanese I

中級レベルの文章を読みこなす能力を育成する。あわせて、中級レベルの文法項目を用いて正確な文章を産出できるようにする。日本語による資料の読解能力を高め、コミュニケーション能力を育成することにより、大学において学習や研究活動を支障なく行える日本語能力を涵養する。これにより円滑な学位取得を可能とすることを旨とする。

The aim of this course is to cultivate the ability to read Japanese intermediate level sentences. In addition, practice to make accurate sentences using intermediate level grammar items. Students will improve Japanese reading skills and acquire high communication skills.

### 総合日本語中級Ⅱ 大和 啓子

#### Comprehensive Intermediate Japanese II

中級レベルの文章を読みこなす能力を育成する。あわせて、中級レベルの文法項目を用いて正確な文章を産出できるようにする。日本語による資料の読解能力を高め、コミュニケーション能力を育成することにより、大学において学習や研究活動を支障なく行える日本語能力を涵養する。これにより円滑な学位取得を可能とすることを旨とする。

The aim of this course is to cultivate the ability to read Japanese intermediate level sentences. In addition, practice to make accurate sentences using intermediate level grammar items. Students will improve Japanese reading skills and acquire high communication skills.

### 総合日本語上級Ⅰ 大和 啓子

#### Comprehensive Advanced Japanese I

上級レベルの学習者を対象に、専門的な学習に必要な日本語の技能をさらに伸ばす。また、将来の進路に視野をおき、日本企業への就職に必要な高度な日本語能力の育成を図る。

This course is for advanced learners of Japanese language wishing to brush up their skills necessary for the latter half of university study and life.

### 総合日本語上級Ⅱ 渡邊 知積

#### Comprehensive Advanced Japanese II

上級レベルの学習者を対象に、専門的な学習に必要な日本語の技能をさらに伸ばす。また、将来の進

路に視野をおき、日本企業への就職に必要な高度な日本語能力の育成を図る。

This course is for advanced learners of Japanese language wishing to brush up their skills necessary for the latter half of university study and life.

## [技術マネジメント系科目]

**M O T 特 論** 伊藤 正実・萩原 浩・坂田 毅・星野 栄一  
Management of Technology

かなりの割合の方が将来、企業で研究開発の仕事に従事するものと思います。企業での研究開発に従事する上で、技術経営（MOT）の素養は必須のものです。本講義では企業における研究開発の戦略、研究開発のプロセスの有り方、研究開発の成果を効率よく事業に結び付ける為の方法論、あるいはこれを守る為の知的財産の取扱い方まで含めて取り扱います。すなわち、技術経営とは、研究開発から事業化までのプロセスの効率性を向上させ、新しい経済的価値を創出していくための戦略を立案・決定・実行する方法論を体系化したものです。本講座ではこうした技術経営の基本的な考え方を習得していただく事を目指していきます。特に、研究開発による経済的価値の創出を統合的に理解することを目指して、講義を展開します。また、具体的な企業の研究開発事例等を用いたディスカッションも講義の中に取り入れます。

“Management of Technology” is the systematized knowledge to perform planning and operation of the strategy to create new economical value by improving the efficiency of the process from R&D to commercialization. This class aims to understand the basic way of thinking for the management of technology. Also, the class includes the group discussion by use of case study.

**経 営 工 学 特 論** 伊藤 正実・角田 達朗・芳賀 知  
Industrial Engineering for Production Activities

経営工学という言葉は様々な意味で用いられるが、ここで言う経営工学は企業での生産活動の経済的価値最適化の在り方を中心に理解を深める事を目的とします。即ち、製品の生産においては、設備、材料、ワーカーの最適な組み合わせを探し、ねらい通りのものを、計画した数量分効率よく生み出すための「しくみ」（工程）をつくる必要があります。そのためには、システム的な思考に基づいて工程を設計、それを実際に運用して継続的に改善することが必要です。即ち、生産管理、品質管理、コスト管理などの基本的な考え方と数理手法を適用して、ライン編成を中心とした生産工程の設計を行い、設計した工程を実際に動かし、そこで発生するさまざまな問題の解決に取り組むことで、生産システムの設計、改善、統制について理解します。さらに、これに関連して、複数の企業間での物流システムの最適化によって経営の効果を高める手法であるサプライチェーンマネジメントの概念まで含めて習得します。

The objective of this course is focused mainly to understand the optimization of production activities to increase economical value. Thus, for the production activities, it is necessary to create efficient “production process” based on the plan by establishing the best combination of equipment, material and worker. Therefore, this course shows basic concepts such as manufacturing control, quality control, cost control and so on. In connection with these concepts, SCM (Supply Chain Management) which is management method to improve the efficiency by the optimization of inter-

enterprise logistic system, is introduced.

## インターンシップ 全教員

### Internship

企業において修得した学問を実践的に活用する能力を培うために、企業におけるインターンシップを行う。事前のガイダンスの後、インターンシップを行い、発表会を開催しそこでの発表・討論を経験させる。

## 長期インターンシップ 全教員

### Long-term Internship

修得した学問を企業において実践的に活用する能力を培うために、事前教育を含めて3ヶ月程度の長期間の企業におけるインターンシップを行う。事前教育としては、企業におけるマナー、知的財産、安全管理について教育する。加えて、派遣先の企業およびそこでの職務に応じた周辺分野の教育も行う。派遣先企業の担当者との協議を基に経過報告書を作成することを義務づけ、最終的な報告書を提出させ、最後に発表会を開催しそこでの発表・討論を経験させる。

## 科学研究発表技法 海野 雅史

### Scientific Research Presentations

研究発表の手法には口頭発表とポスター発表があり、形式は異なるが基本的な技法は共通している。本講義では実験結果の提示手法、口頭発表手法などを実施により身に付けることを目標とし、加えて質疑応答における発表者の対応とともに、質問の仕方についても紹介する。また、レポートや総説、研究論文を書くためのトレーニングも行う。ネイティブの論文を参考とし、一流学会誌や国際会議で遜色のない発表を行うための基礎作りを行う。

There are two different styles for research presentation, an oral presentation and a poster presentation, and their basic techniques are similar each other. In this course, students will learn how to present experimental data and voice controls for the presentation. Also, hints for asking and answering questions in discussion for presentation will be introduced. In addition, students will make a practical training on the writing of technical reports, reviews and research papers on chemical topics.

## コミュニケーション技術 未定

### Practice on Teaching and Instruction in Chemistry and Chemical Biology

物質・環境類の学生実験の実験補助を通して、わかりやすく確実な教育方法を修得する。これにより、将来指導的立場になった時に必要な指導スキルを得ることができる。

Through the assistance of experiments of bachelor course, students will acquire easy-to-understand and reliable teaching methods. This will enable them to acquire the teaching skills they will need when they are in a leadership position in the future.



## 国際コミュニケーションⅠ 各教員

### International Communications I

外国人と協調して仕事に取り組める人材を育成するために、国際語である英語のコミュニケーション能力および異文化の知識を習得するため、一定期間以上（1週間程度以上）の海外の群馬大学協定校における研修，または海外における専任教員が引率する研修会における研修を行う（実習29時間）。研修では、海外の学生や教員，研究者との交流会やディスカッション，ミーティング，共同作業への参加，または海外の学術機関における実験，実習のいずれかを行う。最後に，研修終了後研修内容を発表会で発表させる（演習8時間）。

The aim of this course is to acquire English communication skill and knowledge of other cultures. Students undergo training at partner universities of Gunma University over a period of time (longer than a week) or attend workshops overseas. After completing their training students present about their experience.

## 国際コミュニケーションⅡ 各教員

### International Communications II

外国人と協調して仕事に取り組める人材を育成するために，国際語である英語のコミュニケーション能力および異文化の知識を習得するため，一定期間以上（2週間程度以上）の海外の群馬大学協定校における研修，または海外における専任教員が引率する研修会における研修を行う（実習74時間）。研修では，海外の学生や教員，研究者との交流会やディスカッション，ミーティング，共同作業への参加，または海外の学術機関における実験，実習のいずれかを行う。最後に，研修終了後研修内容を発表会で発表させる（演習8時間）。

The aim of this course is to acquire English communication skill and knowledge of other cultures. Students undergo training at partner universities of Gunma University over a period of time (longer than two weeks) or attend workshops overseas. After completing their training students present about their experience.

## アントレプレナーシップ特論 板橋 英之 他

### Advanced Lecture on Entrepreneurship

起業に必要な事項について解説した後，実際の起業ケースの成功事例・失敗事例から得られる教訓を基に，事業を成功に導くための必要条件について講義する。また，個々の受講生のシーズをビジネスにつなげるためのプラン作成について指導すると共に，考案したビジネスモデルの発表会を通して，効果的なプレゼンテーション方法について議論する。

The aim of this course is to help you understand, from the viewpoints of success and failure cases in business, the significance and determinants of entrepreneurship, and effective policies to promote entrepreneurial activities. The effective presentation skill on business is also provided through the discussion about your business model.

## [リーディングコース科目]

(医理工共通科目群)

### 生命倫理と法的規則 曾根 逸人

Bioethics and Legal Restrictions

倫理を法と混同していたり、既成の規制を受け身で守っていさえすればいいと思いきこんでいたり、現実の問題を機械的に解決してくれる倫理の理論があると思っている方々の誤解を解くことが、本講義の狙いである。

This course aims at removing false ideas of those who confuse ethics with law, assume that they have only to observe established regulations or believe that there exists an ethical theory which solves practical problems automatically.

### 関連法規・医療倫理 曾根 逸人

Medical Ethics and Related Laws

医学物理士の業務に必要な放射線関連法規および勧告を学び、臨床医学と科学研究における、医療従事者としての心構えや倫理上の問題を取り扱う。倫理について文書化された行動規範を学ぶことに加え、行動の選択が必要な場面を知っておく必要があり、授業の中でケーススタディを行う。

To learn acts and laws regarding to ionizing radiation hazard prevention is very important for students who aim at working as a medical physicist. And medical staff who works for clinical medicine and medical research should know ethics on medicine and clinical research. In classes, we learn ethical problems in various situations with case-study.

### 研究倫理 曾根 逸人

Research Ethics

「人を対象とする医学研究に関する倫理指針」では「研究者等は、研究の実施に先立ち、研究に関する倫理並びに当該研究の実施に必要な知識及び技術に関する教育・研修を受けなければならない。また、研究期間中も適宜継続して、教育・研修を受けなければならない。」とされている。本講義では、専門分野で独創的あるいは学際的な研究を遂行する際にふまえておかなければならない倫理の基礎をカバーする。

This e-learning course provides students with the very basic of research ethics. This relates to CPI. Ethical Guidelines for Medical and Health Research Involving Human Subjects prescribes that all investigators shall receive education and training on the ethics of research and on knowledge and skills necessary to carry out the research prior to its implementation.

## 生 理 学 武田 茂樹

### Physiology

人体の生理機能の概略について、系統別に解説する。恒常性により健康な体がどのように維持されているのかについて、および恒常性の破たんと疾患の関わりについての理解を深める。特にがんとがん治療を視野に解説する。

Outline of physiological functions of the human body will be discussed. Students will study about how healthy bodies are maintained by homeostasis, and relationships between the disorder of homeostasis and disease. In particular, cancer and cancer treatment will be focused.

## 解 剖 学 武田 茂樹

### Anatomy

人体の構造の概略について、系統別に解説する。臓器や器官の位置と役割について正常な形態と構造を学ぶことで、疾患がもたらす異常と問題について理解を深める。特にがんとがん治療を視野に解説する。

Outline of the structure of the human body will be discussed. Students will study the normal position and morphology of organs, and relationships between the disorder of organs and disease. In particular, cancer and cancer treatment will be focused.

(医学物理基礎科目群)

## 力 学 櫻井 浩

### Mechanics

高校レベルの物理学で学習した力学分野を復習し、より詳細について学ぶ。単に力学の知識を得るだけでなく、様々な専門科目を今後学ぶにあたっての基礎となる方法論を身につけることを目標とする。

In this lecture, first we review important points of the mechanics field you've learned in high school and then we study more details of mechanics. The final goal of this course is to acquire the methodology that should be a foundation when you will learn various specialized major subjects in future.

## 電 磁 気 学 花泉 修

### Electromagnetism

電磁気学の基本法則の理解を目的とする。クーロンの法則およびガウスの定理について述べてから、アンペールの法則およびビオ・サバルの法則について解説する。さらに、電磁誘導や電磁波の伝搬について解説する。

This is an introductory course for understanding fundamental laws of Electromagnetism. The following topics will be treated here; Coulomb's law, Gauss theorem, Ampere's theory, Bio-Savart law, electromagnetic induction, and propagation of electromagnetic wave.

## 量 子 力 学 花泉 修

### Quantum Mechanics

量子力学の基本概念の理解を目的とする。光の粒子性および物質の粒子性について述べてから、不確定性原理について解説する。さらに、種々の場合におけるシュレディンガー方程式の取り扱いについても解説する。

This is an introductory course for understanding basic concept of Quantum Mechanics. The following topics will be treated here; quantum theory of light and materials, uncertainty principle, and treatment of Schrodinger equation in various cases.

## 物 理 数 学 山口 誉夫

### Physical Mathematics

基礎的な数学と応用数学について理解を深めることを目的とし、(1) フーリエ級数、(2) フーリエ変換、(3) ラプラス変換、(4) ベッセル関数、(5) ルジャンドル関数 などの基礎及びそれらの理工学分野への応用例について講義する。

The aim of this lecture is to understand basic and applied mathematics. And basic idea and application of (1)Fourier series, (2)Fourier transform, (3)Laplace transform, (4)Bessel function, and(5) Legendre function etc. for science and technology, are explained.

## 放 射 線 物 理 学 櫻井 浩

### Radiation Physics

放射線物理学では、放射線と物質の相互作用を扱い、放射線に関連する種々の自然現象について理解する。そのために必要な各種物理量と単位、原子や原子核の構造を学ぶことから始め、各種放射線の発生過程及び物質との相互作用を理解する。また粒子線治療等に用いられる荷電粒子に関しては加速器及びビーム制御・計測技術と実際の応用について学ぶ。そして放射線量について、放射線場の量、相互作用の係数及び線量計測量に関する理解を深める。

Main subject is an interaction between radiation and materials. The purposes of this class is to learn units of physical quantities, interactions between radiation and materials, radioactive decay of radioisotopes, energy deposition and energy absorption, nuclear reactions and related issues. And it is also to learn about particle accelerator, beam control, measurement technology and its applications such as particle therapy. And then understanding about the radiation dose is deepen.

## 医 療 ・ 画 像 情 報 学 櫻井 浩

### Medical · Image Informatics

画像・情報学の基礎から医療応用までを学ぶことを目標とした科目である。まず、情報理論、信号理論を基礎として画像の数式表現、画像変換などを解説する。これらを基礎に画像の解析や圧縮等について学習する。また、コンピュータトモグラフィなど基本的な画像構成法からその医療画像応用について講義する。

Aim of this lecture is learning the fundamentals in image processing and information science and

its application in medical imaging. First, based on information theory and signal processing theory, mathematical expressions of images and image conversion are discussed. Then, image analysis and image compression of images are lectured. In addition, basic image construction methods such as computer tomography are presented and its application in medical image process is discussed.

## 統 計 学 山口 誉夫

Statistics

確率論の基礎概念（確率空間, 確率変数, 条件付き確率, 独立性, 分布関数, 期待値, 母関数など）から, 大数の法則と中心極限定理まで, 確率論の基礎を解説する. 高等学校で習う組み合わせ論に基づいた離散的な確率の概念だけではなく, 連続的な量についても扱える確率論を学ぶ. 現代の確率論を数学的に扱うための枠組みを初歩的に紹介する。

In this class, we learn the basics of probability theory, including concepts of probability space, random variable, conditional probability independence of random variable, distribution function, expectation, generating function. We also learn the law of large numbers and the central limit theorem. We learn not only discrete type probability in high school but also continuous type probability. Introductory explanations of mathematics of modern probability theory will be provided.

## 科 学 英 語 山口 誉夫

Scientific English

科学技術の最新情報に関するプレゼンテーションを基に作成されたリスニング教材を使用してリスニングトレーニングをする。またその分野で著名な学者に関するリーディング教材を使用して英文理解をする。

The materials for listening practice are provided by the hot topics in science and technology. And the materials for reading practice are provided by the articles of the big names in research area.

(重粒子線医工学科目群)

## 保健物理・放射線防護学講義 櫻井 浩

Health Physics and Radiation Protection

保健物理・放射線防護に関する基礎的・包括的な知識の習得を目的とする。線量の単位や放射線影響などの基礎概念について述べてから, 国際放射線防護委員会 (ICRP) の放射線防護体系および被ばく線量の評価方法について解説する。さらに, 具体的な防護方法及び日常の安全管理等も紹介する。

This is an introductory course for understanding basic and comprehensive concept of Health Physics and Radiation Protection. The following topics will be treated here; basic concept of unit of radiation and radiation effect, protection system of radiation and evaluation method of radiation exposure of ICRP, and protection method and security control of everyday.

## 放射線診断・核医学物理学講義 櫻井 浩

Physics in Radiation diagnosis and Nuclear Medicine

### 放射線診断

電離放射線，超音波，核磁気共鳴など，おもに疾患による形態上の変化を画像化して診断に用いる医学の一分野である。これらの技術の原理の理解を目指す。

### 核医学物理学

放射性医薬品の物理的性質および生成法を学び，ガンマカメラ，PET システム，SPECT システム，PET/CT システムといった新しい測定システムも含め，その原理と性能評価，および管理について言及する。

### Radiological diagnosis

Radiological diagnosis is a field of medicine used for diagnosis by imaging morphological changes mainly due to diseases such as ionizing radiation, ultrasound, and nuclear magnetic resonance. Students learn the principles of these technologies.

### Nuclear medicine physics

Students learn the physical properties and production method of radiopharmaceuticals. They learn the principle, performance evaluation and management for new measurement systems such as gamma camera, PET system, SPECT system, PET / CT system.

## 放射線治療物理学講義 大野 由美子

Physics in Radiation Therapy

放射線治療における物理的性質を理解することを目指す。まず吸収線量に関する物理量についての定義について説明する。様々な条件によって変わる線量分布の変化について，その物理的な原因を含めて理解することを目指す。

Students learn the physical properties in radiotherapy. The definition of the physical quantity related to the absorbed dose is lectured. Students can understand the change of dose distribution which varies depending on various conditions, including its physical cause.

## 基礎腫瘍学 武田 茂樹

Basic Oncology

がんとはどんな病気なのか，どのような研究や治療が行われているのか，についての概略を学ぶ。がん治療における放射線療法の特徴の理解に繋げる。

Outline of the feature of cancer, cancer research, and cancer treatment will be discussed. These studies will lead to understanding of characteristics of beam radiation therapy for cancer.

## 放射線生物学 武田 茂樹

Radiation Biology

臓器ごとのがんの特徴について理解することを含めて，がんの標準的な治療方法を紹介する。それに加えて放射線が与える細胞，組織，臓器への影響を解説し，放射線療法の特徴の理解に繋げる。

This lecture will introduce cancer standard treatment methods, including understanding of cancer characteristics of each organ. In addition, the effects of radiation on the cells, tissues and organs will be discussed to understand the characteristics of radiation therapy.

## 8. 理工学府課程表・講義要目（博士後期課程）〈別表第2〉

物質・生命理工学領域

プログラム ・科目区分	授 業 科 目	担当教員	単 位 数	週授業時間数		備 考
				1年～3年次		
				前	後	
学府共通専門科目	理工学専攻リサーチプロポーザル	全 教 員	1			【修了要件】学府共通専門科目、学府開放専門科目、全ての領域の領域専門科目の中から、16単位以上修得すること。 ・理工学専攻リサーチプロポーザル、国際インターンシップ、理工学研究特別実験、理工学研究特別演習及び研究人材就業力養成基礎は必修とする。 ただし、留学生においては国際インターンシップ及び研究人材就業力養成基礎を、社会人においては理工学専攻リサーチプロポーザル、国際インターンシップ及び研究人材就業力養成基礎を選択科目とする。 ・重粒子線理工学グローバルリーダー養成プログラム（重粒子線理工学連携コース）在籍者は、リーディング専門分野技術実習科目3単位を履修すること。 リーディング理工学連携科目（学府開放専門科目及び全領域の領域専門科目中の（★）科目）から2単位以上履修すること。 リーディング理工学連携科目は上記【修了要件】の修得単位に含むことができる。 博士後期課程から重粒子線理工学グローバルリーダー養成プログラム（重粒子線理工学連携コース）に入学した者は、博士前期課程開講リーディングコース科目理工学共通科目群の生命倫理と法的規制、関連法規・医療倫理あるいは研究倫理から1単位以上修得すること。
	国際インターンシップ	全 教 員	1			
	上級長期インターンシップ	全 教 員	2			
	研究人材就業力養成基礎	本 島 他 他	2	2		
	実践アントレプレナーシップ	本 島 他 他	1	1		
	実践研究リーダーシップ	本 島 他 他	1	1		
	実践グローバル研究	本 島 他 他	1	1		
	理工学特論Ⅰ	各 教 員	2			
	理工学特論Ⅱ	各 教 員	2			
	理工学特論Ⅲ	各 教 員	2			
	理工学特論Ⅳ	各 教 員	2			
	日本語中級Ⅰ	各 渡 和 和	1	1		
	日本語中級Ⅱ	大 大 大 大	1		1	
	日本語上級Ⅰ	大 大 大 大	1	1		
	日本語上級Ⅱ	大 大 大 大	1		1	
理工学研究特別演習	全 全 全 全	2				
理工学研究特別実験	全 全 全 全	6				
学府開放専門科目	医工連携先端荷電ビーム特論（★）	曾 根	2		2	
	医工連携放射線制御・計測特論（★）	櫻 井	2	2		
	医工連携先進イオンビーム応用工学特論（★）	花 泉・三浦	2		2	
	医工連携システムと制御工学特論（★）	山 田（功）	2		2	
	医用画像基礎原理特論	花 屋	2		2	
生命理工学領域 領域専門科目	光化学特論	未 定	2		2	
	分子化学特論	奥 津	2		2	
	分光分析化学特論	佐 藤（記）	2	2		
	錯体化学特論	村 岡	2	2		
	有機化学特論	海 野	2	2		
	有機触媒化学特論	網 井	2		2	
	有機物性化学特論	花 屋・藤 沢	2	2		
	システム材料化学特論	上 原	2	2		
	光機能有機材料特論	中 村	2		2	
	有機金属材料化学特論	未 浅	2		2	
	界面物性工学特論	武 田（茂）	2	2		
	複合体機能工学特論（★）	柏 谷	2		2	
	高分子物性工学特論	井 園	2	2		
	生体関連化学特論	松 上	2		2	
	生体機能化学特論	松 尾	2	2		
	計算化学特論	未 定	2		2	
	バイオナノプロセス工学特論	未 定	2		2	
	生体機能構造物性学特論	未 定	2		2	
	生体物質化学特論	尾 崎（広）	2		2	
	生体分子計測学特論	高 橋（浩）	2		2	
	複合体物性工学特論	高 本（隆）	2		2	
	無機光化学特論	浅 野	2		2	
ナノ材料電極化学特論	白 石（壮）	2	2			
酸化物材料科学特論	京 免	2	2			
高分解能分光計測学特論	住 吉	2	2			
リーディング専門分野技術実習科目	他分野研究実習	プログラム担当教員	2			
	研究発表討論セミナー	プログラム担当教員	1			

物質・生命(博)



## [領域専門科目]

### 光 化 学 特 論 未 定

Photochemistry, Advanced Course

光化学の基礎概念と実験技術の理解を基礎にして、フェムト秒レーザー分光法を用いた超高速反応の研究、有機ELディスプレイの研究開発状況、発光プローブを用いた分子イメージング技術の最近の進歩等について講述する。

Fundamental aspects of theoretical photochemistry and experimental techniques in photochemistry are briefly described. Based on this knowledge, current topics on photochemistry exemplified by femtosecond laser spectroscopy, organic electroluminescence techniques, molecular imaging technology using luminescent probes will be introduced.

### 分 子 化 学 特 論 奥津 哲夫

Molecular Chemistry, Advanced Course

結晶成長学の基礎的概念を講述し、金属結晶の成長、分子結晶の成長、気体の凝縮等について熱力学および動力学的に論じる。結晶成長における核形成過程と成長過程の特徴を理解することを目的とする。特にタンパク質の結晶育成について解説する。

The aim of this lecture is to study fundamental of crystal growth. Understanding of crystal growth is explained from the aspect of thermodynamics and kinetics.

### 分 光 分 析 化 学 特 論 佐藤 記一

Special Topics in Analytical Spectroscopy

近年発展が著しいマイクロ分析化学について概説する。化学プロセスをマイクロ化する意義とその特長を活かした分析法について説明し、特にイムノアッセイや細胞を用いたバイオアッセイシステムの開発について詳細に解説する。また、その応用としてのマイクロ臓器モデルの開発について最新の事例と将来展望について講義する。

This course provides an overview of microanalytical chemistry, a field that has been developing rapidly in recent years. The significance of microanalytical chemistry and its application to chemical processes will be explained. In particular, the development of immunoassays and cell-based bioassay systems will be explained in detail, and the latest examples and future prospects for the development of Organ-on-a-Chip systems as an application of these systems will be discussed.

### 錯 体 化 学 特 論 村岡 貴子

Special Topics on Coordination Chemistry

最近、有機金属化学の発展系として、炭素以外の典型元素と遷移金属との間に結合を有する化合物群が注目され、無機金属化学として盛んに研究されている。本講義では、無機金属化合物の概念、基礎および応用と最近のトピックスについて議論し、無機金属化学の理解を図る。

Chemistry of inorganometallic compounds, i.e., transition metal complexes with metal-non

carbon covalent bonds, have been developed rapidly. In this course, we will discuss the basics and applications of the inorganometallic compounds as well as recent topics in this field.

### 有機化学特論 海野 雅史

#### Special Topics in Organic Chemistry

ヘテロ原子を含む有機化合物を題材として、有機合成のプランニングと実施、構造決定の方法、最近のトピックスについて詳しく述べるとともに、有機化学の分野で研究を行っていくために必要なことを中心に講義する。

This course provides the research planning and methods of organic chemistry. Based on the organic heteroatom compounds, synthesis, structure determination, and recent topics are summarized. Additionally, how to carry out research in the field of organic chemistry is also described.

### 有機触媒化学特論 網井 秀樹

#### Special Topics in Catalytic Organic Transformations

有機合成における新手法の開発について講義する。特に、分子触媒（遷移金属触媒や有機分子触媒）の飛躍的發展について、最近の高選択的触媒反応の実例を紹介しながら講述する。

This course overviews the development of new methodologies for organic synthesis. In particular, the recent remarkable progress of highly selective transformations using catalysts, such as transition metal complexes and organic molecules will be presented.

### 無機物性化学特論 花屋 実・藤沢 潤一

#### Special Topics in Inorganic Materials Chemistry

無機材料の微視的構造と物性との相関について、イオン伝導ガラスやダイポールガラスなどの具体例をあげて解説する。さらに、ナノスケール構造制御に基づく物性制御の可能性について解説し、物性化学の見地から無機材料を設計するための考え方を身に付ける。

The correlations are explained between the microscopic structure and the physical property of inorganic materials, and the possibility is discussed of the physical-property control based on the nano-structure construction.

### システム材料化学特論 上原 宏樹

#### Special Topics in Systematization of Materials

高分子らしさの基となる分子鎖絡み合いが、高分子の結晶化や成形品物性にどのような影響を与えるのかを概説する。特に、インプロセス計測法や超延伸技術によって培った独自の視点で、結晶相を反映したエンタルピー的側面と非晶相に起因するエントロピー的側面を対比させながら解説する。

This course describes effects of molecular entanglements, which are characteristic of polymeric chains, on polymer crystallization and physical properties. Based on the original viewpoints obtained from in-process analysis and super-drawing technology, both of enthalpy aspect for polymer crystals

and entropic aspect for amorphous chains are compared.

### 光機能有機材料特論 中村 洋介

#### Advanced Photo-Functional Organic Materials

光機能性を有する有機物質や高分子について、物質科学の立場から講述する。特に、フラーレンやシクロファンをはじめとする $\pi$ 共役系化合物の物性と応用について論じる。さらに、光機能性が関連する超分子化学についても議論する。

This course provides the recent topics on advanced organic photo-functional materials, especially the properties and application of  $\pi$ -conjugated such as fullerene and cyclophanes. This course also includes the photo-functional supramolecular chemistry.

### 有機金属材料化学特論 未定

#### Advanced Chemistry of Organometallic Materials

有機金属化合物の光電子材料（発光材料、液晶、色素、磁性体、伝導体、絶縁体など）への応用について、最近のトピックスを説明する。

This course provides recent topics on the application of organometallic compounds to optoelectronics materials, including light-emitting materials, liquid crystals, dyes, magnetic materials, conductive and non-conductive materials, etc.

### 界面物性工学特論 浅川 直紀

#### Advanced Interface Science and Technology

有機・高分子電子デバイスの物性・機能を理解するために、有機・高分子半導体薄膜と金属や無機物質との界面で起こる特徴的な現象や物性に関する最近のトピックスを説明する。さらに、有機薄膜の乱れた構造や高分子薄膜の不均一構造に着目し、物性との関係について議論する。

This course provides recent topics concerning various phenomena and physical properties observed on interfaces between organic semiconductors and the other materials such as metals or insulators, which are related to organic electronic devices. Furthermore, the correlation between physical properties and disordered or inhomogeneous structure of organic / polymer thin films is discussed.

### 複合体機能工学特論 武田 茂樹

#### Molecular Assembly: Introduction and Applications

ナノスケールの分子複合体に関する化学構造と物理機構について解説する。構造決定方法、単分子解析、高次構造体の分子設計について議論する。

This course is for understanding chemical structure and physical mechanisms of nano-scale molecular complex. Structure determination, single molecular manipulation, and structure design for high-ordered structure will be discussed.

## 高分子物性工学特論 粕谷 健一

Advanced Engineering of Polymer Materials

高分子の構造と生分解性との関係について後述する。また、生分解性高分子の最新のトピックスを紹介する。

This course provides recent findings for relationship between structure of polymer and its biodegradability. Latest studies on biodegradable materials will be also introduced.

## 生体関連化学特論 井上 裕介

Chemical Biology, Advanced Course

生体分子として最も基本となる核酸について、その化学構造と機能の相関について解説するとともに、構造の一部を化学的に改変することによって、新たな薬剤としての応用も含めた化学的、生物学的機能を付与する最近の研究例などについて解説する。

The aim of this lecture is to understand the relationship of structure and function about nucleic acids, the most fundamental chemical substance for life. The recent topics about chemically modified nucleic acid analogs and their chemical and biological features including the application as a drug are also discussed.

## 生体機能化学特論 園山 正史

Biomolecular Science, Advanced Course

生命科学と情報科学の融合分野であるバイオインフォマティクスの考え方や方法について講義する。具体的には、学部の生化学、生物物理学を基礎として、バイオインフォマティクス誕生の背景、アミノ酸配列情報に基づくタンパク質の構造・機能の予測法を講述する。

The aim of this study is to understand concept and methodology of bioinformatics. The topics in this course will be introduced as follows; birth of the discipline, amino acid sequence analysis, prediction method for structure and function of proteins.

## 生体材料化学特論 松尾 一郎

Special Topics in Biomaterials

生体材料に関して具体的な例を挙げて概説する。特に機能性生体材料の構造と機能の関連について化学的視点により解説する。

The focus of this course is the structure-function relationships of biomaterial, and related topics in biomaterial synthesis and characterization. Recent topics of chemicalbiology will be also introduced.

## 計 算 化 学 特 論 未 定

Computational Chemistry, Advanced Course

量子化学特論で学んだHF法、電子相関を含む方法、密度汎関数法など様々な電子状態理論をそれぞれの研究における問題に正しく応用出来る事を目標とする。そのため、具体的な応用例を詳しく解説し、

最新の理論化学の動向についても紹介する。

The aim of this lecture is to learn a method to apply the electronic structure theories every issue of study appropriately. This course provides a brief review of electronic structure theories, some examples of application and the recent trends of theoretical- and computational chemistry.

### バイオナノプロセス工学特論 未定

Nanoprocessing Engineering in Biological Systems

タンパク質のナノ構造での特異的相互作用に基づく種々の調節，制御メカニズムについて解説する。これを通して，複雑な生命活動の各段階を「プロセス」として理解し，そのプロセス間にどのような支配や制御がなされているかを理解する。

Discuss about various controlling and regulating mechanisms working in biological systems. Since these mechanisms are based on specific interactions among various proteins, in this course, each step of complicated activities of life will be understood as “nanoprocessing” and discuss about systems controlling each nanoprocess. For example, a bacterium is a such nano-system which constitute complicated processes for its life. We will focus on a bacterial system for explanation of functions and mechanisms of nanoprocessing in biological systems and discuss about possible applications.

### 生体機能構造物性学特論 未定

Structural Physics of Biological Functions, Advanced Course

生体高分子の構造と機能の生物物理学的な理解は，生命科学・工学の基礎となっている。中でも，量子ビーム（中性子線，放射光 X 線）を用いた静的および動的な構造の研究手法は，現在，様々な物質・材料系のナノスケールでの機能構造解明にとって極めて有効な手法となっている。それらの研究手法について，物理的な原理，利用法の概略を学ぶ。生命科学分野での具体的な研究例を取り上げ，理解を深める。

Biophysical understanding of the structure and function of biological macromolecules are the basis of biological science and engineering. In particular, the current methods for studying static and dynamic structures using quantum beam (neutron, synchrotron radiation X-ray) have become very effective techniques to elucidate functional properties of various materials and substances in nano-scale. Learn an overview of these methods on the physical principles and on the usage. In order to attain better understand of these methods, this lecture will pick up some research topics in the field of life science.

### 生体物質化学特論 尾崎 広明

Special Topics in Biological Molecules

本講義では生体内で重要な働きをしている核酸分子について論じる。特に遺伝子の発現制御に関する分子と，その作用に基づく人工分子の設計と合成，応用について最近のトピックを説明する。

This course provides recent topics of nucleic acid chemistry, especially recent topics on the design, syntheses and applications of the modified nucleic acids, which regulate gene expressions.

## 生体分子計測学特論 高橋 浩

### Advanced Techniques in Molecular Biophysics

現代科学は、生命を、情報、機械、エネルギーの観点から解明しようとしている。本講義では、生体分子、すなわち、「分子機械」の構造と仕組みを解き明かすために、開発された生体分子構造の決定方法や生体分子のエネルギー変換・利用メカニズムを解析する生物物理的計測手法の理論と実際的な実験方法について講義する。

In modern molecular biology, "life" is believed to be understood in terms of information, machine and energy. This course provides an overview of the theory and practical methods of biophysical measurements on biomolecules, i.e., "molecular machines". The main topics are the structural determination of biomolecules and the techniques for energy analysis of biomolecules and biomolecular assembly systems.

## 複合体物性工学特論 山本 隆夫

### Statistical Physics of Composite Materials

複数の相よりなる系、たとえば、固体—気体系、濃厚相溶液—希薄相溶液系等の静的、動的物性について統計力学に基づき講義する。

Statistical mechanics and kinematics of many-phase systems such as solid-gas system and phase-separated solution are discussed. An idea to understand many-phase systems by focusing "interface" is provided.

## 無機光化学特論 浅野 素子

### Inorganic Photochemistry, Advanced Course

光吸収・発光の基礎原理と励起状態の動力学を解説し、金属錯体を含む配位化合物の励起状態の性質・緩和過程と種々の電子移動・エネルギー移動などの動的過程を電子構造に基づいて、講義する。さらに最近の研究例や応用への展開について解説する。

This course describes photochemistry and photophysics of coordination compounds in relation to their electronic structure. In particular, excited-state dynamics involving energy and electron transfer is discussed. Current topics on application of the photo-excited state of coordination compounds is also included.

## ナノ材料電極化学特論 白石 壮志

### Advanced Electrochemistry on Nanomaterials

本講義では、ナノ材料の一つである炭素ナノ材料に注目して、ナノ材料の形状、結晶構造、細孔構造、化学組成が電気化学的な性質に与える影響について説明する。特に炭素ナノ細孔体・カーボンナノチューブ・グラフェンのキャパシタや二次電池といった蓄電デバイスへの応用例ならびに評価技術を中心に講義する。

This lecture gives an over view of influence of morphology, crystal structure, pore structure, or, chemical composition on electrochemical properties for nanomaterials such as nanocarbons.

Especially, the evaluation technique and the application example as electrode of rechargeable battery and electrochemical capacitor are introduced for nanoporous carbon, carbon nanotube, and graphene related materials.

## 酸化物材料科学特論 京免 徹

### Special Topics in Oxide Materials

酸化物強誘電体, 酸化物磁性体, 酸化物透明導電体, 酸化物蛍光体などの金属酸化物材料を取り上げ, その合成方法と単結晶や薄膜等の作製方法, 結晶構造や焼結体における二次構造, 電子構造について講義する。さらに, それぞれの材料の機能がその材料のどのような特徴によって発現するかについて講義する。

This course provides crystal structures, secondary structure, and electric structures of oxide materials such as ferroelectric, ferromagnetic, transparent conductor, and phosphors and their relation to the functions of the materials. In addition, the preparation methods of their single crystal, ceramics, thin films, and nanoparticles are provided.

## 高分解能分光計測学特論 住吉 吉英

### High-resolution Molecular Spectroscopy, Advanced Course

赤外レーザーやマイクロ波を光源とする高分解能分子分光計測に関する基礎理論を講義する。分子構造決定や分子間相互作用研究への応用例として, マイクロ波分光研究を中心に, 最近の研究成果について解説する。

Basic theory on high-resolution molecular spectroscopy with coherent light sources in the infrared and microwave regions is lectured. Recent studies on the determination of precise molecular structures and intermolecular interactions using the technique are provided.

知能機械創製理工学領域

プログラム ・科目区分	授 業 科 目	担当教員	単 位 数	週授業時間数		備 考
				1年～3年次		
				前	後	
学府共通専門科目	理工学専攻リサーチプロポーザル	全 教 員	1			【修了要件】学府共通専門科目、学府開放専門科目、全ての領域の領域専門科目の中から、16単位以上修得すること。 ・理工学専攻リサーチプロポーザル、国際インターンシップ、理工学研究特別実験、理工学研究特別演習及び研究人材就業力養成基礎は必修とする。 ただし、留学生においては国際インターンシップ及び研究人材就業力養成基礎を、社会人においては理工学専攻リサーチプロポーザル、国際インターンシップ及び研究人材就業力養成基礎を選択科目とする。 ・重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム（重粒子線医理工学連携コース）在籍者は、リーディング専門分野技術実習科目3単位を履修すること。 リーディング医理工学連携科目（学府開放専門科目及び全領域の領域専門科目中の（★）科目）から2単位以上履修すること。 リーディング医理工学連携科目は上記【修了要件】の修得単位に含むことができる。 博士後期課程から重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム（重粒子線医理工学連携コース）に入学した者は、博士前期課程開講リーディングコース科目医理工共通科目群の生命倫理と法的規制、関連法規・医療倫理あるいは研究倫理から1単位以上修得すること。
	国際インターンシップ	全 教 員	1			
	上級長期インターンシップ	全 教 員	2			
	研究人材就業力養成基礎	本 島 他	2	2		
	実践アントレプレナーシップ特論	本 島 他	1	1		
	実践研究リーダーシップ特論	本 島 他	1	1		
	実践グローバル研究特論	本 島 他	1	1		
	理工学特論Ⅰ	各 教 員	2			
	理工学特論Ⅱ	各 教 員	2			
	理工学特論Ⅲ	各 教 員	2			
	理工学特論Ⅳ	各 教 員	2			
	日本語中級Ⅰ	大 渡 邊	1	1		
	日本語中級Ⅱ	大 渡 和	1		1	
	日本語上級Ⅰ	大 渡 和	1	1		
日本語上級Ⅱ	大 渡 邊	1		1		
理工学研究特別演習	全 教 員	2				
理工学研究特別実験	全 教 員	6				
学府開放専門科目	医工連携先端荷電ビーム特論（★）	曾 根	2		2	
	医工連携放射線制御・計測特論（★）	櫻 井	2	2		
	医工連携先進イオンビーム応用工学特論（★）	花 泉・三浦	2		2	
	医用画像基礎原理特論	花 屋	2			
領域専門科目	熱流体力学特論	天 谷	2	2		
	エネルギーシステム特論	古 畑	2		2	
	エネルギー計測学特論	石 間	2		2	
	構造強度学特論	未 定	2			
	材料システム特論	未 定	2	2		
	先端加工学特論	林 司	2		2	
	先端材料加工プロセス特論	半 谷	2	2		
	構造のダイナミクス特論（★）	山 口	2	2		
	計測学特論	藤 井	2		2	
	医工連携システムと制御工学特論（★）	山 田（功）	2		2	
	計算機工学特論	田 中（勇）	2		2	
	マイクロナノ工学特論	鈴 木（孝）	2		2	
	構造と振動騒音予測工学特論	未 定	2			
	熱流体シミュレーション特論	金 子	2		2	
	モデルベースデザイン特論	荒 木	2		2	
	マンマシンインタフェース特論	中 沢	2		2	
	非線形系のダイナミクス特論	丸 山	2	2		
	知能・制御のための数理	山 田（功）	2	2		
	データサイエンス特論	山 田（功）	1			
	研究発表討論セミナーⅠ	山 田（功）	1			
	研究発表討論セミナーⅡ	山 田（功）	1			
	研究発表討論セミナーⅢ	山 田（功）	1			
研究発表討論セミナーⅣ	山 田（功）	1				
研究発表討論セミナーⅤ	山 田（功）	1				
研究発表討論セミナーⅥ	山 田（功）	1				
リーダーシップ特論Ⅰ	Mai Thi Nghia	2		2		
リーダーシップ特論Ⅱ	Mai Thi Nghia	2	2			
リーディング専門分野技術実習科目	他分野研究実習	プログラム担当教員	2			
	研究発表討論セミナー	プログラム担当教員	1			

知能機械(博)



## [領域専門科目]

### 熱 流 体 力 学 特 論 天谷 賢児

#### Advanced Course of Thermo-Fluid Dynamics

熱流体力学に関連した、多成分多相系の熱流体力学に関する話題を解説する。特に、混相流動現象を取り扱うための一般的な基礎理論を展開し、多成分多相系の質量、運動量、エネルギーに関する保存方程式や、保存方程式系を補完するために必要な各種構成方程式を導出する。

The purpose of this course is to provide an understanding of the general theory of multi-component and multiphase flows. Derivation of conservation equations for mass, momentum, and energy of two-phase flows and derivation of constitutive equations for the conservation equations will be introduced.

### エ ネ ル ギ ー シ ス テ ム 特 論 古畑 朋彦

#### Advanced Energy System

エネルギーシステムを科学として扱い、エネルギーシステムと社会、エネルギー経済との関連、トータルシステム、省エネルギー、輸送・貯蔵と安全性を工学的立場より講義する。

Treating energy systems as science, lectures on the relationship between energy systems and society, energy economy, total systems, energy conservation, transport/storage and safety from an engineering standpoint.

### エ ネ ル ギ ー 計 測 学 特 論 石間 経章

#### Advanced Measurement and Instrumentation on Energy System

レーザ応用計測法を中心とした光学的手法を用いて、燃焼場における流体の温度、成分・濃度、粒子の大きさと数および速度の計測について、原理、信号処理、データ処理などについて講義する。

Application of optical diagnostic techniques mainly using laser on combustion phenomenon will be discussed. Measuring objects are temperature, pressure, element and its concentration and velocity of the fluid, and also size, number and velocity of the particles in the combustion field. Principle, signal detecting and data processing of the techniques are introduced with application examples.

### 構 造 強 度 学 特 論 未定

#### Advanced Strength on Structures

延性破壊を解析する上で重要となる弾塑性破壊力学について、J-R法やR6法の解説を中心に講述する。破壊力学が適用できないき裂構造物の破壊を評価する塑性崩壊概念についても解説する。

Give an overview of elastic plastic fracture mechanics important for analyzing ductile fracture mainly about explanation of J-R analysis and R6 method.

Give an explanation of plastic collapse concept applied to fracture analysis of cracked structures.

## 材 料 シ ス テ ム 特 論 庄司 郁夫

Advanced Metallurgy and Alloy Design

金属材料の機械的性質を支配するナノ・マイクロ組織の制御方法及び先端分析機器を用いた評価解析方法を理解することを目的とする。金属材料の強度、靱性、高温特性、低温特性、耐食性、その他の機能に関する概要を述べ、様々な用途に対応する合金設計の考え方を金属組織学に基づいて講述する。

This lecture reviews the control methods of microstructures of structural and functional materials and the analysis methods of environmental degradation of materials with the latest analysis systems. It also covers the problems of materials from a viewpoint of resources, energy and environment.

## 先 端 加 工 学 特 論 林 偉民

Frontier of Manufacturing Science, Advanced Course

先端加工技術を体系的に理解し、除去加工、付加工、成形加工を含む生産加工分野における国内外の最先端技術動向について講述する。

This course covers current topics in frontier of manufacturing science include the removal machining, the additive manufacturing and the deformation processing fields.

## 先 端 材 料 加 工 プ ロ セ ス 特 論 半谷 禎彦

Theory of Advanced Metal Forming Process

金属成形における先端材料加工プロセスの理論と加工プロセスおよびその性能の関係について講述する。基本的な塑性理論に基づいた先端的な金属材料成形加工法と大変形プロセスについて講義する。この講義では、先端的な軽量化技術について焦点が当てられ、先端的な金属材料成形の特徴やおよびその加工法が製造業に果たす役割について、材料科学と成形プロセスの実用化の観点から論じられる。

This course provides the theory of advanced metal forming process and the relationship between processing and performance. Topics include advanced processing of metal, a large deformation processing in advanced metal forming based on the fundamental theory of plasticity. In the course, advanced weight reduction approach has been focused. Characteristic features of the advanced metal forming process and their roles in manufacturing industries are also discussed from the viewpoint of materials science and practical use of the advanced metal forming process.

## 構 造 の ダイ ナ ミ ッ ク ス 特 論 山口 誉夫

Advanced Dynamics of Structures

機械構造の動特性（線形・非線形挙動）について講述する。基礎式である非線形連立微分方程式の数値解析法、入力大きさによる挙動の変化を示す。非線形共振、カオス振動を説明する。複雑な応答を抑制するための減衰設計法（制振材のヒステリシス減衰付加、多孔質材の粘性減衰付加）と数値解析法を示す。

Linear/nonlinear dynamic problems for mechanical structures are explained. Numerical analysis methods for nonlinear simultaneous differential equations as basic equations of the problems are given. And transitions of the dynamic behaviors according to magnitude of input force are discussed.

Nonlinear resonances and chaotic oscillation are explained. To adjust the responses, damping design methods are provided.

## 計 測 学 特 論 藤井 雄作

Instrumentation and Measurement, Advanced Course

計測工学について、深い理解と、それに裏打ちされた応用力を養うことを目指す。まず、物理量の計測で基本となる、国際単位系の仕組み、各単位の標準、各種計測器・センサの校正方法、計測値の不確かさ評価方法について、深く学ぶ。次に、先端分野として、力センサの動的校正法、宇宙ステーションでの質量計測法、などの機械物理計測を例にとり、それらの改良案を考えることを通して、実践的な応用力をつけることを目指す。

The aim of this lecture is to give the deep knowledge and the clear understanding on the instrumentation and measurement. Firstly, the fundamentals of the measurement, such as the International System of Units, the measurement standards, calibration of sensors and the measurement uncertainty, are discussed. Secondly, the advanced applications, such as dynamic calibration of force sensors, BMMD (Body Mass Measurement Device) for use in the International Space Station, are discussed to improve the practical ability needed for the engineers and the researchers.

## 医工連携システムと制御工学特論 山田 功

Advanced Engineering on System and Control for Cooperation of Medicine and Engineering, Advanced Course

システム工学、システムの制御工学について講述する。基礎理論を中心に述べる。①システムの安全性、②プロパー安定有理関数行列を用いた制御系設計法、③不確かなシステムに対する制御について解説する。

This lecture gives an over view of system engineering and control engineering. Broad area from fundamental theory to applications of these engineering are included. Especially, we introduce ① safety of the system ② design methods of control systems using proper stable rational function matrices ③ controller design for uncertain systems.

## 計 算 機 工 学 特 論 田中 勇樹

Advanced Computer Organization

算術演算アルゴリズムについて講義する。非慣用の負の基数数系や冗長な数系（符号付け数系）に関する性質を理解する。並列な算術演算を実現できる数系を用いた加減算、乗算除算と開平方演算アルゴリズムおよび剰余演算の暗号化処理システムについて勉強する。

The aim of this lecture is to understand the computer arithmetic algorithms, based on fundamentals of computer and computer hardware. The topics will be introduced as follows: number systems, parallel computing, and arithmetic circuits in parallel.

## マイクロナノ工学特論 鈴木 孝明

Advanced Micro-Nano Science and Technology

マイクロ・ナノメートル領域の代表寸法を持つ材料、加工、運動、制御等を対象とする工学技術とその多岐に広がる応用について講述する。ヒトが自在に扱える人工物の最小寸法は、マイクロメートルからナノメートル領域へと微細化し、エネルギー・情報・バイオ・メディカルなど、成長・拡大が期待される基幹技術になりつつある。本講義では、材料からシステム構築に至る過程に存在するマイクロスケール、ナノスケールの現象を理解するとともに、それらを工学的に制御する方法と、その応用システムの動向について解説する。

In recent years, engineering and science in a small-size domain on the order of micrometer- and nanometer-ranges have globally emerged and are in a rapid growth. The micro-nano technologies are the main driving force for creating innovative devices/systems in areas such as energy, information, bio, and medical applications. This lecture reviews microscale and nanoscale phenomena existing in the process from materials to system construction, and gives an overview of engineering methods for controlling these phenomena and the trend of these applications.

## 構造と振動騒音予測工学特論 未定

Advanced Engineering of Structure and Noise and Vibration Prediction

実社会で物を作る上で構造上どのような振動騒音現象が問題となっているかを説明し、課題を認識する。次にそれらの課題を解決するために必要な技術とそれを支える基礎学問について具体例を示しながら解説する。解析解と数値解析を平行して講義し、さらに実際のシミュレーションソフトを使った振動シミュレーションの体験も行う。

The noise and vibration problems in industrial world are explained and recognized. Then the required technic and fundamental science to solve these problems are discussed. The both of analytical solution and numerical analysis are lectured. Furthermore students experience the calculation of vibration using simulation software.

## 熱流体シミュレーション特論 金子 誠

Computer Thermal Flow Simulation, Advanced Course

実際の産業機器を対象にした熱流体シミュレーションを実施する。特に、乱流場における数値解析上の問題点や誤差要因を分析し、これらの課題を解決するための方策について講義する。

This lecture aims to conduct thermo-fluid computer simulations that target the actual industrial equipment. This lecture gives the problems and error sources in the numerical simulation in the turbulent flows and gives methods to solve these problems.

## モデルベースデザイン特論 荒木 幹也

Advanced Course of Model Based Design

Industry4.0の中核をなすモデルベースデザイン・モデルベース開発について理解を深める。とくに極超音速航空機・ナノ超微粒子生成・新エネルギーキャリアといったこれからのエネルギー環境分野に

おけるモデルベースデザイン適用事例の成果と課題について横断的な知識を身に着け、同時にいくつかの事例について具体例をあげながら理解を深めていく。

The aim of this course is to understand the concept of model based design/ model based development, which is the key part of Industry4.0. We will review several applications of model based design in the field of energy and environment and will focus on some particular cases, e.g., hypersonic transport, nanometer-sized ultrafine particles, and new energy carriers.

### マンマシンインタフェース特論 中沢 信明

#### Advanced Man-Machine Interface

人間と機械をつなぐ先端的なマンマシンインタフェースについて解説するとともに、円滑なインタラクションを支援するための各種センサならびに画像処理による人間情報のセンシング技術について講述する。

This lecture reviews advanced man-machine interface to connect humans and machines, various sensors to support smooth interaction, and human sensing technology by image processing.

### 非線形系のダイナミクス特論 丸山 真一

#### Advanced Dynamics of Nonlinear Systems

機械・構造物の高度な動的解析方法の修得を目的として、非線形系における自励振動および係数励振振動、多モード間の連成非線形現象・内部共振、電磁力関連や流体との連成系における非線形動的現象、分岐とカオス振動について解説する。

This course provides analytical method on dynamics of machines and structures. It gives self-excited vibrations and parametric excitation in nonlinear systems, coupled nonlinear phenomena in multiple degree-of-freedom system and internal resonance, nonlinear phenomena in electromagnetic induced vibrations and fluid-solid interactions, bifurcations and chaotic vibrations.

### 知能・制御のための数理データサイエンス特論 山田 功

#### Advanced Course of Mathematical Data Science for Artificial Intelligence and Control

データサイエンスの技術発達は自然科学の広範な分野のアプローチに影響を及ぼしており、特に知能・制御分野においては、学習や認識の機能を備えたより知的な制御システムの構築に期待が寄せられている。本講では、システム制御の近接分野に焦点を当てながら、データサイエンスの代表的手法である機械学習、フィルタリングについて講述する。データサイエンスと知能・制御の手法を合わせて学ぶことで分野横断的な学識を深める。

The development of data science technology affects approaches to a wide range of natural sciences, and it is expected that a more intelligent control system with learning and recognition functions will be established, especially in the field of intelligence and control. In this course, we will give lectures on machine learning and filtering, which are representative methods of data science, while focusing on areas close to system control. Deepen cross-disciplinary learning by learning the combination of data science and intelligence and control techniques.

## 研究発表討論セミナー I ～ VI 山田 功

### Seminar for Research Presentation and Discussion I-VI

各大学院生が、自ら行っている研究課題についての口頭発表を行う。各指導教員の指導のもとに、研究成果のまとめ、文献的考察、位置付けを行い、学会発表形式で口演を行う。発表は、すべての同学年の大学院生及び関係する指導教員による分析・検証を受け、問題点を明らかにし、お互いにその解決方法を探る。口演発表後は、自らの研究課題に関する問題点の整理やその解決法、並びに今後の研究の展望についてのレポートを提出する。この発表により、大学院生は相互理解を深め、研究成果活用方法について視野を広げ、新たな興味を喚起することが可能となる。

Graduate students will give an oral or poster presentation on their research topic. Under the guidance of advisors, they will summarize their research results, examine the literature, position them, and give an oral presentation in the form of a conference presentation. Graduate students of all grades and related academic advisors will evaluate the individual research presentations, clarify problems, and discuss solutions for further improvement with each other. After the presentation, students are required to submit a report on the issues related to their own research topic, their solutions, and the prospects for future research. Through this presentation, graduate students are expected to deepen mutual understanding, broaden their perspectives on utilizing research results, and arouse new interests.

## リーダーシップ特論 I Mai Thi Nghia

### Advanced Course of Leadership I

国費外国人留学生の優先配置を行う知能・制御のための特別プログラムに参加する大学院生が、社会から求められるリーダーシップとは何か、リーダーシップを取るとはどのようなことが、実社会でリーダーを務めている講師から学ぶ。

Graduate students participating in a special program for intelligence and control that prioritizes placement of government-sponsored international students will discuss what kind of leadership is required by society, what it means to take leadership, and what it means to be a leader in the real world. Learn from a teacher who is working in the actual society.

## リーダーシップ特論 II Mai Thi Nghia

### Advanced Course of Leadership II

国費外国人留学生の優先配置を行う知能・制御のための特別プログラムに参加する大学院生が、社会から求められるリーダーシップとは何か、リーダーシップを取るとはどのようなことが、実社会でリーダーを務めている講師から学ぶ。

Graduate students participating in a special program for intelligence and control that prioritizes placement of government-sponsored international students will discuss what kind of leadership is required by society, what it means to take leadership, and what it means to be a leader in the real world. Learn from a teacher who is working in the actual society.



環境創生理工学領域

プログラム ・科目区分	授 業 科 目	担当教員	単 位 数	週授業時間数		備 考	
				1年～3年次			
				前	後		
環 境 創 生 理 工 学 領 域	学府共通専門科目	理工学専攻リサーチプロポーザル	全 教 員	1			【修了要件】学府共通専門科目、学府開放専門科目、全ての領域の領域専門科目の中から、16単位以上修得すること。 ・理工学専攻リサーチプロポーザル、国際インターンシップ、理工学研究特別実験、理工学研究特別演習及び研究人材就業力養成基礎は必修とする。 ただし、留学生においては国際インターンシップ及び研究人材就業力養成基礎を、社会人においては理工学専攻リサーチプロポーザル、国際インターンシップ及び研究人材就業力養成基礎を選択科目とする。 ・重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム（重粒子線医理工連携コース）在籍者は、リーディング専門分野技術実習科目3単位を履修すること。 リーディング医理工連携科目（学府開放専門科目及び全領域の領域専門科目中の（★）科目）から2単位以上履修すること。 リーディング医理工連携科目は上記【修了要件】の修得単位に含むことができる。 博士後期課程から重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム（重粒子線医理工連携コース）に入学した者は、博士前期課程開講リーディングコース科目医理工共通科目群の生命倫理と法的規制、関連法規・医療倫理あるいは研究倫理から1単位以上修得すること。
		国際インターンシップ	全 教 員	1			
		上級長期インターンシップ	全 教 員	2			
		研究人材就業力養成基礎	本 島 他	2	2		
		実践アントレプレナーシップ特論	本 島 他	1	1		
		実践研究リーダーシップ特論	本 島 他	1	1		
		実践グローバル研究特論	本 島 他	1	1		
		理工学特論Ⅰ	各 教 員	2			
		理工学特論Ⅱ	各 教 員	2			
		理工学特論Ⅲ	各 教 員	2			
		理工学特論Ⅳ	各 教 員	2			
		日本語中級Ⅰ	渡 邊	1	1		
		日本語中級Ⅱ	大 和	1		1	
		日本語上級Ⅰ	大 和	1	1		
日本語上級Ⅱ	渡 邊	1		1			
理工学研究特別演習	全 教 員	2					
理工学研究特別実験	全 教 員	6					
環 境 創 生 理 工 学 領 域	学府開放専門科目	医工連携先端荷電ビーム特論（★）	曾 根	2		2	
		医工連携放射線制御・計測特論（★）	櫻 井	2	2		
		医工連携先進イオンビーム応用工学特論（★）	花 泉・三 浦	2		2	
		医工連携システムと制御工学特論（★）	山 田（ 功 ）	2		2	
		医用画像基礎原理特論	花 屋	2		2	
環 境 創 生 理 工 学 領 域	領域専門科目	エネルギー転換工学特論	佐 藤	2	2		隔年開講
		カーボン材料工学特論	尾 崎（ 純 ）	2		2	隔年開講
		環境エネルギー工学特論	中 川	2	2		隔年開講
		バイオエンジニアリング特論	未 定	2			
		微小環境操作特論	桂	2	2		隔年開講
		無機分離化学特論	板 橋・樋 山	2		2	隔年開講
		繊維構造科学特論	河 原	2		2	隔年開講
		環境創生工学特論	渡 邊	2	2		
		構造設計工学特論	小 澤	2	2		
		地盤環境工学特論	若 井	2	2		
		流域環境学特論	清 水	2	2		
		災害社会工学特論	金 井	2	2		
固体炭素資源転換工学	白井・野田・丹野	2	2				
環 境 創 生 理 工 学 領 域	リーディング専門分野技術実習科目	他分野研究実習	プログラム担当教員	2			・リーディング専門分野技術実習科目は重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム（重粒子線医理工連携コース）在籍者のみ履修可。修了要件単位に含めない。
		研究発表討論セミナー	プログラム担当教員	1			

環境創生(博)



## [領域専門科目]

### エネルギー転換工学特論 佐藤 和好

Science and Engineering of Energy Conversion, Advanced Course

エネルギー転換技術，特に不均一触媒や固体酸化物燃料電池の電極における微細構造と特性との関わりについて述べるとともに，これらの高性能化を達成するための材料合成技術について実例を示しながら説明する。

This advanced course lectures the energy conversion technology, especially in the design of heterogeneous catalysts and solid oxide fuel cell electrodes based on the fundamentals of structure-property relationships. Some examples on material synthesis technologies aiming better performance of these devices are also provided in detail.

### カーボン材料工学特論 尾崎 純一

Carbon material science and engineering, Advanced Course

はじめに，無機材料の構造と物性の関係について述べる。次いで，それらを実現する製造プロセスについて講述する。特に燃料電池用電極触媒炭素の調製を例とし説明する。

Relations between structures and properties of inorganic materials are given. Next, the fabrication processes including chemical reactions are discussed to achieve the desired properties or functions. Many examples come from our recent results of developing of non-platinum cathode catalyst carbons.

### 環境エネルギー工学特論 中川 紳好

Energy and Environmental Engineering, Advanced Course

燃料電池などの高効率，低負荷環境のエネルギープロセス・デバイスについて，その原理，デバイス構造，反応および物質移動に関する速度論モデル，システム構成などを示しながら，開発状況と実用化に向けた課題や展望について講述する。

This course provides some technologies related to fuel cell systems including design of electrode structure, properties of the constituent materials, kinetics of the electrode reactions and the mass transport through the cell and system structure. Progress, issue, vision in the development will be summarized.

### バイオエンジニアリング特論 未定

Biotechnology and Bioengineering

本科目は講義形式で行う。微生物や細胞および酵素など生体触媒を用いたプロセスの実際を紹介するとともにプロセス設計のための指針を学ぶ。またこれらのプロセスを支えるバイオテクノロジーを理解する。生体材料や生化学反応の特徴と利用方法の基礎を学ぶとともに，発酵，水処理への化学工学的発展を理解する。化学工学の技術がそのまま使える分野と，生体触媒に特有の技術を学ぶ。

The aim of this lecture is to understand characteristics of biotechnology and bioprocess using microorganism, cell, and enzymes, and study the indicator for a process design. While studying a

biomechanical material, the feature of a biochemistry reaction, and the foundation of the usage, fermentation and chemical engineering development in water disposal could be understood. We would understand chemical engineering by using biological catalyst.

### 微小環境操作特論 桂進司

Advanced Engineering on Micro-manipulation of Biological Molecules

微小粒子や分子の検出法やこれらの微粒子の操作に用いる力とその性質について講義するとともに、操作の場を作成するために微細加工技術についても講義する。さらに、1分子の観察・操作により可能になった解析法について議論する。

This course provides principles of detection and manipulation methods for particles and molecules are discussed. Techniques of micro-fabrication and the applications for analytical methods are also introduced.

### 無機分離化学特論 板橋英之・樋山みやび

Special Topics in Separation Chemistry

物質分離の基本となる化学反応を系統的に分類し、それらを超微量分離技術に結びつける過程について実例を挙げて議論する。

This course provides methods for the separation of materials by chemical reactions, and the separation of trace metals using chelate extraction is designed on the basis of the concept of HSAB.

### 繊維構造科学特論 河原豊

Fiber Structure Science

繊維は、宇宙・航空分野などで使われる先端材料の設計において不可欠な構造要素であり、さらなる高性能繊維を開発するためには、繊維の力学特性を支配する微細構造の発現について十分に理解する必要がある。高分子化学を基礎として、繊維材料の高次構造と物性の関連について理解を深め、材料設計に必要な要素技術の修得を目指し講義を行う。

Fibers are essential structural elements to design the advanced materials for aerospace fields. The physical properties of fibers are greatly influenced by the fine structure produced in the course of fiber processing. In this lecture, some relations between the higher order structure of fibrous materials and their physical properties are discussed. This lecture also deals with the evaluation techniques for the fiber structure.

### 環境創生工学特論 渡邊智秀

Special Topic in Environmental Engineering, Advanced Course

利水や環境保全上健全な水循環を確保するために不可欠な水質変換や水環境修復等に関わる要素技術を主たる対象とし、設計や操作に必要な考え方や知識を修得するとともに低炭素社会、循環型社会および自然共生型社会の構築へ向けた技術の方向性や最新動向について講義する。

Current technologies for water/ wastewater quality control are outlined. Elemental technologies and systems needed for the creation of a recycling-oriented society with a low impact on the environment are discussed.

### 構造設計工学特論 小澤 満津雄

Structural Design Engineering, Advanced Course

土木設計の実務，特に技術的に高度な設計を必要とする場面において重要な役割を果たしている数値シミュレーション技法の代表格として「有限要素法」がある。近年，土木構造物の設計体系は従来の仕様設計から性能照査型設計に移行しつつあり，構造工学分野あるいは地盤工学分野において取り扱われてきた多くの技術的課題が要求性能を定量的に評価しうる解析手法によって取り扱われるようになってきている。こうした背景を踏まえ，数値シミュレーション技術の具体例を題材に，その理論的事項の詳細を修得するとともに，実務への応用方法と今後の課題について理解を深める。

The finite element method (FEM) is well known as one of the typical methods to solve highly-complicated engineering problems in civil engineering field. A recent change of design procedures from specification-based design to performance-based design for infrastructures has promoted the sudden spread of more rigorous design frameworks which can be applied to the latter procedures. Considering the above, this course includes the discussion of the application of the FEM to practical engineering problems as well as the demonstration of the numerical analyses based on the FEM to achieve the performance-based design.

### 地盤環境工学特論 若井 明彦

Geotechnical and Geo-environmental Engineering, Advanced Course

土の力学的挙動に関する最新の研究成果について講述するとともに，地盤環境工学の最新の話題について講述する。

Recent development and advanced topics on mechanical behavior of soils and geo-environmental technology are presented.

### 流域環境学特論 清水 義彦

Environmental Hydraulics and Ecology, Advanced Course

流域の環境の修復・保全のための社会技術やシステムを構築するための基礎知識と考え方を解説する。具体的には，河川を軸とした流域の水環境の捉え方，基本構成要素となる物理，化学的環境と生物の生息条件との関係，環境と生物動態，生態系の中での生物と環境との係わり，相互作用について解説する。

The course objective is to understand ecology and hydraulics fundamentals for river basin management. The lecture presents 1) the relationship between habitat suitability and physical, chemical environment, 2) concepts of ecosystem in rivers and 3) applications of conservation and restoration for river basin management.

## 災害社会工学特論 金井昌信

### Disaster Social Engineering, Advanced Course

自然災害に対する危機管理, 現在対策, 情報伝達システムについて講述する。社会政策のみならず, 災害に対峙した人間の心理特性にも焦点をあてる。

This course is to study the social measurement and policy against natural disaster around the crisis management, mitigation measures, disaster information system and the psychological characteristic of residents against natural disaster.

## 固体炭素資源転換工学 白井裕三・野田直希・丹野賢二

### Energy Conversion of Coal and Biomass, Advanced Course

再生可能エネルギーとされるバイオマスや化石燃料の中で賦存量が最も多い石炭などの固体炭素資源に焦点をあて, 燃料としてのポテンシャルや特徴, これらを高度に利用するための乾燥, 粉碎, 可燃成分分離, 燃焼, ガス化, 液化などの単位操作の原理と特徴について, 最新の技術開発動向を踏まえながら述べる。

This course focuses on characteristics of coal and biomass for energy materials and current energy conversion technology of them. It is lectured as follows, general characteristics of coal and biomass, pretreatment technology (drying and pulverization), combustion, gasification and liquefaction.



プログラム ・科目区分	授 業 科 目	担当教員	単 位 数	週授業時間数		備 考
				1年～3年次		
				前	後	
学府共通専門科目	理工学専攻リサーチポータル	全 教 員	1			【修了要件】学府共通専門科目、学府開放専門科目、全ての領域の領域専門科目の中から、16単位以上修得すること。 ・理工学専攻リサーチポータル、国際インターンシップ、理工学研究特別実験、理工学研究特別演習及び研究人材就業力養成基礎は必修とする。 ただし、留学生においては国際インターンシップ及び研究人材就業力養成基礎を、社会人においては理工学専攻リサーチポータル、国際インターンシップ及び研究人材就業力養成基礎を選択科目とする。 ・重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム（重粒子線医理工学連携コース）在籍者は、リーディング専門分野技術実習科目3単位を履修すること。 リーディング医理工学連携科目（学府開放専門科目及び全領域の領域専門科目中の（★）科目）から2単位以上履修すること。 リーディング医理工学連携科目は上記【修了要件】の修得単位に含むことができる。 博士後期課程から重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム（重粒子線医理工学連携コース）に入学した者は、博士前期課程開講リーディングコース科目医理工共通科目群の生命倫理と法的規制、関連法規・医療倫理あるいは研究倫理から1単位以上修得すること。  ※学府共通専門科目、学府開放専門科目は135ページ参照  ・日本語中級Ⅰ・Ⅱ及び上級Ⅰ・Ⅱは留学生のみ履修可。修了要件単位に含めない。
	国際インターンシップ	全 教 員	1			
	上級長期インターンシップ	全 教 員	2			
	研究人材就業力養成基礎	本 島 他 他	2	2		
	実践アントレプレナーシップ特論	本 本 本 本 本 本 本 本	1	1		
	実践リーダーシップ特論	本 本 本 本 本 本 本 本	1	1		
	実践グローバル研究特論	本 本 本 本 本 本 本 本	1	1		
	理工学特論Ⅰ	各 教 員	2			
	理工学特論Ⅱ	各 教 員	2			
	理工学特論Ⅲ	各 教 員	2			
	理工学特論Ⅳ	各 教 員	2			
	日本語中級Ⅰ	各 渡 邊 和 和	1	1		
	日本語中級Ⅱ	大 大 大 大 大 大 大 大	1	1		
	日本語上級Ⅰ	大 大 大 大 大 大 大 大	1	1		
	日本語上級Ⅱ	大 大 大 大 大 大 大 大	1	1		
	理工学研究特別演習	全 教 員	2			
理工学研究特別実験	全 教 員	6				
学府開放 専門科目	医工連携システムと制御工学特論(★)	山田(功)	2		2	
	医用画像基礎原理特論	花屋	2		2	
電子情報・数理領域  領域専門科目	応用解析学特論	渡 辺	2		2	
	数理解析学特論	田 沼	2		2	
	応用代数学特論	名越・宮崎	2	2		
	応用微分方程式特論	田 沼	2	2		
	電子材料特論	櫻 井	2	2		
	半導体デバイス工学特論	尾崎(俊)	2	2		
	先端計測加工特論	曾 根・尹	2	2		
	医用工学特論	鈴 木	2		2	
	電気エネルギー制御工学特論	橋 本	2	2		
	高温プラズマ物理学特論	高 橋(俊)	2	2		
	量子電子工学特論	高橋(佳)・千葉	2	2		
	先端電子情報理工学特論Ⅰ	弓 仲・三輪	2		2	
	先端波動情報特論	本 島	2	2		
	電子通信工学特論	高 井	2		2	
	計算知能特論	伊 藤(直)	2		2	
	応用物理学特論	後藤・鈴木(真)	2		2	
	固体物理学特論	高橋(学)・長尾	2		2	
	数理物理学特論	守田・引原	2		2	
	情報理工学特論	加 藤(毅)	2		2	
	分散システム工学特論	中 野	2	2		
	統計科学特論	関	2		2	
	ソフトコンピューティング特論	嶋 田(香)	2		2	
	プログラミング言語特論	藤 田	2		2	
	分散最適化理論特論	荒 木(徹)	2	2		
情報システム工学特論	河 西	2		2		
知識情報工学特論	天 野	2	2			
機械学習理論	加 藤(毅)	2	2			
動的映像制御特論	奥 (寛)	2	2			

電情・数理(博)

プログラム ・科目区分		授 業 科 目	担当教員	単 位 数	週授業時間数		備 考
					1年～3年次		
					前	後	
電子情報・ 数理領域	領域 専門科目	医工連携先端荷電ビーム特論 (★)	曾 根	2	2	2	集中講義 集中講義 集中講義
		医工連携放射線制御・計測特論 (★)	櫻 井	2			
		医工連携先進イオンビーム応用工学特論 (★)	花 泉・三 浦	2			
		認知神経科学特論	地 村	2			
	リーディング 分野技術実習科目	他 分 野 研 究 実 習 研 究 発 表 討 論 セ ミ ナ ー	プログラム担当教員 プログラム担当教員	2 1			・リーディング専門分野技術実習科目は重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム（重粒子線医理工連携コース）在籍者のみ履修可。修了要件単位に含めない。

## [領域専門科目]

### 応用解析学特論 渡辺 秀司

Applied Analysis, Advanced Course

量子力学における交換関係と積分変換との密接な関連について関数解析学的な理解を深めることを目標とする。正準交換関係の1つの拡張となる Wigner 型の交換関係に従う運動量作用素を掛け算作用素へ変換する変換を Hilbert 空間上にて構成するとともに、その性質について講義する。

Give an overview of Wigner's commutation relations in quantum mechanics and the related integral transform from the viewpoint of functional analysis. Understand the basic concepts of unbounded linear operators in Hilbert spaces and integral transforms.

### 数理解析学特論 田沼 一実

Topics in Mathematical Analysis

複雑な微分方程式系である非等方弾性波動方程式に対して考察されてきた数学的フォーマリズムを、力学信号と電気信号との相互作用も考慮する圧電体方程式に適用し、圧電体を伝わる表面波を念頭に、その波動解の導出と解の性質の吟味、現象へのフィードバック、そして逆問題へ応用をはかる。いったんフォーマリズムを確立すると、どんなにパラメータが多様になっても、連立系を構成する方程式の個数がどんなに多くなっても、解の構成等が systematic な方法でアプローチできるのが数学の強みである。

Piezoelectric materials have been used in many engineering devices because of their intrinsic direct and converse piezoelectric effects that take place between electric fields and mechanical deformations. The mechanical stress and the electric displacement are related to the mechanical displacement and the electric potential through the elasticity tensor, the piezoelectric tensor and the dielectric tensor, and it is the piezoelectric tensor through which the elastic fields and electric fields can be coupled with each other. We apply the formalism developed for elasticity equations to solve the equations in piezoelectricity and study their surface-wave solutions.

### 応用代数学特論 名越 弘文・宮崎 隆史

Applied Algebra, Advanced Course

群論およびディオファントス近似論の有用性についての理解を深めることを目的とした不定方程式の基礎コース。取り扱う方程式は、単位円、双曲線、楕円曲線、トゥーエ曲線などの方程式である。

This is a fundamental course to indeterminate equations for understanding usefulness of the theory of groups and that of diophantine approximations. Equations of the following curves will be treated here: the unit circle; hyperbolas; elliptic curves; Thue curves.

### 応用微分方程式特論 田沼 一実

Differential Equations in Solid Mechanics

固体力学に現れる微分方程式、具体的には弾性体方程式、弾性波動方程式を対象に、解の構成、解の



性質の精査を通じて、弾性力学における運動の数学的側面を検討する。一方、解の一部の観測から、弾性体の性質を再構成する逆問題へのフィードバックも目標とする。

We study differential equations in solid mechanics, namely, elasticity equations and elastic wave equations. We construct their solutions and investigate the properties which those solutions possess. We also consider inverse problems, i.e., the problems of reconstructing unknown parameters of elastic media from partial observations of the solutions.

## 電 子 材 料 特 論 櫻井 浩

Physics of Electronic Materials

博士前期課程の理解度を踏まえ、さらなる高度な電子材料に関する学問およびその体系を教授する。内容は、基礎材料物性から応用指向の極めて強い先端電子・光デバイス、磁性デバイスまでの広い領域にわたる。

Based on a student's understanding of the lecture in the master's course, we teach the study about further high electronic materials and device systems. They cover from basic materials science to strongly application-oriented devices.

## 半 導 体 デ バ イ ス 工 学 特 論 尾崎 俊二

Semiconductor Devices, Advanced Course

半導体におけるキャリアの輸送現象, pn 接合について復習した後, バイポーラトランジスタの静特性・周波数特性, 及び MOS 集積回路システムにおける信号遅延とチップ面積の最小化のため, 各世代のプロセス技術でどのような設計指針や回路構成がとられてきたかを講義する。

The aim of this lecture is to understand semiconductor devices for integrated circuits. The topics in this course will be introduced as follows; 1. Electrical transport in semiconductors, 2. pn junction, 3. Characteristics of bi-polar and MOS transistors, 4. Operation of C-MOS inverters and signal delay in integrated circuits.

## 先 端 計 測 加 工 特 論 曾根 逸人・尹 友

Fabrication and Metrology, Advanced Course

電子情報学の基礎となる電子素子等の電子材料や電子物性をどのように計測分析するか高度な計測技術を習得するため, プローブ顕微鏡, 元素分析装置などについて, それらの原理, 構成素子, 操作方法等を講義する。これにより, 最先端の計測分析技術の基礎及び応用力を身につける。

To understand advanced metrology and analysis of materials and properties in electronic devices based on electronics and informatics, this course covers theories, elements and procedures of advanced measurement system, such as scanning probe microscope and elemental analyzer. Then, the advanced knowledge of metrology and analysis from basic to application are obtained.

## 医 用 工 学 特 論 鈴木 宏輔

### Advanced Medical Engineering

医工学の発展的内容について講義する。具体的には、人工心臓などの電気機械装置を利用した人工臓器の基礎と応用技術、そしてさらに最新技術の詳細についても講義する。また、マイクロビーム等の高度な高エネルギーイオンビームの計測・制御技術に基づく医学・医療分野等への応用について講義する。

This course lectures on advanced medical engineering, specifically on a basis of the artificial internal organ technology and its applications such as an artificial heart using electromechanical devices as well as the details of their recent progresses. It also lectures on an advanced ion beam measuring and controlling technology such as a high-energy ion microbeams applied to the field of medical science and technology.

## 電 気 エ ネ ル ギ ー 制 御 工 学 特 論 橋本 誠司

### Electrical Energy Control Engineering, Advanced Course

非線形制御や適応同定などのアドバンスド制御理論とその応用について講述する。ニューラルネットワークに基づく、知能化制御についても説明する。また、それらの手法について、制御系設計用 CAD を用いたシミュレーションにより学ぶ。

Advanced control theory such as nonlinear control, adaptive identification and its application are discussed. Intelligent control based on neural networks is also lectured. These methods are demonstrated by simulation using CAD software.

## 高 温 プ ラ ズ マ 物 理 学 特 論 高橋 俊樹

### High Temperature Plasma Physics, Advanced Course

核融合発電を目指した、高温完全電離磁気閉じ込めプラズマや慣性核融合プラズマを対象としたプラズマ物理学について講義する。つまり、プラズマの平衡及び安定性、プラズマ中の波動および輸送現象などである。最新の高温プラズマ研究についても紹介する。

Students learn about plasma physics in high temperature fully-ionized plasmas confined by magnetic fields and inertial confinement fusion plasmas for nuclear fusion reactors. In particular, equilibrium and stability, waves and transport in plasmas are discussed. Recent high temperature plasma studies will be also overviewed.

## 量 子 電 子 工 学 特 論 高橋 佳孝・千葉 明人

### Quantum Electronics, Advanced Course

光通信、光情報処理において重要な役割を果たすオプトエレクトロニクスデバイスの最先端技術について理解させるために、マックスウェルの方程式から出発して光の挙動を述べ、パッシブデバイスの代表例である石英系導波路、光ファイバの最新解析技術を講義する。

To understand up-to-date optoelectronics devices which are important in optical communication and optical information processing, the course will cover the concept of lasers and the state-of-the-art technology, and introduce the current technologies of quartz optical waveguides and optical fibers.

## 先端電子情報理工学特論 I 弓仲 康史・三輪 空司

Theory and Practice in Electronics and Informatics, Advanced Course I

電子情報通信技術の理工学的基礎となるプログラミング技術, シミュレータ技術について講述する。特に, 動的回路のCプログラムによる解析や視覚化手法, また, その応用である集積回路設計ツールの原理, 具体的回路設計手法に関して, 最先端の話題を交えながら実践技術の習得を目的とした講義を行う。

For obtaining basic skills from theory to practice in Electronics and Informatics, analysis and visualization techniques of physical phenomena are discussed via C-programming. Theory and design of electric circuits with EDA tool are also lectured.

## 先端波動情報特論 本島 邦行

Advanced Engineering on Electromagnetic Wave and Information

最先端の情報伝達法を理解するために, 最新の電磁波解析方法について講義する。具体的には, 有限差分時間領域法 (FDTD 法) を中心にして, 等価定理を用いた遠方電磁界算出法, 空間伝達関数算出法, スペクトル解析法などの概要を講述する。

The aim of this lecture is to understand information transmission method for advanced engineering. The topics in this course are finite difference time domain method for advanced numerical analysis, equivalent theorem for near to far field transformation, calculation of space transfer function and spectrum analysis.

## 電子通信工学特論 高井 伸和

Telecommunication System Engineering, Advanced Course

通信経路上の多くの信号の中から情報を取り出すために必要なフィルタ理論について講義する。

バターワース, チェビシエフ, ベッセルフィルタの伝達関数の数学的な解析を学んだ後, 具体的にそれぞれのフィルタを設計する手法を講義する。

最後に設計したフィルタを実際の回路として構成するための回路設計法を構築する。

The aim of this lecture is to understand analog filter theory which is very important theory to select a desired signal from the communication line.

At first, mathematical analyses of the Butterworth, Chebyshev, and Bessel filter are given, and design methods of these filters are lectured.

Finally, circuit designs of these filters are discussed.

## 計算知能特論 伊藤 直史

Computational Intelligence, Advanced Course

知的な情報処理の基盤をなすパターン認識について, その基礎理論 (ベイズ決定理論, 最尤推定, ベイズ推定) を原理から系統的に学習し, 音声認識や光学的文字認識, ジェスチャー認識などへの応用に関する例題も交えて, 様々な目的や用途に応用するための知識を習得する。

Pattern recognition forms the technical ground of intelligent information processing. The aim of

this course is to learn systematically the basis theories of pattern recognition. This lecture will deal with Bayesian decision theory, maximum likelihood estimation method, Bayesian estimation and their applications in various fields.

### 応用物理学特論 後藤 民浩・鈴木 真粧子

Applied Physics, Advanced Course

エレクトロニクスや光エレクトロニクスで用いられる材料の物理について講義する。講義の内容には、電子構造、格子ダイナミクス、光学特性および電子材料の解析手法が含まれる。

This course introduces the physics of materials used in electronics and optoelectronics. The content of the lecture includes electronic structure, lattice dynamics, optical properties and techniques for analyzing electronic materials.

### 固体物理学特論 高橋 学・長尾 辰哉

Theoretical Solid State Physics, Advanced Course

光と磁性体の相互作用に起因する現象を、物質の電子構造という観点から理解することを目標とする。そのため、はじめに多電子系の電子状態を量子力学的に扱う手段を解説した後、光やX線の分光分析に関連した応用例を紹介する。(オムニバス方式)

Our goal is to understand the phenomena due to the interaction between light and magnetic materials from the view point of the electronic structure of the materials. To this end, after introducing quantum mechanical treatment of the electronic states of many-electron system, several applications to the light and x-ray spectroscopy are explained (omnibus style).

### 数理物理学特論 守田 佳史・引原 俊哉

Mathematical Physics, Advanced Course

量子多体系の状態を記述する理論について学習し、そのために必要な数学の基礎を修得する。

Focusing on topics of quantum many-body physics, we shall discuss theories to study quantum many-body states and basics of mathematical methods used in the theories.

### 情報数理工学特論 加藤 毅

Information and Mathematical Engineering, Advanced Course

近年の情報通信技術の目覚ましい発展とともに、関連する数学理論の重要性はいや増すばかりである。本講義では、非線形計画を支える凸解析理論を解説する。

Recent advances of information and communication technology have increased the importance of related mathematical theories. In this class, the theories of the convex analysis supporting the non-linear programming are explained.

## 離散システム工学特論 中野 眞一

Discrete Systems, Advanced Course

グラフ理論の最近の話題について講義する。

This course covers several advanced topics on graph theory.

## 統計科学特論 関 庸一

Statistical Science, Advanced Course

データに基づき意思決定を行うための基礎理論として統計的決定理論と、その具体的な意思決定問題への応用を講義する。まず、ゲーム理論について零和ゲームのミニマックス定理を解説した上で、統計的決定理論の理論的フレームワークを講義する。その上で、ベイズ理論、モデル選択基準などからテーマを選んで応用例を交えて講義する。

This course provides the statistical decision theory and its applications. The statistical decision theory is a basic theory in order to make decisions on the basis of the data. First, we introduce the minimax theorem of the zero-sum game in the game theory. Next we provide theoretical framework of the statistical decision theory. Finally, we explain some topics chosen from Bayes theory, criteria for statistical model selection and so on.

## ソフトコンピューティング特論 嶋田 香

Soft Computing, Advanced Course

ソフトコンピューティング（ニューラルネットワーク，進化計算，ファジィ）の応用技術，特に知識発見・データマイニングへの応用や複雑な最適化問題に関する先端的技術について学ぶ。バイオインスパイアード型情報技術の最近のトピックを含め講義する。

The course will cover applied techniques of soft computing (neural networks, evolutionary computation, and fuzzy). In particular, students will learn about applications to knowledge discovery and data mining, as well as advanced techniques for complex optimization problems. Recent topics in bio-inspired information technology will be included.

## プログラミング言語特論 藤田 憲悦

Programming Language, Advanced Course

計算理論と記号論理学およびそれらの関係に関する最近の話題を講義する。

An introduction to parts of proof theory of intuitionistic logic and classical propositional logic and related aspects of lambda-calculi for the Curry-Howard isomorphism.

## 離散最適化理論特論 荒木 徹

Discrete Organization, Advanced Course

グラフ理論や組合せ最適化理論の話題について議論する。効率的なグラフアルゴリズムの設計やヒューリスティックな手法について議論する。

This course provides an introduction to graph theory and combinatorial optimization. Topics include efficient graph algorithms and heuristics for optimization.

### 情報システム工学特論 河西 憲一

Information Systems, Advanced Course

サービスサイエンスを工学的かつ数理的な視点で分析する手法を習得するため、待ち行列理論を学ぶ。M/M/1 システムや M/M/m システムなど出生死滅過程として記述できる待ち行列システムを学ぶ。本講義はセミナー形式とする。

This course gives an introduction of queueing theory with emphasis on service science. To understand the analytical methods in queueing theory, the topics in this course include the queueing systems described by the birth-and-death processes such as M/M/1 and M/M/m systems. This course is seminar style.

### 画像情報工学特論 未定

Image Information Processing, Advanced Course

画像情報の処理技術を述べる。特に画像からの立体復元, 物体の認識, シーンの理解など, コンピュータビジョンの分野で中心的なテーマに関して, 最近のトピックスを含め講義する。

This lecture deals with theories and techniques regarding image information processing. Especially, we discuss typical themes in Computer Vision field, including 3D shape reconstruction from images, object recognition, and scene understanding, with up-to-date technologies.

### 知識情報工学特論 天野 一幸

Knowledge Engineering, Advanced Course

理論計算機科学, 特に計算の理論に関する先端的技術について学ぶ。計算量理論やアルゴリズム理論に関する重要論文をベースに, BDD等の知識表現形式や, 巨大データからの知識抽出アルゴリズムの理論的側面等を重点的に学ぶ。

This course studies the recent advanced topics in theoretical computer science, especially in theory of computation. For example, we study the notion of binary decision diagrams for knowledge representations or various algorithms for mining useful knowledge from massive data sets based on recent important papers on the topics.

### 機械学習理論 加藤 毅

Machine Learning Theory

確率論と最適化理論に基づき機械学習のための最新理論を学ぶ。

The aim of this course is to study recent machine learning theories based on statistics and optimization.

## 動的映像制御特論 奥寛雅

Dynamic Image Control, Advanced Course

近年、光学デバイス技術と画像処理技術の進化により、これらを融合した新たな映像利用技術の枠組みが創出されつつある。本講義では最先端の論文に基づいてこの新たな枠組みを概説するとともに、それらが可能にする次世代の映像技術について議論する。

Recent progress of optical devices and image processing methods has produced new techniques, such as computational photography, in the field of imaging instruments. This lecture reviews these emerging cutting-edge technologies based on recent papers, and discuss their prospects.

## 医工連携先端荷電ビーム特論 曾根逸人

Advanced Engineering on Charged Beam for Cooperation of Medicine and Engineering, Advanced Course

荷電ビームの散乱現象、理化学機器および応用について講述する。散乱モデルでは原子との相互作用およびエネルギー蓄積について、理化学機器では電子顕微鏡の原理と高分解能化、イオン散乱分光装置、集束イオンビーム装置の基礎について、応用では超微細加工、高分解能観察、高感度バイオセンサについて詳述する。

Basic scattering for charge particles, their typical equipments, and their applications are lectured. In particular, the collisions of ion or electron with atoms and their energy deposition, electron microscope, ion scattering spectroscopy and focused ion beam (FIB) system, and nano-fabrication and evaluations using scanning electron microscope (SEM), probe microscope and high-sensitive biosensor application are described.

## 医工連携放射線制御・計測特論 櫻井浩

Radiation Control and Measurement for Cooperation of Medicine and Engineering, Advanced Course

X線・粒子線を利用した電子材料評価・計測手法について講述する。基礎理論から、加速器を利用した評価技術までのべる。①電子材料の基礎と応用②物質とX線、放射線の相互作用③X線・粒子線を利用した電子材料評価・計測の最前線

Measuring methods for characterization of electronic materials using X-rays and particle beam are lectured from the view of basic theory and accelerator application. ① Electronic materials and their applications. ② Interactions between materials and X-rays or particle beam ③ Research frontier of measuring methods for characterization of electronic materials using X-rays and particle beam.

## 医工連携先進イオンビーム応用工学特論 花泉修・三浦健太

Advanced Engineering on Ion Beam Application for Cooperation of Medicine and Engineering, Advanced Course

イオンビームを応用した最新の光デバイス工学技術について講述する。基礎理論からデバイス応用技術までの広い範囲、すなわち、①デバイス工学におけるイオン注入技術、②光導波路理論、③光機能デバイス（光スイッチ、光変調器、フィルタなど）、④先端光デバイス工学（フォトニック結晶など）に

ついて解説する。

Photonic device engineering using ion beam technologies are lectured. Broad area from fundamental theories to application technologies such as ion implantation technologies for device engineering, optical waveguide theories, functional devices (switches, modulators, and filters), and advanced photonics (photonic crystals) are included.

## 認 知 神 經 科 学 特 論 地村 弘二

Latest Advancements in Cognitive Neuroscience

認知の制御や意思決定といった高度に複雑な心理機能を調べるための最新の科学的枠組みを理解する。当該分野の原著論文を読み進めながら、観察対象、計測手法、解析手法を体系的に理解することにより、高次脳機能研究の最新を知る。

This course aims to understand cutting-edge scientific frameworks to examine sophisticated psychological functions enabling executive control and decision-making. By presenting and discussing scientific journal articles, you will systematically learn model animals, measurement methods, and analysis approaches, and overview modern neurosciences of high-level functions.



## [学府共通専門科目]

### 理工学専攻リサーチプロポーザル 全教員

#### Advanced Research Proposal

理工学分野の先端研究開発について幅広い知識を持たせること，理工学分野全体を見渡せる能力を持たせること，および理工学分野に共通な課題抽出能力，課題設定能力，課題解決能力，を身につけさせることを目的として，自分の研究専門分野以外の分野に関係する課題を設定してリサーチプロポーザルを行わせる。くわえて，発表会を開催し，そこでの発表と討議を経験させる。社会人コースの学生は免除することができる。

### 国際インターンシップ 全教員

#### International Internship

海外の技術者・研究者との英語による研究討論の能力を養うために，国際会議あるいはこれに準じる場所において，英語による研究発表，海外の研究者との討論・交流等を行い，英語でコミュニケーションする能力の実践的訓練を行う。訓練終了後成果報告書を作成させることで訓練の成果をより確かなものにする。留学生と社会人は免除することができるが，単位の取得は可能である。

### 上級長期インターンシップ 全教員

#### Long-term Internship

修得した学問を企業において実践的に活用する能力を培うために，事前教育を含めて3ヶ月程度の長期間の企業におけるインターンシップを行う。事前教育としては，企業におけるマナー，知的財産，安全管理について教育する。加えて，派遣先の企業およびそこでの職務に応じた周辺分野の教育も行う。派遣先企業の担当者との協議を基に経過報告書を作成することを義務づけ，最終的な報告書を提出させ，最後に発表会を開催しそこでの発表・討論を経験させる。

### 研究人材就業力養成基礎 鈴木 道子・佐藤 和浩・田浦 久美子・杉本 ゆかり

#### Basic Training for Being Corporate Researchers

企業人講師を中心に，社会人としての基礎力と，産業界における研究開発者として活躍するために必要な知識・スキルを，ロールプレイング形式を多用し修得する。価値創造に必要な，企画・マーケティング・研究開発・生産・販売に至る一連の企業活動を概観する。さらに，企業における価値創造を行う際の思考法を身につける。加えて，協業する際のビジネスマナーの基礎も学ぶ。

Mainly from corporate lecturers, students will acquire basic skills as a member of society and the knowledge and skills necessary to play an active role as a researcher in industry, using a lot of role-playing formats. This course provides an overview of a series of corporate activities necessary for value creation, including planning, research and development, production, and sales. In addition, students will learn how to think when creating value in a company.

## 実践研究リーダーシップ特論

杉本 ゆかり・科部 元浩

### Leadership Development Course

企業での研究開発部門において、信頼されるリーダーとしてリーダーシップをとるための理論を理解し、周囲の力を引き出し、組織のパフォーマンス向上に導くためのスキルについて学ぶ。また組織と人間行動を理解し、信頼関係をつくり、方向を示し、人を導く力を身に着ける。事例と演習、課題を通して理解を深める。

Understand the theory of leadership as a trusted leader in the R & D department of a company, and learn the skills to draw out the power of others and improve the performance of the organization. Also, understand the organization and human behavior, build relationships of trust, point directions, and acquire the power to guide people. Deepen understanding through case studies, exercises, and assignments.

## 実践アントレプレナーシップ特論

伊藤 大輔

### Entrepreneurial Training Course

起業を考えている、あるいは企業内での新規事業担当者を目指す者を主な対象として、新たな価値を市場に提供するために必要な基礎知識を修得することを目的として、事業化に必要なマーケティングやデザインシンキング的思考など市場経済に即した計画立案や意思決定の方法論を学ぶ。また、企業運営に必要な経営戦略等について、基礎的な考え方を修得する。

This course targets students that are trying to be an entrepreneur, or a person in charge of new projects in a corporate. In the course, you can learn marketing that is needed to be commercialized technology. In addition, you can also learn corporate strategy. All classes will be given in Japanese.

## 実践グローバル研究特論

針ヶ谷 文子

### Basic Training for Being Global Corporate Researchers

海外勤務を想定した実践的な英会話をロールプレイング形式で身につける。また、海外で働くために必要な種々の文化的背景を理解できるようになる。また、実際に海外で就職するための活動手段について事例を交えて講述する。実践英会話以外の講義はすべて日本語で行われる。

You learn practical English conversation by role-playing method. The course will also make you understand multicultural background. Additionally, global job hunting method will be introduced. All classes except for practical English conversation will be given in Japanese.

## 日本語中級 I

渡邊 知積

### Intermediate Japanese I

中級レベルの文章を読みこなす能力を育成する。あわせて、中級レベルの文法項目を用いて正確な文章を産出できるようにする。日本語による資料の読解能力を高め、コミュニケーション能力を育成することにより、大学において学習や研究活動を支障なく行える日本語能力を涵養する。これにより円滑な学位取得を可能とすることを旨とする。

The aim of this course is to cultivate the ability to read Japanese intermediate level sentences. In

addition, practice to make accurate sentences using intermediate level grammar items. Students will improve Japanese reading skills and acquire high communication skills.

## 日 本 語 中 級 II 大和 啓子

### Intermediate Japanese II

中級レベルの文章を読みこなす能力を育成する。あわせて、中級レベルの文法項目を用いて正確な文章を産出できるようにする。日本語による資料の読解能力を高め、コミュニケーション能力を育成することにより、大学において学習や研究活動を支障なく行える日本語能力を涵養する。これにより円滑な学位取得を可能とすることを旨とする。

The aim of this course is to cultivate the ability to read Japanese intermediate level sentences. In addition, practice to make accurate sentences using intermediate level grammar items. Students will improve Japanese reading skills and acquire high communication skills.

## 日 本 語 上 級 I 大和 啓子

### Advanced Japanese I

上級レベルの学習者を対象に、専門的な学習に必要な日本語の技能をさらに伸ばす。また、将来の進路に視野をおき、日本企業への就職に必要な高度な日本語能力の育成を図る。

This course is for advanced learners of Japanese language wishing to brush up their skills necessary for the latter half of university study and life.

## 日 本 語 上 級 II 渡邊 知積

### Advanced Japanese II

上級レベルの学習者を対象に、専門的な学習に必要な日本語の技能をさらに伸ばす。また、将来の進路に視野をおき、日本企業への就職に必要な高度な日本語能力の育成を図る。

This course is for advanced learners of Japanese language wishing to brush up their skills necessary for the latter half of university study and life.

## 理 工 学 研 究 特 別 演 習 全教員

### Seminar in Specialized Topics

#### [物質・生命理工学]

物質科学，生物科学，計測科学に関する最先端の研究成果を学び博士論文作成のために必要な知識を習得するために，指導教員の研究指導領域から研究課題を選択して，これに関連した文献調査・講読などの演習を行う。

#### [知能機械創製理工学]

エネルギーシステム，マテリアルシステム，メカトロニクス，インテリジェントシステムに関する最先端の研究成果を学び博士論文作成のために必要な知識を習得するために，指導教員の研究指導領域から研究課題を選択して，これに関連した文献調査・講読などの演習を行う。

#### [環境創生理工学]

環境分析，機能性材料，エネルギー有効利用，エネルギー変換デバイス，エネルギーシステム，分離・回収・除去，物質循環，社会基盤工学，環境工学，安全・防災に関する最先端の研究成果を学び博士論文作成のために必要な知識を習得するために，指導教員の研究指導領域から研究課題を選択して，これに関連した文献調査・講読などの演習を行う。

#### [電子情報・数理]

電子デバイス，計測・制御・エネルギー，情報通信システム，計算機科学，数理科学，物理学に関する最先端の研究成果を学び博士論文作成のために必要な知識を習得するために，指導教員の研究指導領域から研究課題を選択して，これに関連した文献調査・講読などの演習を行う。

### 理 工 学 研 究 特 別 実 験 全教員

#### Experimental Research in Specialized Topics

#### [物質・生命理工学]

物質科学，生物科学，計測科学に関する最先端の研究手法を実践的に学ぶために，指導教員の研究指導領域から研究課題を選択して，理論研究・実験・数値解析などの研究をおこない，博士論文の作成指導を受ける。

#### [知能機械創製理工学]

エネルギーシステム，マテリアルシステム，メカトロニクス，インテリジェントシステムに関する最先端の研究手法を実践的に学ぶために，指導教員の研究指導領域から研究課題を選択して，理論研究・実験・数値解析などの研究をおこない，博士論文の作成指導を受ける。

#### [環境創生理工学]

微量分析，機能性材料，エネルギー有効利用，エネルギー変換デバイス，エネルギーシステム，分離・回収・除去，物質循環，社会基盤工学，土木工学，安全・防災に関する最先端の研究手法を実践的に学ぶために，指導教員の研究指導領域から研究課題を選択して，理論研究・実験・数値解析などの研究をおこない，博士論文の作成指導を受ける。

#### [電子情報・数理]

電子デバイス，計測・制御・エネルギー，情報通信システム，計算機科学，数理科学，物理学に関する最先端の研究手法を実践的に学ぶために，指導教員の研究指導領域から研究課題を選択して，理論研究・実験・数値解析などの研究をおこない，博士論文の作成指導を受ける。

## [学府開放専門科目]

### 医工連携先端荷電ビーム特論 曾根 逸人

Advanced Engineering on Charged Beam for Cooperation of Medicine and Engineering, Advanced Course

荷電ビームの散乱現象，理化学機器および応用について講述する。散乱モデルでは原子との相互作用およびエネルギー蓄積について，理化学機器では電子顕微鏡の原理と高分解能化，イオン散乱分光装置，集束イオンビーム装置の基礎について，応用では超微細加工，高分解能観察，高感度バイオセンサについて詳述する。

Basic scattering for charge particles, their typical equipments, and their applications are lectured. In particular, the collisions of ion or electron with atoms and their energy deposition, electron microscope, ion scattering spectroscopy and focused ion beam (FIB) system, and nano-fabrication and evaluations using scanning electron microscope (SEM), probe microscope and high-sensitive biosensor application are described.

### 医工連携放射線制御・計測特論 櫻井 浩

Radiation Control and Measurement for Cooperation of Medicine and Engineering, Advanced Course

X線・粒子線を利用した電子材料評価・計測手法について講述する。基礎理論から，加速器を利用した評価技術までのべる。①電子材料の基礎と応用②物質とX線，放射線の相互作用③X線・粒子線を利用した電子材料評価・計測の最前線

Measuring methods for characterization of electronic materials using X-rays and particle beam are lectured from the view of basic theory and accelerator application. ① Electronic materials and their applications. ② Interactions between materials and X-rays or particle beam ③ Research frontier of measuring methods for characterization of electronic materials using X-rays and particle beam.

### 医工連携先進イオンビーム応用工学特論 花泉 修・三浦 健太

Advanced Engineering on Ion Beam Application for Cooperation of Medicine and Engineering, Advanced Course

イオンビームを応用した最新の光デバイス工学技術について講述する。基礎理論からデバイス応用技術までの広い範囲，すなわち，①デバイス工学におけるイオン注入技術，②光導波路理論，③光機能デバイス（光スイッチ，光変調器，フィルタなど），④先端光デバイス工学（フォトニック結晶など）について解説する。

Photonic device engineering using ion beam technologies are lectured. Broad area from fundamental theories to application technologies such as ion implantation technologies for device engineering, optical waveguide theories, functional devices (switches, modulators, and filters), and advanced photonics (photonic crystals) are included.

## 医工連携システムと制御工学特論 山田 功

Advanced Engineering on System and Control for Cooperation of Medicine and Engineering, Advanced Course

システム工学, システムの制御工学について講述する。基礎理論を中心に述べ。①システムの安全性, ②プロパー安定有理関数行列を用いた制御系設計法, ③不確かなシステムに対する制御について解説する。

This lecture gives an over view of system engineering and control engineering. Broad area from fundamental theory to applications of these engineering are included. Especially, we introduce ① safety of the system ② design methods of control systems using proper stable rational function matrices ③ controller design for uncertain systems.

## 医用画像基礎原理特論 花屋 実

Scientific Basics of Medical Imaging

医療画像をより深く理解し, 生命機能画像化技術を開発するための基盤形成を目的として, MRIの基礎となる核磁気共鳴の原理, 核磁気共鳴を利用したイメージングの原理, 画像情報処理, さらに, 光プローブ技術を理解するための光物理化学の基礎とその応用について解説する。

This course provides basic principles of a nuclear magnetic resonance as the basis of MRI, a digital image processing, and optical imaging probe techniques from the scientific point of view for the development of Medical Imaging.

## [リーディング専門分野技術実習科目]

### 他 分 野 研 究 実 習 担当教員

#### Other Field Research Training

自分の専門分野以外の分野の研究室で、プログラム担当教員の指導の下、一定期間研究に従事することを義務付ける。複数の学問の先端にふれることで、学問を俯瞰し異分野融合による独創性を涵養することができる。

Students have to research for a period in laboratories which are not their research fields under control of their supervisors. Students can overlook studies and cultivate originality by interdisciplinary research.

### 研 究 発 表 討 論 セ ミ ナ ー 担当教員

#### Seminar for Presentation and Discussion

各大学院生が、自ら行っている研究課題についての口頭発表を行う。各指導教員の指導のもとに、研究成果をまとめて、学会発表形式で口演を行う。この発表により、大学院生は相互理解を深め、研究成果活用方法について視野を広げ、新たな興味を喚起することが可能となる。

Each graduate student, perform the Oral presentation of research issues that have done themselves. Under the guidance of the supervisor, to conduct summary of the research findings, literature, positioning, to perform oral presentation at the conference presentation format. With this announcement, it is possible to graduate students to deepen mutual understanding, to expand the field of view for ways to use research results, to stimulate new interest.

## 9. 理工学府課程表・講義要目（大学院共通科目）

授 業 科 目	単位数	備 考
Research Skills-Presentation and Writing (効果的なプレゼンスキルとライティングスキル)	2	
レギュラトリーサイエンス概論	2	
意思決定科学特論	2	情報学研究科（修士課程）
グローバル地域創生特論	2	
先端応用情報学特講 A	1	
先端応用情報学特講 B	1	
先端応用情報学特講 C	1	
先端応用情報学特講 D	1	
先端応用情報学特講 E	1	
先端応用情報学特講 F	1	
先端応用情報学特講 G	1	
先端応用情報学特講 H	1	
先端応用情報学特講 I	1	
先端応用情報学特講 J	1	
研究倫理（講義）	1	
研究倫理（Eラーニング）	1	
放射線生物学	1	医学系研究科（修士課程）
放射線基礎物理学	2	
放射線計測学講義	2	
情報処理学・画像工学	2	
医学物理実習	1	
医学物理演習	1	
重粒子線治療講義	2	
MOT特論	2	理工学府（博士前期課程）
経営工学特論	2	
アントレプレナーシップ特論	2	
医工連携特論	1	
医理工連携重粒子線治療の物理と医学特論	2	
研究人材就業力養成基礎	2	理工学府（博士後期課程）
実践アントレプレナーシップ特論	1	
実践研究リーダーシップ特論	1	
次世代モビリティ技術	2	研究・産学連携推進機構次世代モビリティ社会実装 研究センター
次世代モビリティ高度交通システム	2	
次世代モビリティ社会の変化と可能性	2	
ベイズ統計学特論	2	数理データ科学教育研究センター
データサイエンス応用・Pythonプログラミング演習	2	
データサイエンス応用・画像データ解析演習	2	
データサイエンス基礎・Pythonプログラミング	2	
Pythonによる数理解析	2	
画像処理と実践応用演習	2	



授 業 科 目	単位数	備 考
食の安全特論	2	食健康科学教育研究センター
生活習慣病と食健康科学特論	2	
実践食品イノベーション特論	2	
食品科学特論	2	
食品生産工学特論	2	
食健康医科学特論	2	
バイオデータ解析・統計特論	2	

## 10. 重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム (重粒子線医理工連携コース)

重粒子線によるがん治療は身体の負担が少なく高いQOL (Quality of Life)が得られる治療法で、今後重要ながん治療法になると期待されています。群馬大学は大学院博士課程を有する大学としては唯一重粒子線治療装置を所有し、重粒子線治療に関連した教育・研究・人材育成を行うことができる大学です。

重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラムは2019年度より本学医学系研究科と連携して設立されました。

本プログラムの募集人員は2名程度です。履修希望者は理工学府博士前期課程に入学後、9月頃に別途行われる試験によって選抜されます。また、本プログラムは、博士前期・後期課程を一貫した「5年一貫の学位プログラム」です。

### (重粒子線医理工連携コース概要)

重粒子線によるがん治療は、放射線腫瘍医だけでなく、医師のニーズに応えられる装置の開発・治療計画の立案に携わる開発技術者および医学物理士、さらに治療の最適化を検証する生物学者などが支え合うことで成り立っています。

本学位プログラムでは、医学系研究科と理工学府の博士課程（前期・後期課程）に医学・理工学融合型のリーディングプログラム重粒子線医理工連携コースを創設し、これにより、学際的な先進的医療である重粒子線治療を各専門分野の領域を超えて牽引する、優れた資質を持つ、世界に通用する放射線腫瘍医リーダーならびに物理工学分野や医学生物学分野のリーダーおよび重粒子線医療機器開発企業の研究開発リーダーの養成をめざします。

### 医学物理コース

先進的な放射線治療である高エネルギー炭素線を用いた「重粒子線治療」やX線を用いた「IMRT」などでは、医学物理の知識を発展・継承させていく医学物理の研究者や臨床現場で活躍する医学物理士の人材が不可欠です。そこで、重粒子線医理工連携コースに医学物理コースを設置し、重粒子線医学・生物学の基礎と重粒子線先端臨床研究ならびに高度医療機器の開発・運用技術の両面を習得し、その特性や中心的学問領域に応じ、国内外の放射線・重粒子線の研究拠点や重粒子線治療施設、重粒子線治療を包括的に運営・開拓する、あるいは高度医療機器開発産業における国際的な指導者となりうる医学物理分野の専門家を養成します。

## 11. 日系企業人材育成のための知能・制御教育プログラム

「日系企業人材育成のための知能・制御教育プログラム」について、2022年度から、知能機械創製理工学教育プログラム（博士前期課程）及び知能機械創製理工学領域（博士後期課程）で学生の受入れを開始しました。

### 《プログラムの要旨》

優秀な留学生を獲得し、日系企業の一線で次世代の知能・制御に関する技術専門職に携わる人材へと育て上げます。当該留学生は、メカトロニクス、自動制御、人工知能、データサイエンスを包括する、次世代の知能・制御の専門知識を習得すると共に、それらを実践するプロジェクト研究へと参画し、日本型の研究開発能力を修得します。さらに、日本語教育、企業インターンシップなどについて優遇措置を設け、日系の知能・制御技術関連企業への就業を支援します。

本プログラムでは、留学生のほか、日本人学生も受け入れます。

本プログラムは、実施主体の本学知能機械創製部門の強みであるメカトロニクスおよび知能・制御分野を中心とし、日本人学生とバディを組むことによる協働を前提とした教育・研究内容となっています。学部生をリクルート予定である協定各校は、科学技術分野に強い学科を有しており、本学との共同シンポジウム開催、地域イノベーションのためのプロジェクト活動、共同研究を策定できます。本学の日本人学生はこれらに参画することで、他国の人々との協働を通じた成長の機会を得ることができます。

## 12. 英語だけで学位取得が可能なプログラム (修士・博士 土木環境コース)

### ○修士英語コース（環境創生理工学教育プログラム土木環境コース）

環境創生理工学教育プログラム土木環境コースにおいて、英語で提供される授業のみで学位取得が可能な修士課程のプログラム（2024年度設置）。

#### ▶プログラムの特徴

##### 特徴1：専門科目

土木工学・環境工学に関する高度な専門科目をすべて英語で履修。早い段階で専門分野の深化を図るため、博士課程の専門科目の早期履修が可能。

##### 特徴2：研究室留学

修士課程に在籍中、3ヵ月以内の海外協定大学での研究室留学を積極的に推進し、協定大学と本学の教員の双方から論文指導を受ける。

#### ▶カリキュラム・修了要件等の詳細

<https://www.facebook.com/GunmaCEE/>



### ○オーストラリア・ディーキン大学との博士ダブルディグリープログラム (環境創生理工学領域土木環境コース)

環境創生理工学領域土木環境コースにおいて、英語を使用言語として、3年間で群馬大学とディーキン大学から2つの学位取得が可能な博士課程のプログラム（2024年度設置）。

#### ▶プログラムの特徴

##### 特徴1：学位取得

本学大学院理工学府博士後期課程1年の履修を終えた後、オーストラリア・ディーキン大学工学部へ1年間留学。その後、本学へ戻り、博士後期課程を修了すると本学とディーキン大学の両方から同時に、2つの博士号が授与。

##### 特徴2：在外研究

本学とディーキン大学両校の指導教員の連携のもと、共同の研究指導を受けて、ディーキン大学に留学し、研究プロジェクトに着手。

#### ▶カリキュラム・修了要件等の詳細

<https://www.facebook.com/GunmaCEE/>





# 13. 教 員 名 簿

(2024年4月1日現在)

理工学府長

教 授 博士(工学) 石 間 経 章

## ◎博士前期課程

### 物質・生命理工学教育プログラム

教 授	博士(工学)	浅 川 直 紀	教 授	博士(理学)	住 吉 吉 英
〃	理学博士	浅 野 素 子	〃	博士(理学)	園 山 正 史
〃	博士(工学)	網 井 秀 樹	〃	博士(工学)	高 橋 浩
〃	博士(医学)	井 上 裕 介	〃	工学博士	武 田 茂 樹
〃	博士(理学)	上 原 宏 樹	〃	博士(理学)	中 村 洋 介
〃	理学博士	海 野 雅 史	〃	理学博士	花 屋 実
〃	理学博士	奥 津 哲 夫	〃	博士(理学)	藤 沢 潤 一
〃	工学博士	尾 崎 広 明	〃	博士(農学)	松 尾 一 郎
〃	博士(工学)	粕 谷 健 一	〃	博士(工学)	村 岡 貴 子
〃	博士(理学)	京 免 徹	〃	理学博士	山 本 隆 夫
〃	博士(農学)	佐 藤 記 一	〃	Doctor of Science	Md. Zakir Hossain
〃	博士(エネルギー科学)	白 石 壮 志			
准 教 授	博士(工学)	岩 本 伸 司	准 教 授	博士(工学)	武 野 宏 之
〃	博士(理学)	奥 浩 之	〃	博士(工学)	橋 熊 野
〃	博士(工学)	攪 上 将 規	〃	博士(理学)	堂 本 悠 也
〃	博士(工学)	覺 知 亮 平	〃	博士(理学)	行 木 信 一
〃	博士(理学)	菅 野 研 一 郎	〃	博士(理学)	森 口 朋 尚
〃	博士(理学)	下 赤 卓 史	〃	理学博士	山 路 稔
〃	博士(工学)	高 橋 剛	〃	博士(工学)	山 田 圭 一
〃	博士(理学)	武 田 亘 弘	〃	博士(工学)	吉 原 利 忠
〃	博士(理学)	竹 田 浩 之	〃	工学博士	米 山 賢
客 員 教 授	博士(工学)	阿 部 英 喜	客 員 教 授	博士(工学)	沼 田 圭 司
	(理化学研究所)			(京科大学大学院)	
〃	理学博士	川 島 隆 幸	〃	工学博士	前 川 康 成
				(量子科学技術研究開発機構)	
〃	博士(工学)	瀬 古 典 明	〃	博士(工学)	八 卷 徹 也
	(量子科学技術研究開発機構)			(量子科学技術研究開発機構)	
〃	博士(工学)	田 口 光 正	〃	博士(工学)	山 本 洋 揮
	(量子科学技術研究開発機構)			(量子科学技術研究開発機構)	
客 員 准 教 授	博士(工学)	吉 川 佳 広	客 員 准 教 授	博士(工学)	廣 木 章 博
	(産業技術総合研究所)			(量子科学技術研究開発機構)	
講 師 (非)	朝 海 敏 昭		講 師 (非)	佐 藤 美 由 紀	
	(産業技術総合研究所)			(群馬大学生体調節研究所)	
〃	稻 垣 毅		〃	佐 藤 裕 公	
	(群馬大学生体調節研究所)			(群馬大学生体調節研究所)	
〃	奥 西 勝 秀		〃	竹 田 博 史	
	(群馬大学生体調節研究所)			(小野薬品工業株式会社)	
〃	北 村 忠 弘		〃	畑 田 出 穂	
	(群馬大学生体調節研究所)			(群馬大学生体調節研究所)	

講師（非） 小林 雅 樹  
（群馬大学生体調節研究所）  
 ♪ 小 松 哲 郎  
（群馬大学生体調節研究所）  
 ♪ 佐 藤 幸 市  
（群馬大学生体調節研究所）  
 ♪ 佐 藤 隆 史

講師（非） 波 田 雅 彦  
（京都府立大学）  
 ♪ 羽 成 修 康  
（産業技術総合研究所）  
 ♪ 藤 谷 与 士 夫  
（群馬大学生体調節研究所）  
 ♪ 堀 居 拓 郎  
（群馬大学生態情報ゲノムリソースセンター）  
 ♪ Peter Greimel  
（理化学研究所）

### 知能機械創製理工学教育プログラム

教 授 博士（工学） 天 谷 賢 児  
 ♪ 博士（工学） 荒 木 幹 也  
 ♪ 博士（工学） 石 間 経 章  
 ♪ 博士（工学） 岩 崎 篤  
 ♪ 博士（工学） 荘 司 郁 夫  
 ♪ 博士（エネルギー科学） 鈴 木 孝 明  
 ♪ 博士（情報科学） 中 沢 信 明  
 准 教 授 博士（工学） 相 原 智 康  
 ♪ 博士（工学） 井 上 雅 博  
 ♪ 博士（工学） 川 島 久 宜  
 ♪ 博士（工学） 小 山 真 司  
 ♪ 博士（工学） 座 間 淑 夫  
 ♪ 博士（工学） 鈴 木 良 祐  
 客員教授 博士（工学） 岡 島 智 史  
（日本原子力研究開発機構）  
 ♪ 博士（工学） 若 井 隆 純  
（日本原子力研究開発機構）  
 客員准教授 博士（工学） Mai Thi Nghia  
（ベトナム郵政通信技術学院）  
 講師（非） 安 藤 哲 也  
（室蘭工業大学）  
 ♪ 江 本 聞 夫  
（前橋工科大学）  
 ♪ 奥 貫 圭 一  
（群馬大学情報学部）  
 ♪ 金 子 誠  
（千葉大学）  
 ♪ 熊 川 拓 也  
（群馬県）

教 授 博士（工学） 半 谷 禎 彦  
 ♪ 博士（工学） 藤 井 雄 作  
 ♪ 博士（工学） 古 畑 朋 彦  
 ♪ 博士（工学） 丸 山 真 一  
 ♪ 博士（工学） 山 口 誉 夫  
 ♪ 博士（工学） 山 田 功  
 ♪ 博士（工学） 林 偉 民  
 准 教 授 博士（工学） 田 北 啓 洋  
 ♪ 博士（工学） 田 中 有 弥  
 ♪ 博士（工学） 船 津 賢 人  
 ♪ 博士（工学） 村 上 岩 範  
 ♪ 博士（学術） Md Abdus Samad Kamal  
 客員教授 博士（工学） 渡 壁 智 祥  
（日本原子力研究開発機構）  
 ♪ 博士（工学） 渡 邊 裕 彦  
（富士電機株式会社）  
 講師（非） 小 竹 裕 人  
（群馬大学情報学部）  
 ♪ 志 賀 聖 一  
（太田工科専門学校）  
 ♪ 鈴 木 秀 和  
 ♪ 中 谷 淳 一  
（関東学園大学）  
 ♪ 松 原 雅 昭  
 ♪ 藪 野 浩 司  
（筑波大学）

## 環境創生理工学教育プログラム

教 授	理学博士	板 橋 英 之	教 授	博士（工学）	清 水 義 彦
〃	工学博士	尾 崎 純 一	〃	工学博士	中 川 紳 好
〃	博士（工学）	小 澤 満 津 雄	〃	博士（工学）	森 本 英 行
〃	博士（工学）	桂 進 司	〃	博士（工学）	若 井 明 彦
〃	博士（工学）	金 井 昌 信	〃	博士（工学）	渡 邊 智 秀
〃	博士（工学）	河 原 豊			
准 教 授	博士（工学）	石 井 孝 文	准 教 授	博士（工学）	斎 藤 隆 泰
〃	博士（工学）	伊 藤 司	〃	博士（工学）	佐 藤 和 好
〃	博士（工学）	鵜 崎 賢 一	〃	博士（工学）	野 田 玲 治
〃	博士（理学）	大 重 真 彦	〃	博士（工学）	原 野 安 土
〃	博士（工学）	蔡 飛	〃	博士（理学）	樋 山 み や び
客 員 教 授	博士（工学） <small>（電力中央研究所）</small>	白 井 裕 三	客 員 教 授	博士（工学） <small>（電力中央研究所）</small>	丹 野 賢 二
〃	博士（工学） <small>（電力中央研究所）</small>	野 田 直 希			
講 師（非）	国 枝 稔 <small>（岐阜大学）</small>		講 師（非）	藤 原 拓 <small>（京都大学大学院）</small>	
〃	迫 井 裕 樹 <small>（八戸工業大学）</small>		〃	水 野 彰	
〃	鷹 鷲 利 公 <small>（産業技術総合研究所）</small>		〃	山 田 真 義 <small>（鹿児島工業高等専門学校）</small>	
〃	滝 山 博 志 <small>（東京農工大学）</small>		〃	吉 澤 徳 子 <small>（産業技術総合研究所）</small>	

## 学府共通教育科目等

講 師（非）	石 井 俊 一 <small>（海洋研究開発機構）</small>	田 代 睦 <small>（群馬大学重粒子線医学推進機構）</small>	講 師（非）	田 代 睦 <small>（群馬大学重粒子線医学推進機構）</small>	
〃	伊 藤 正 実 <small>（群馬大学研究・産学連携推進機構）</small>	〃	田 沼 守 <small>（株式会社ミツバ）</small>	〃	田 沼 守 <small>（株式会社ミツバ）</small>
〃	太 田 幸 則 <small>（千葉大学）</small>	〃	角 田 達 朗 <small>（株式会社ヨコオ）</small>	〃	角 田 達 朗 <small>（株式会社ヨコオ）</small>
〃	大 野 達 也 <small>（群馬大学重粒子線医学推進機構）</small>	〃	中 尾 政 夫 <small>（群馬大学重粒子線医学推進機構）</small>	〃	中 尾 政 夫 <small>（群馬大学重粒子線医学推進機構）</small>
〃	大 野 由 美 子 <small>（群馬県立県民健康科学大学）</small>	〃	芳 賀 知 <small>（ティール・エム研究所）</small>	〃	芳 賀 知 <small>（ティール・エム研究所）</small>
〃	荻 原 浩 <small>（株式会社SUBARU）</small>	〃	半 田 佳 宏 <small>（株式会社 生物技研）</small>	〃	半 田 佳 宏 <small>（株式会社 生物技研）</small>
〃	川 嶋 基 敬 <small>（群馬大学重粒子線医学推進機構）</small>	〃	藤 縄 祐 <small>（群馬大学研究・産学連携推進機構）</small>	〃	藤 縄 祐 <small>（群馬大学研究・産学連携推進機構）</small>
〃	河 村 英 将 <small>（群馬大学重粒子線医学推進機構）</small>	〃	星 野 栄 一 <small>（花王株式会社）</small>	〃	星 野 栄 一 <small>（花王株式会社）</small>
〃	酒 井 真 理 <small>（群馬大学重粒子線医学推進機構）</small>	〃	松 村 彰 彦 <small>（群馬大学重粒子線医学推進機構）</small>	〃	松 村 彰 彦 <small>（群馬大学重粒子線医学推進機構）</small>
〃	坂 田 毅 <small>（株式会社ヨコオ）</small>	〃	大 和 啓 子 <small>（群馬大学国際センター）</small>	〃	大 和 啓 子 <small>（群馬大学国際センター）</small>
〃	佐 藤 正 英 <small>（金沢大学）</small>	〃	遊 佐 顕 <small>（群馬大学重粒子線医学推進機構）</small>	〃	遊 佐 顕 <small>（群馬大学重粒子線医学推進機構）</small>
〃	島 田 博 文 <small>（群馬大学重粒子線医学推進機構）</small>	〃	吉 田 由 香 里 <small>（群馬大学重粒子線医学推進機構）</small>	〃	吉 田 由 香 里 <small>（群馬大学重粒子線医学推進機構）</small>
〃	高 橋 昭 久 <small>（群馬大学重粒子線医学推進機構）</small>	〃	渡 邊 知 积 <small>（群馬大学国際センター）</small>	〃	渡 邊 知 积 <small>（群馬大学国際センター）</small>



電子情報・数理教育プログラム

教 授	博士 (工学)	尹 友	教 授	博士 (工学)	橋 本 誠 司
〃	博士 (工学)	尾 崎 俊 二	〃	工学博士	花 泉 修
〃	博士 (工学)	後 藤 民 浩	〃	博士 (工学)	三 浦 健 太
〃	博士 (工学)	櫻 井 浩	〃	博士 (工学)	三 輪 空 司
〃	博士 (理学)	曾 根 逸 人	〃	博士 (工学)	本 島 邦 行
〃	博士 (理学)	高 橋 学	〃	博士 (工学)	弓 仲 康 史
〃	博士 (理学)	田 沼 一 実	〃	理学博士	渡 辺 秀 司
〃	博士 (工学)	長 尾 辰 哉			
准 教 授	博士 (工学)	伊 藤 直 史	准 教 授	博士 (工学)	田 中 勇 樹
〃	博士 (工学)	栗 田 伸 幸	〃	博士 (工学)	千 葉 明 人
〃	博士 (工学)	鈴 木 宏 輔	〃	博士 (理学)	名 越 弘 文
〃	博士 (理学)	鈴 木 真 粧 子	〃	博士 (理学)	引 原 俊 哉
〃	博士 (数理学)	高 江 洲 俊 光	〃	博士 (理学)	宮 崎 隆 史
〃	博士 (理学)	高 橋 俊 樹	〃	博士 (理学)	守 田 佳 史
〃	博士 (工学)	高 橋 佳 孝			
客 員 教 授	理学博士 ( (株) 日立製作所)	岩 崎 富 生	客 員 教 授	博士 (工学) ( 京都工芸繊維大学)	高 井 伸 和
〃	理学博士 ( (株) 日立製作所)	孝 橋 照 生	〃	工学博士 ( 理化学研究所)	原 田 研
〃	理学博士 ( (株) 日立製作所)	齊 藤 和 夫			
講 師 (非)	河 地 有 木 (量子科学技術研究開発機構)		講 師 (非)	山 口 充 孝 (量子科学技術研究開発機構)	

## ◎博士後期課程

<理工学府>

### 物質・生命理工学領域

教 授	博士 (工学)	浅 川 直 紀	教 授	博士 (理学)	住 吉 吉 英
〃	理学博士	浅 野 素 子	〃	博士 (理学)	園 山 正 史
〃	博士 (工学)	網 井 秀 樹	〃	博士 (工学)	高 橋 浩 浩
〃	博士 (医学)	井 上 裕 介	〃	工学博士	武 田 茂 樹
〃	博士 (理学)	上 原 宏 樹	〃	博士 (理学)	中 村 洋 介
〃	理学博士	海 野 雅 史	〃	理学博士	花 屋 実 実
〃	理学博士	奥 津 哲 夫	〃	博士 (理学)	藤 沢 潤 一
〃	工学博士	尾 崎 広 明	〃	博士 (農学)	松 尾 一 郎
〃	博士 (工学)	粕 谷 健 一	〃	博士 (工学)	村 岡 貴 子
〃	博士 (理学)	京 免 徹	〃	理学博士	山 本 隆 夫
〃	博士 (農学)	佐 藤 記 一	〃	Doctor of Science	Md. Zakir Hossain
〃	博士 (エネルギー科学)	白 石 壮 志			
准 教 授	博士 (工学)	岩 本 伸 司	准 教 授	博士 (工学)	橋 熊 野
〃	博士 (理学)	奥 浩 之	〃	博士 (理学)	行 木 信 一
〃	博士 (工学)	攪 上 将 規	〃	博士 (理学)	森 口 朋 尚
〃	博士 (工学)	覺 知 亮 平	〃	理学博士	山 路 稔
〃	博士 (理学)	下 赤 卓 史	〃	博士 (工学)	山 田 圭 一
〃	博士 (工学)	高 橋 剛	〃	博士 (工学)	吉 原 利 忠
〃	博士 (理学)	武 田 亘 弘	〃	工学博士	米 山 賢
客 員 教 授	博士 (工学)	阿 部 英 喜	客 員 教 授	博士 (工学)	山 本 洋 揮
〃	(理化学研究所)		〃	(量子科学技術研究開発機構)	
〃	理学博士	川 島 隆 幸	〃	Ph.D	Guanghai Ma
〃			〃	(中国科学院過程工程研究所)	
〃	博士 (工学)	瀬 古 典 明	〃	Ph.D	Wei Wei
〃	(量子科学技術研究開発機構)		〃	(中国科学院過程工程研究所)	
〃	博士 (工学)	田 口 光 正	〃	Ph.D	Jie Wu
〃	(量子科学技術研究開発機構)		〃	(中国科学院過程工程研究所)	
〃	博士 (工学)	沼 田 圭 司	〃	Ph.D	Xuehai Yan
〃	(京都大学大学院)		〃	(中国科学院過程工程研究所)	
〃	工学博士	前 川 康 成	〃	Ph.D	Songping Zhang
〃	(量子科学技術研究開発機構)		〃	(中国科学院過程工程研究所)	
〃	博士 (工学)	八 卷 徹 也			
〃	(量子科学技術研究開発機構)				

### 知能機械創製理工学領域

教 授	博士 (工学)	天 谷 賢 児	教 授	博士 (工学)	半 谷 禎 彦
〃	博士 (工学)	荒 木 幹 也	〃	博士 (工学)	藤 井 雄 作
〃	博士 (工学)	石 間 経 章	〃	博士 (工学)	古 畑 朋 彦
〃	博士 (工学)	岩 崎 篤	〃	博士 (工学)	丸 山 真 一
〃	博士 (工学)	荘 司 郁 夫	〃	博士 (工学)	山 口 誉 夫
〃	博士 (エネルギー科学)	鈴 木 孝 明	〃	博士 (工学)	山 田 功
〃	博士 (情報科学)	中 沢 信 明	〃	博士 (工学)	林 偉 民
准 教 授	博士 (工学)	井 上 雅 博	准 教 授	博士 (工学)	田 北 啓 洋
〃	博士 (工学)	川 島 久 宜	〃	博士 (工学)	田 中 有 弥
〃	博士 (工学)	小 山 真 司	〃	博士 (工学)	船 津 賢 人
〃	博士 (工学)	座 間 淑 夫	〃	博士 (工学)	村 上 岩 範
〃	博士 (工学)	鈴 木 良 祐	〃	博士 (学術)	Md Abdus Samad Kamal
客 員 教 授	博士 (工学)	岡 島 智 史	客 員 教 授	博士 (工学)	渡 邊 裕 彦
	(日本原子力研究開発機構)			(富士電機株式会社)	
	博士 (工学)	渡 壁 智 祥			
	(日本原子力研究開発機構)				

### 環境創生理工学領域

教 授	理学博士	板 橋 英 之	教 授	博士 (工学)	清 水 義 彦
〃	工学博士	尾 崎 純 一	〃	工学博士	中 川 紳 好
〃	博士 (工学)	小 澤 満 津 雄	〃	博士 (工学)	森 本 英 行
〃	博士 (工学)	桂 進 司	〃	博士 (工学)	若 井 明 彦
〃	博士 (工学)	金 井 昌 信	〃	博士 (工学)	渡 邊 智 秀
〃	博士 (工学)	河 原 豊			
准 教 授	博士 (工学)	石 井 孝 文	准 教 授	博士 (工学)	斎 藤 隆 泰
〃	博士 (工学)	伊 藤 司	〃	博士 (工学)	佐 藤 和 好
〃	博士 (工学)	鷗 崎 賢 一	〃	博士 (工学)	野 田 玲 治
〃	博士 (理学)	大 重 真 彦	〃	博士 (理学)	樋 山 み や び
〃	博士 (工学)	蔡 飛			
客 員 教 授	博士 (工学)	白 井 裕 三	客 員 教 授	Ph.D	Wei Ge
	(電力中央研究所)			(中国科学院過程工程研究所)	
〃	博士 (工学)	野 田 直 希	〃	Ph.D	Dan Wang
	(電力中央研究所)			(中国科学院過程工程研究所)	
〃	博士 (工学)	丹 野 賢 二			
	(電力中央研究所)				

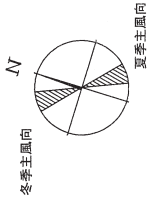
## 電子情報・数理領域

教 授	博士 (工学)	天 野 一 幸	教 授	博士 (理学)	高 橋 学
〃	博士 (工学)	尹 友	〃	博士 (理学)	田 沼 一 実
〃	博士 (工学)	奥 寛 雅	〃	博士 (工学)	中 野 眞 一
〃	博士 (工学)	尾 崎 俊 二	〃	博士 (工学)	長 尾 辰 哉
〃	博士 (工学)	加 藤 毅	〃	博士 (工学)	橋 本 誠 司
〃	博士 (工学)	後 藤 民 浩	〃	工学博士	花 泉 修
〃	博士 (工学)	櫻 井 浩	〃	博士 (工学)	三 浦 健 太
〃	博士 (工学)	嶋 田 香	〃	博士 (工学)	三 輪 空 司
〃	博士 (医学)	地 村 弘 二	〃	博士 (工学)	本 島 邦 行
〃	工学博士	関 庸 一	〃	博士 (工学)	弓 仲 康 史
	博士 (理学)	曾 根 逸 人		理学博士	渡 辺 秀 司
准 教 授	博士 (工学)	荒 木 徹	准 教 授	博士 (工学)	田 中 勇 樹
〃	博士 (情報学)	河 西 憲 一	〃	博士 (工学)	千 葉 明 人
〃	博士 (工学)	栗 田 伸 幸	〃	博士 (理学)	名 越 弘 文
〃	博士 (工学)	鈴 木 宏 輔	〃	博士 (理学)	引 原 俊 哉
〃	博士 (理学)	鈴 木 真 粧 子	〃	工学博士	藤 田 憲 悦
〃	博士 (理学)	高 橋 俊 樹	〃	博士 (理学)	宮 崎 隆 史
〃	博士 (工学)	高 橋 佳 孝	〃	博士 (理学)	守 田 佳 史
客 員 教 授	理学博士	岩 崎 富 生	客 員 教 授	博士 (工学)	高 井 伸 和
	((株) 日立製作所)			(京都工芸繊維大学)	
〃	理学博士	孝 橋 照 生	〃	工学博士	原 田 研
	((株) 日立製作所)			(理化学研究所)	
〃	理学博士	齊 藤 和 夫			
	((株) 日立製作所)				

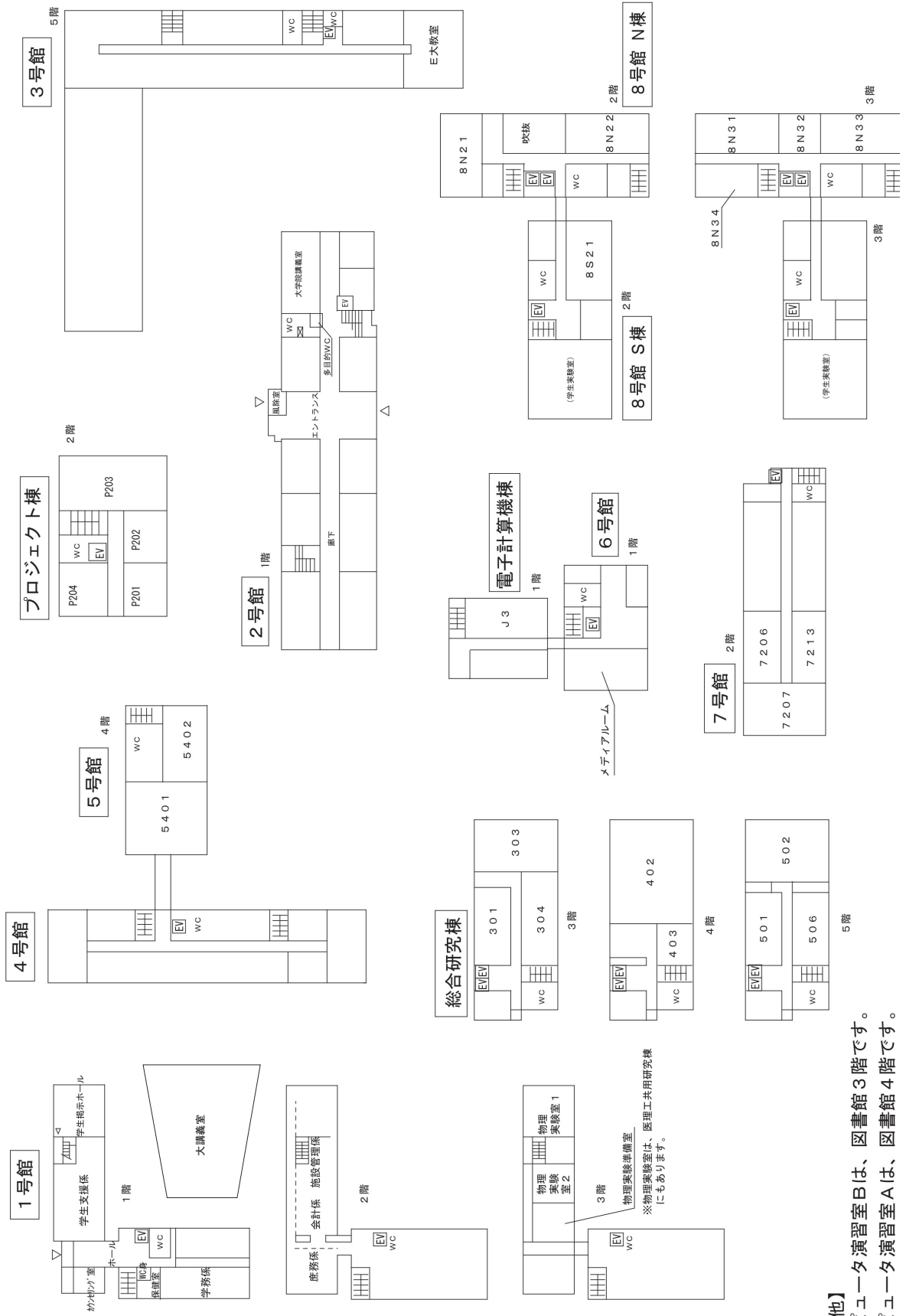
## 学府共通専門科目等

講師 (非)	伊 藤 大 輔	講師 (非)	針ヶ谷 文子
	(日本プロジェクトソリューションズ株式会社)		(メリットメディカル・ジャパン株式会社)
〃	佐 藤 和 浩	〃	田 沼 守
	(群馬工業高等専門学校)		(株式会社ミツバ)
〃	科 部 元 浩	〃	藤 縄 祐
	(株式会社ネクストフィールド)		(群馬大学研究・産学連携推進機構)
〃	杉 本 ゆ かり	〃	大 和 啓 子
	(オフィスルーチェ)		(群馬大学国際センター)
〃	鈴 木 道 子	〃	渡 邊 知 积
			(群馬大学国際センター)
〃	田 浦 久 美 子		
	(群馬大学研究・産学連携推進機構)		

# 群馬大学理工学部 桐生キャンパス 配置図

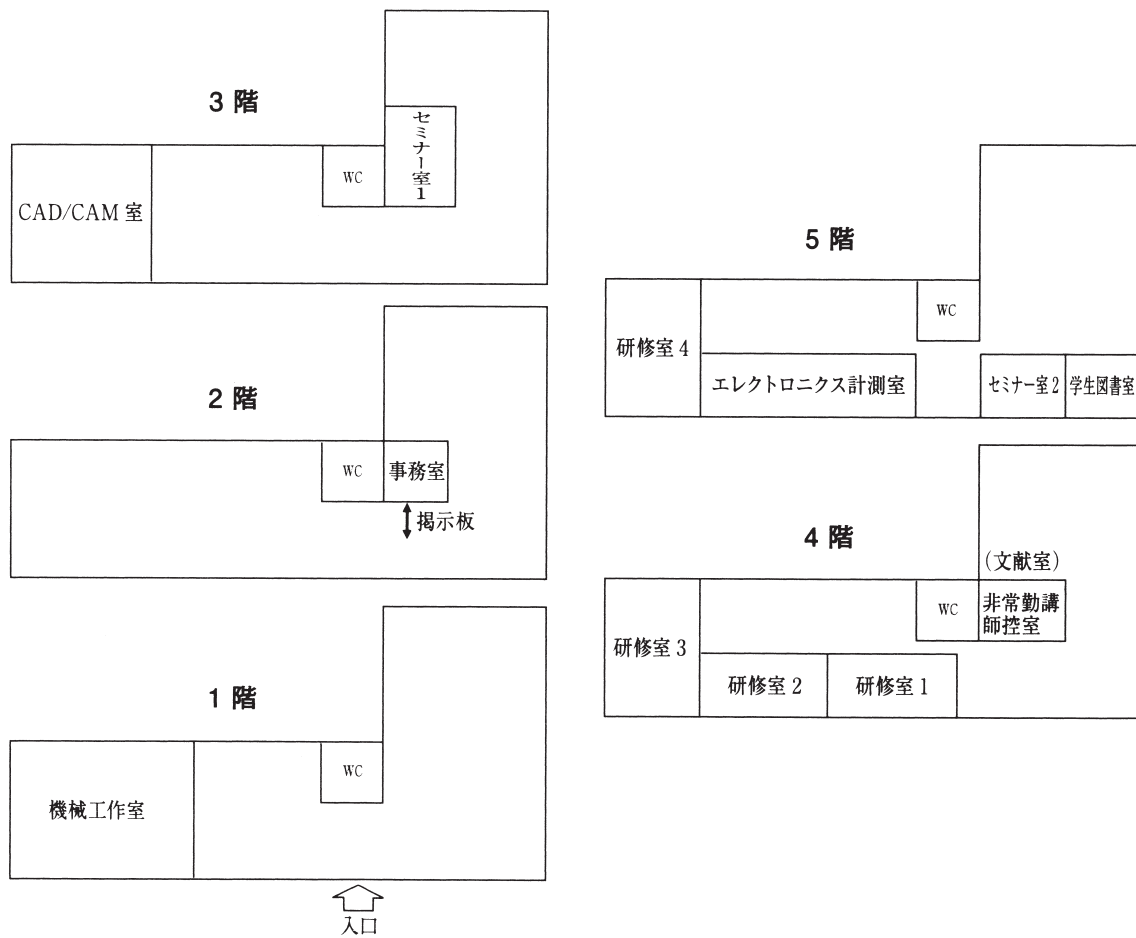


# 理工学部教室配置図 (桐生地区)



**【その他】**  
 コンピュータ演習室Bは、図書館3階です。  
 コンピュータ演習室Aは、図書館4階です。

## 理工学部教室配置図 (太田地区)



**理工学府要覧** (2024 年度入学者用)

発行者 〒 376-8515 桐生市天神町一丁目 5 番 1 号

群馬大学大学院理工学府

入試・大学院係

TEL : 0277-30-1037/1039

FAX : 0277-30-1061

E-MAIL : [kk-kogaku6@ml.gunma-u.ac.jp](mailto:kk-kogaku6@ml.gunma-u.ac.jp)